

送水管布設替工事に伴う

鬼虎川遺跡第64次発掘調査報告

2009. 3

東大阪市教育委員会

送水管布設替工事に伴う

鬼虎川遺跡第64次発掘調査報告

2009. 3

東大阪市教育委員会

はしがき

本調査地周辺では、西石切交差点における国道170号線の立体交差事業により、道路の拡幅工事と送水管の布設替工事が行われて来ました。今回、布設替が完了した送水管の接続工事が行われる事となりました。

鬼虎川遺跡は、これまでの発掘調査によって、弥生時代前～中期の撲点集落跡であることが確認されています。また、本遺跡は旧石器時代から現在に至るまで、食物の獲得地・集落・生産地であることがわかっています。当遺跡はほとんど人跡の途絶えたことがありません。

今回の調査では集落の状況等を確認することはできませんでしたが、弥生時代中期の土器が多量に出土しました。

本書の内容は、地域史解明の一助になるものと思っています。

現地調査および遺物整理・報告書作成にあたってご協力・ご教示を賜った関係諸機関・諸氏に感謝するとともに、今後一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成21年3月

東大阪市教育委員会

例　　言

1. 本書は送水管設替工事に伴う鬼虎川遺跡第64次発掘調査の報告書である。
 2. 調査地は大阪府東大阪市西石切町七丁目1番地、弥生町17番地、宝町23番地である。
 3. 第64次調査は大阪府水道部東部水道事業所の依頼を受けて、東大阪市教育委員会文化財課が実施した。
 4. 調査にかかる費用は全額大阪府水道部東部水道事業所が負担・用意した。
 5. 調査は平成19年12月25日から平成20年8月18日まで発掘調査を行ない、遺物整理および報告書作成作業は平成21年3月31日まで実施した。
 6. 調査は若松博恵・武田雄志・成瀬光一が担当し、遺物整理については主に武田が行なった。
 7. 残上假置き場での遺物精査作業は安西工業株式会社、遺物写真はエイチ・エス写真技術株式会社に委託して実施した。
 8. 本書はIを若松、II～IVを武田が執筆し、武田が編集した。
 9. 現地の土色及び土器等の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』(2000年版)に準拠し、記号表記もこれに従った。
 10. 調査及び報告書作成にあたっては下記の方々のご協力・ご教示を賜った。記して謝意を表します（敬称略・順不同）。
- 大阪府水道部東部水道事業所、住吉七木興業株式会社、安西工業株式会社

本文目次

I. 調査に至る経過.....	1
II. 位置と環境.....	2
III. 調査の概要.....	5
1. 調査の方法と経過.....	5
a. 調査の方法	5
b. 整理等作業経過	5
2. 調査内容.....	7
a. 層位	7
b. 遺物	10
IV. まとめ.....	69

挿図目次

第1図 各次数調査地位置図.....	1
第2図 遺跡周辺図.....	3
第3図 各調査トレンチ位置図.....	6
第4図 各調査地点土層断面図.....	8
第5図 II - 1 層出土遺物実測図.....	11
第6図 II - 1 層出土遺物実測図.....	12
第7図 II - 1 層出土遺物実測図.....	13
第8図 II - 1 層出土遺物実測図.....	14
第9図 II - 2 層出土遺物実測図.....	16
第10図 II - 2 層出土遺物実測図.....	17
第11図 II - 2 層出土遺物実測図.....	18
第12図 II - 3 層出土遺物実測図.....	20
第13図 II - 3・4 層出土遺物実測図.....	21
第14図 II 地区出土土器拓影.....	23
第15図 II 地区出土土器拓影.....	24
第16図 II 地区出土上製品実測図.....	25
第17図 II 地区出土石器・角製品実測図.....	26
第18図 III - 1 層出土遺物実測図.....	28
第19図 III - 1 層出土遺物実測図.....	29
第20図 III - 2 層出土遺物実測図.....	30
第21図 III - 3 層出土遺物実測図.....	31
第22図 III 地区出土土器拓影.....	32
第23図 III 地区出土土製品・石器実測図.....	33

表 目 次

第1表 鬼虎川遺跡調査一覧	4
第2表 64次I地区・38次層位対応表	9
第3表 64次II地区・62次層位対応表	9
第4表 64次III地区・58次層位対応表	9
第5表 出土遺物観察表	35～68

図 版 目 次

図版1 遺構	1. I地区 調査地遠景（北東から） 2. I地区 北側西壁土層断面
図版2 遺構	1. I地区 南側西壁土層断面 2. 残上假置き場（東から）
図版3 遺構	1. II地区 調査地遠景（北東から） 2. II地区 遺物精査作業風景（東から）
図版4 遺構	1. III地区 調査地遠景（北から） 2. III地区 遺物精査作業風景（東から）
図版5 遺物	II-2層出土弥生土器 鉢・壺蓋、II-3層出土弥生土器 鉢
図版6 遺物	1. II-1層出土弥生土器 壺 2. II-1層出土弥生土器 壺
図版7 遺物	1. II-1層出土弥生土器 壺 2. II-1層出土弥生土器 壺・長頸壺・無頸壺
図版8 遺物	1. II-1層出土弥生土器 壺 2. II-1層出土弥生土器 壺
図版9 遺物	1. II-1層出土弥生土器 壺 2. II-1層出土弥生土器 壺
図版10 遺物	1. II-1層出土弥生土器 壺 2. II-1層出土弥生土器 壺
図版11 遺物	1. II-1層出土弥生土器 壺・鉢 2. II-1層出土弥生土器 鉢
図版12 遺物	1. II-1層出土弥生土器 高杯・蓋 2. II-1層出土弥生土器 底部
図版13 遺物	1. II-1層出土弥生土器 底部 2. II-1層出土弥生土器 底部
図版14 遺物	1. II-2層出土繩文土器 深鉢・弥生土器 壺 2. II-2層出土弥生土器 壺・細頸壺

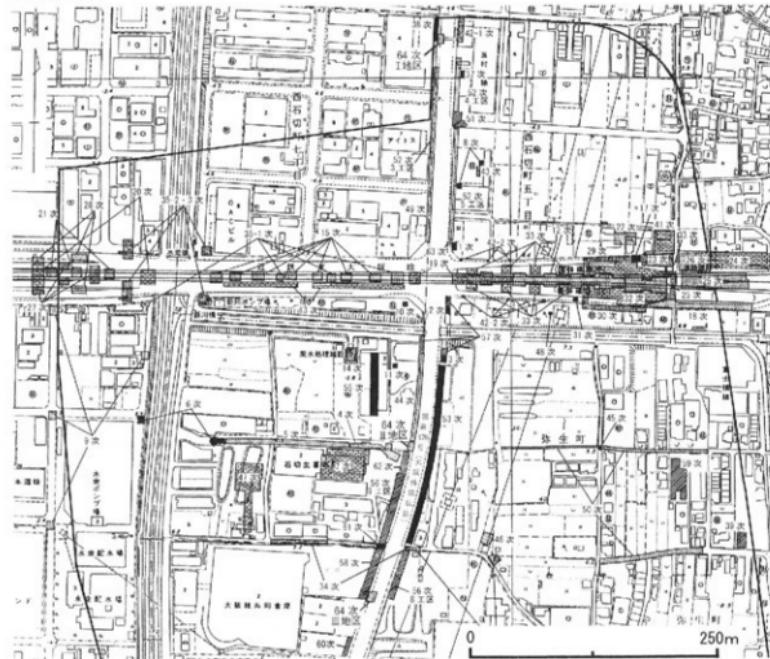
- 图版15 遗物 1. II - 2 层出土弥生土器 壶
2. II - 2 层出土弥生土器 無頸壺・細頸壺・甕
- 图版16 遗物 1. II - 2 层出土弥生土器 甕
2. II - 2 层出土弥生土器 甕
- 图版17 遗物 1. II - 2 层出土弥生土器 甕
2. II - 2 层出土弥生土器 甕
- 图版18 遗物 1. II - 2 层出土弥生土器 甕・鉢
2. II - 2 层出土弥生土器 高杯・甕蓋
- 图版19 遗物 1. II - 2 层出土弥生土器 底部
2. II - 2 层出土弥生土器 底部
- 图版20 遗物 1. II - 3 层出土弥生土器 壺
2. II - 3 层出土弥生土器 甕
- 图版21 遗物 1. II - 3 层出土弥生土器 甕
2. II - 3 层出土弥生土器 甕
- 图版22 遗物 1. II - 3 层出土弥生土器 甕・小型鉢・鉢
2. II - 3 层出土弥生土器 鉢
- 图版23 遗物 1. II - 3 层出土弥生土器 高杯・蓋・底部
2. II - 4 层出土弥生土器 無頸壺・壺・甕
- 图版24 遗物 1. II 地区出土弥生土器文様
2. II 地区出土弥生土器文様
- 图版25 遗物 1. II 地区出土弥生土器文様
2. II 地区出土弥生土器文様
- 图版26 遗物 1. II 地区出土弥生土器文様
2. II 地区出土弥生土器文様
- 图版27 遗物 1. II 地区出土弥生土器文様
2. II 地区出土弥生土器文様
- 图版28 遗物 1. II 地区出土土製品 (表)
2. 同上 (裏)
- 图版29 遗物 1. II 地区出土石器 (表)
2. 同上 (裏)
- 图版30 遗物 1. II - 2 层出土角製品
2. II - 1 层出土角未成品
- 图版31 遗物 1. III - 1 层出土弥生土器 壺
2. III - 1 层出土弥生土器 壺
- 图版32 遗物 1. III - 1 层出土弥生土器 壺・水差形土器
2. III - 1 层出土弥生土器 甕
- 图版33 遗物 1. III - 1 层出土弥生土器 甕
2. III - 1 层出土弥生土器 鉢
- 图版34 遗物 1. III - 1 层出土弥生土器 高杯
2. III - 1 层出土弥生土器 蓋・底部

- 図版35 遺物 1. III - 1 層出土弥生土器 底部
2. III - 2 層出土弥生土器 壺・甕・鉢
- 図版36 遺物 1. III - 2 層出土弥生土器 鉢・蓋・底部
2. III - 2 層出土弥生土器 高杯
- 図版37 遺物 1. III - 3 層出土弥生土器 壺・無頸壺・甕
2. III - 3 層出土弥生土器 甕
- 図版38 遺物 1. III - 3 層出土弥生土器 高杯・鉢
2. III 地区出土弥生土器文様
- 図版39 遺物 1. III 地区出土弥生土器文様
2. III 地区出土弥生土器文様
- 図版40 遺物 1. III 地区出土弥生土器文様
2. III - 2 層出土縄文土器 深鉢、III 地区出土弥生土器文様
- 図版41 遺物 1. III 地区出土土製品、石器（表）
2. 同上（裏）

I. 調査に至る経過

鬼虎川遺跡は、旧石器時代から江戸時代にわたる複合遺跡であるが、とくに弥生時代中期の拠点集落として周知され、1975年以降、63次におよぶ発掘調査が行なわれている。これまでの調査において、縄文時代では、前期の縄文海進による海食崖および前期から中期の縄文土器・石器と多くの動物遺存体が出土した。弥生時代は多数の遺構・遺物が確認されている。前期では大溝と縄文時代晚期の突帯文土器・弥生土器・石器がある。中期には複数の周濠を有する環濠集落が形成され、方形周溝墓・土坑墓・多数の柱穴・土坑・溝・貝塚などの遺構や多量の弥生土器・石器・木製品・土製品が出土している。とくに銅鐸・銅鏡・銅嵌・銅劍鋒型の出土は青銅器製品の供給地であったことを示している。後期は集落が縮小し、遺構・遺物の出土量は減少する。古墳時代になると集落の中心は南部に移動し、後期には東北部に営まれていたようであるが、規模は大きくなない。飛鳥時代以降は生産地化して遺構・遺物の出土は希薄となるが、条里制に伴う溝、道、耕作跡、掘り上げ田の片路・耕作跡などが検出されている。

1994年の試掘調査以来、一般国道170号線東西石切立体交差事業に伴う発掘調査を昨年度まで行った。今年度は、国道170号線（外環状線）中央に布設されている水道管と西拡幅部に新設された水道管との南北2箇所の接続部および未接続箇所1箇所の工事が計画された。当該地が弥生時代の集落の中心および縁辺地にあたることから、事業者である大阪府水道部東部水道事業所と協議に入り、調査を実施した。



第1図 各次数調査地位置図

II. 位置と環境

鬼虎川遺跡は生駒山の西麓、標高4～8mの扇状地末端部から沖積平野にかけて広がり、現在の東大阪市弥生町・西石切町・宝町・新町一帯に位置する旧石器時代から江戸時代にわたる複合遺跡である。本遺跡を二分するように国道170号線（大阪外環状線）がほぼ南北に走り、その北部で国道308号線が直交して延びる。その中央分離帯には近畿日本鉄道けいはんな線、阪神高速道路東大阪線、第二阪奈有料道路連絡道が内包されている。西部には南から北方向に流れる恩智川があり、東からそれに注ぎ込む新川などの川がある。50年程前までは小集落が点在し、掘り上げ田などの田園が拡がる長閑な地域であった。しかし、現在は住宅・工場・会社・病院などが建ち並び、水田・畠地はほとんど見ることはできない。

本遺跡は弥生時代中期を中心とした集落跡としてよく知られているが、人跡は旧石器時代にまで遡る。東接する西ノ辻遺跡をはじめ、千手寺山遺跡・正興寺山遺跡・山畠遺跡など、集落について不明な点は多いがナイフ型石器・翼状剥片が出土している。

縄文時代の遺跡は山麓部から段丘・扇状地上などに点在する。草創期の遺構は確認されていないが、草香山遺跡で有舌尖頭器が出土しており、その存在が窺える。早期は神並遺跡・日下遺跡・山畠遺跡などがある。神並遺跡では炉跡・集石造構を検出し、多くの押型文土器とともに石器・土偶が出土している。前期と中期の遺跡はそれほど顕著ではなく、特に前期は海面の上界が著しい（縄文海進）ことから不明な点が多い。本遺跡東部などでこの海食崖とともに前期・中期の土器が出土しており、この時期の集落の存在を窺える。他に善根寺山遺跡・縄手遺跡・馬場川遺跡などで中期の土器が出土している。縄手遺跡では後期の住居跡・配石遺構が検出され、それに伴って土器・石器などが出土している。他には日下遺跡・芝ヶ丘遺跡・神並遺跡・鬼塚遺跡・馬場川遺跡などで遺構・遺物が確認されているほか、本遺跡でもこの時期の土器が出土している。晚期になると宮ノ下遺跡などで集落が形成され、日下遺跡・鬼塚遺跡・馬場川遺跡などはこの時期も集落が営まれていた。日下遺跡では貝塚・墓地が検出されており、当時の生活・墓制を知るうえで貴重な資料である。

弥生時代になると集落形成は主に平野部に移る。前期は本遺跡中央部や東接する植附遺跡・中垣内遺跡・山賀遺跡などから土器が出土しており、点在していたことが窺える。本遺跡西端から西接する水走遺跡にまたがって縄文晩期の上器と前期の上器を包含した貝塚が検出された。晚期から前期の土器様相を知る上でその役割は大きい。中期になると本遺跡は最盛期を迎える。数条の大溝を伴う集落が営まれ、貝塚や方形周溝墓なども造られる。また、土器・石器・木製品などが大量に出土しており、本遺跡が大集落であったことが窺える。この状況は瓜生堂遺跡でも同様に見られる。後期になると集落は小規模になり、西ノ辻遺跡・鬼塚遺跡・段上遺跡・上六万寺遺跡などの平野部の集落と、山畠遺跡・岩滝山遺跡など山麓部に高地性集落が営まれるようになる。

古墳時代前期には、五合山遺跡・西岩田遺跡など各地で土師器が出土していることから、集落が点在していた。しかし、現在、本市では前期の大型古墳は確認されていない。中・後期になると植附遺跡・芝ヶ丘遺跡・神並遺跡・西ノ辻遺跡・山畠遺跡・市尻遺跡などとともに本遺跡北部でも集落が営まれる。この頃には塚山古墳・えの木塚古墳・客坊山1号墳などの古墳が築かれるようになる。山麓部では山畠古墳群・花草山古墳群・客坊山古墳群・神並古墳群・出雲井古墳群などの群集墳が築かれ、植附遺跡・段上遺跡・巨摩庵寺遺跡などの平野部に小型低丘墳が築かれる。後期には五重山古墳群など、小規模ではあるが山麓部を中心に数多く見られるようになる。

飛鳥・奈良時代では仏教の受容を反映するかのように若江寺・河内寺・法通寺・石凝寺、やや後出

する客坊廃寺などの寺院が建立された。本遺跡や西ノ辻遺跡・神並遺跡・鬼塚遺跡などでは掘立柱建物・井戸・溝から、須恵器・土師器・墨書き器などが出土した。また、この時期の集落・耕作関連の遺構が検出されている。

平安時代前期から中期には西ノ辻遺跡・神並遺跡などで掘立柱建物跡などの集落跡が多く見られ、国産の緑釉陶器や中国製の青磁などが出土している。特に西ノ辻遺跡や神並遺跡の出土遺物は、法通寺に関係する富裕層の集落であった可能性がある。平安時代後期から鎌倉時代にかけてこれらの集落の周辺では、耕作地の拡大と生産量の増大のため、広範囲にわたって整地が見られる。水走遺跡ではこの時期に堰・堤防を設けて大掛かりな土地開発を行なうとともに、大溝を作り集落も形成された。南北朝期を含む室町時代には西ノ辻遺跡をはじめ、のちの暗峠越奈良街道・東高野街道などの道路沿いなどに村落が営まれ、その状況はほとんど江戸時代以降まで存続した。また、この時期に平野部の若江城を中心として客坊城・往生院城などの城が数多く築造されたが、安土・桃山時代までは廃絶または城としての機能をなくしてしまった。江戸時代には大和川の付け替え工事が行なわれたことにより、平野部における生産域の状況を一変させた。また、河川や池は埋め立てられ田畠が整備された。本遺跡西部域ではいわゆる掘り上げ田が形成された。



第2図 遺跡周辺図 (1/25000)

第1表 鬼虎川遺跡調査一覧

III. 調査の概要

1. 調査の方法と経過

a. 調査の方法

今回の調査地は3ヶ所に別れ、国道170号線拡幅予定地の西歩道と拡幅域にあたる。調査は便宜上、北からⅠ地区、Ⅱ地区、Ⅲ地区と地区割りをしたうえで、調査を開始した。平成20年7月1日から8月18日まで現地での調査を実施した。調査対象面積は458m²である。調査にあたって関係各位との協議の結果、昼間に工事を行うⅠ地区については、掘削時の立会において土層断面図の作成を行うことになった。また、Ⅱ地区については工事が夜間に実施されることになった。立会をすることができなかった。当地区は弥生時代の良好な遺物包含層があることが既調査で確認されている。調査は現地表下4.0～5.2mの間は30cmごとに人力で掘削し、遺物を取り上げた。掘削した上は残土仮置き場に集め、さらに遺物精査を実施した。Ⅲ地区はⅡ地区と同様に工事が夜間に実施されるため、弥生時代の良好な遺物包含層がある現地表下4.0～4.9mの間は30cmごとに掘削し、残土仮置き場にて同様の作業を実施した。

以下、調査日誌より経過を抄録する。

<調査日誌抄>

- 7月1日 調査地（Ⅰ地区）の機械掘削開始。
7月3日 1段目支保工の設置。
7月10日 Ⅲ地区の機械掘削工事開始（夜間）。
7月11日 調査地南側の西壁土層断面図を作成。
 残土仮置き場にてⅢ地区残土より遺物精査作業の開始。
7月15日 調査地北側の西壁土層断面図を作成。
7月17日 Ⅲ地区残土からの遺物精査作業の終了。
7月26日 Ⅱ地区の機械掘削工事開始（夜間）。
8月7日 残土仮置き場にてⅡ地区残土より遺物精査作業の開始。
8月18日 Ⅱ地区残土からの遺物精査作業の終了。調査完了。

b. 整理等作業経過

調査終了後に出土遺物の洗浄と出土遺物台帳の作成及び接合作業を実施した。その後、報告書刊行に向けて必要な遺物を層位ごとに選出し、石膏復元及び実測図の作成を実施した。

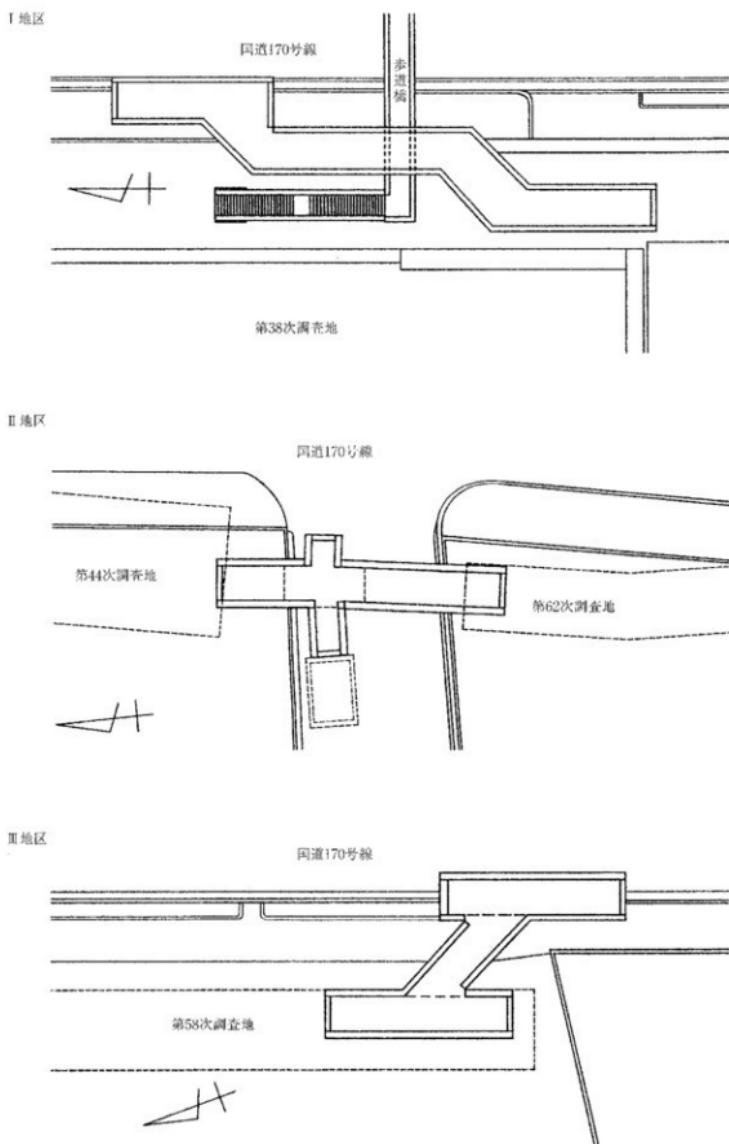
報告書の体裁は、平成19年度の『鬼虎川遺跡第62・63次発掘調査報告』に準拠した。

出土遺物は地区別の各層位ごとにレイアウトし、トレース、遺物版下を作成した。層位も同様にトレース、版下を作成した。

出土遺物の写真は業者に委託して撮影し、選択した写真を含め焼付けしたのち写真版下を作成した。

遺物等の主要原稿・版下等の完成後、月次・総括・報告書抄録等を加えて編集し、印刷会社へ渡した。

報告書原稿・版下等の校了後、資料管理のための遺物、図面等の登録に着手した。



第3図 各調査トレンチ位置図 (1/250)

2. 調査内容

a. 層位

今回の調査ではⅠ地区のみ土層を観察することができた。Ⅱ・Ⅲ地区の土層については残土仮置き場で観察した略測図のため、層厚は不明である。また工事内容等の理由により、隣接する調査地との上層の統一ができなかった。そのため各調査地の相関関係を表2～4に示しておく。

Ⅰ地区

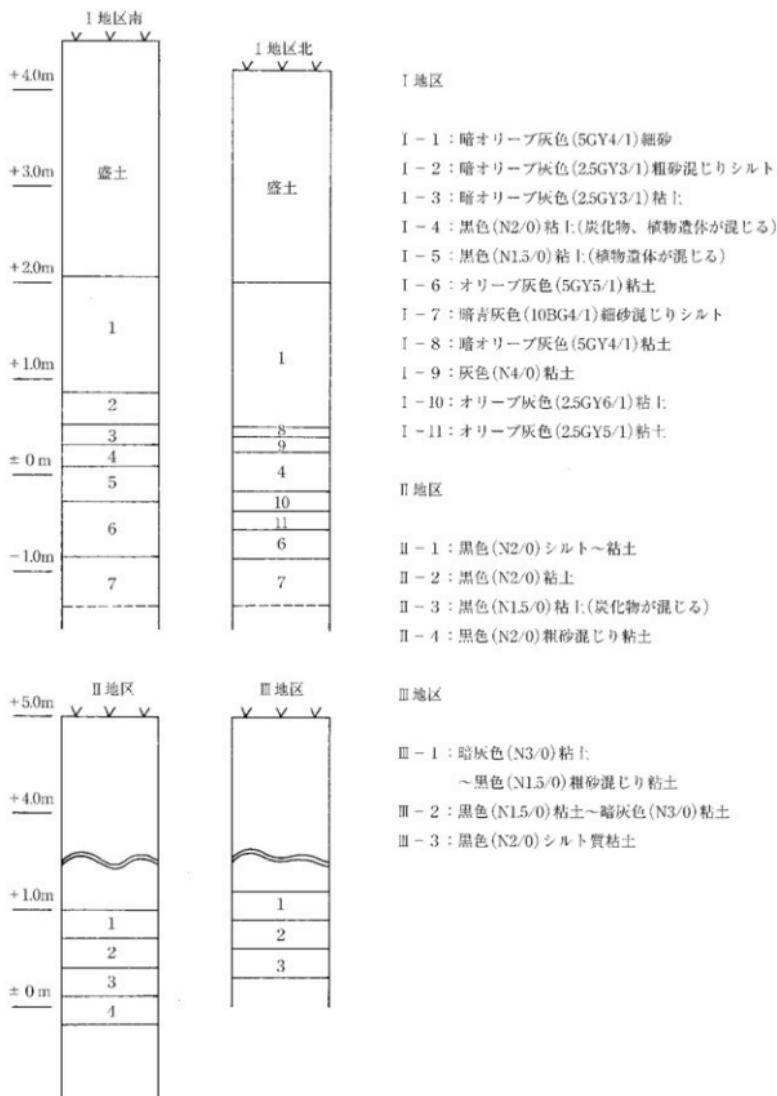
- 第I-1層 暗オリーブ灰色（5GY4/1）細砂。層厚120～150cm。
第I-2層 暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）粗砂混じりシルト。層厚30cm。南側に堆積する。
第I-3層 暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）粘土。層厚20cm。南側に堆積する。
第I-4層 黒色（N2/0）粘土（炭化物、植物遺体が混じる）。層厚20～40cm。
第I-5層 黒色（N1.5/0）粘土（植物遺体が混じる）。層厚40cm。南側に堆積する。
第I-6層 オリーブ灰色（5GY5/1）粘土。層厚60cm。
第I-7層 暗青灰色（10BG4/1）細砂混じりシルト。層厚70cm以上。
第I-8層 暗オリーブ灰色（5GY4/1）粘土。層厚10cm。北側に堆積する。
第I-9層 灰色（N4/0）粘土。層厚15cm。北側に堆積する。
第I-10層 オリーブ灰色（2.5GY6/1）粘土。層厚20cm。北側に堆積する。
第I-11層 オリーブ灰色（2.5GY5/1）粘土。層厚20cm。北側に堆積する。

Ⅱ地区

- 第II-1層 黒色（N2/0）シルト～粘土。
第II-2層 黒色（N2/0）粘土。
第II-3層 黒色（N1.5/0）粘土（炭化物が混じる）。
第II-4層 黒色（N2/0）粗砂混じり粘土。

Ⅲ地区

- 第III-1層 暗灰色（N3/0）粘土～黒色（N1.5/0）粗砂混じり粘土。
第III-2層 黒色（N1.5/0）粘土～暗灰色（N3/0）粘土。
第III-3層 黒色（N2/0）シルト質粘土。



第4図 各調査地点上層断面図

第2表 64次I地区・38次層位対応表

時代・時期	土層構成	64次I地区南	64次I地区北	38次(主な遺構)
現代	耕作土	機械掘削		1層
近代	耕作土			2~4層
江戸	耕作土			5~6層(井路)
室町～江戸	堆積層			25~29層
室町	耕作土			31~32層(足跡)
	堆積層	I-1層	I-1層	33~34層(足跡)
	砂礫層			35層(落ち込み)
鎌倉～室町	堆積層			43~45層(足跡)
鎌倉	耕作土	I-2層		46~48層(足跡)
奈良～平安	堆積層	I-3・4層	I-8・9層	48~51層
古墳	堆積層		I-4層	52~53層
弥生中期～後期	堆積層	I-5層	I-10・11層	54層
弥生中期以前	堆積層	I-6・7層	I-6・7層	55~56層

第3表 64次II地区・62次層位対応表

時代・時期	土層構成	64次II地区	62次(主な遺構)
現代	盛土		盛上・1・2層
近代	耕作土・床土		3層(井路・大溝)
江戸	耕作土・整地土		4層
室町			5層
鎌倉	堆積層	機械掘削	6層
平安	堆積層		7層(溝)
奈良～平安	堆積層		8層(足跡・溝)
奈良	堆積層		9層
飛鳥～奈良	堆積層		10層(足跡・溝)
飛鳥	堆積層		11層(溝)
古墳	堆積層		12層(足跡・溝・上坑)
弥生後期	整地土	II-1層	13層
弥生中期末	整地土		14層
弥生中期中葉～後葉	堆積層	II-2層	15層(土坑)
弥生中期前葉	堆積層	II-3層	16層(大溝・溝・土坑・ピット)
弥生前期後半	堆積層	II-4層	17層(土坑・ピット)
弥生前期前半～中期	堆積層		18層
縄文晩期以前	堆積層		19層
			20層
			21~23層

第4表 64次III地区・58次層位対応表

時代・時期	土層構成	64次III地区	58次(主な遺構)
現代	盛土		盛土・1・2層
近代	耕作土・床土		3層(井路・大溝)
江戸	整地土		4層(流路・溝・上坑・ピット)
室町	整地土		5層(流路・土坑・溝・ピット)
鎌倉	整地土・堆積層	機械掘削	6層(流路・溝・ピット・足跡)
平安	整地土		7・8層(溝・流路・ピット)
奈良～平安	整地土		9層(溝)
古墳後半～奈良	整地土		10層(溝・落ち込み・ピット)
古墳後半	堆積層		11層(溝・落ち込み・ピット)
古墳後半	整地土		12層(落ち込み・足跡)
古墳前半	堆積土	III-1層	13層
			14~15層
弥生中期末～後期	整地土	III-2層	16層(大溝・土坑)
弥生中期中葉～後半	整地土		17層(土坑・ピット)
弥生中期中葉～後半	整地土		17層(大溝・溝・上坑・ピット)
弥生前期末～中期前半	整地土	III-3層	18層(大溝・溝・土坑・ピット)
弥生前期後半～末	堆積層・粘土		19~20層(ピット・溝・土坑)
弥生前期後半～	堆積層		21層(溝・土坑・ピット)
弥生前期前半～	堆積層		22~24層(溝・上坑)
弥生前期前半以前	堆積層		25層(溝・ピット)
縄文晩期以前	堆積層		26~36層

b. 遺物

縄文時代一弥生時代の遺物が出土した。遺物は土器、土製品、石器、骨角器がある。ほとんどが弥生土器である。弥生土器はⅠ～Ⅳ様式に分類する。Ⅲ様式とⅣ様式の土器は明確に分類できないのでⅢ～Ⅳ様式として扱う。Ⅱ～Ⅳ様式に分類できないものは中期と記す。調整法は最終調整のみを記す。口縁部と裾端部のヨコナデ調整は普遍的なのであえて記さない。

II 地区出土遺物

II-1 層出土弥生土器（第5～8図 1～115）

壺、甕、鉢、高杯、蓋、底部がある。

1～28は壺である。1～20は口縁部が大きく外反する。口縁端部が丸く終わるものと面を持つものがある。面を持つものが多い。4～6は口縁端部に刻み目、20は櫛描波状文を施す。外面はヘラミガキ調整するものが多く、他にナデ調整とハケメ調整するものがある。内面はナデ調整するものが多く、他にハケメ調整するものとヘラミガキ調整するものがある。21～24は口縁部が大きく外反し、口縁端部は面を持つ。21～23は口縁端部を下方へ拡張し、24は上下へ拡張する。口縁端部に櫛描文様や刻み目を施すものがある。23は頸部に櫛描文様を施す。22の外面はヘラミガキ調整する。内面はナデ調整する。1～20はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。2・8・10・15・23は非河内産、他は生駒西麓産。

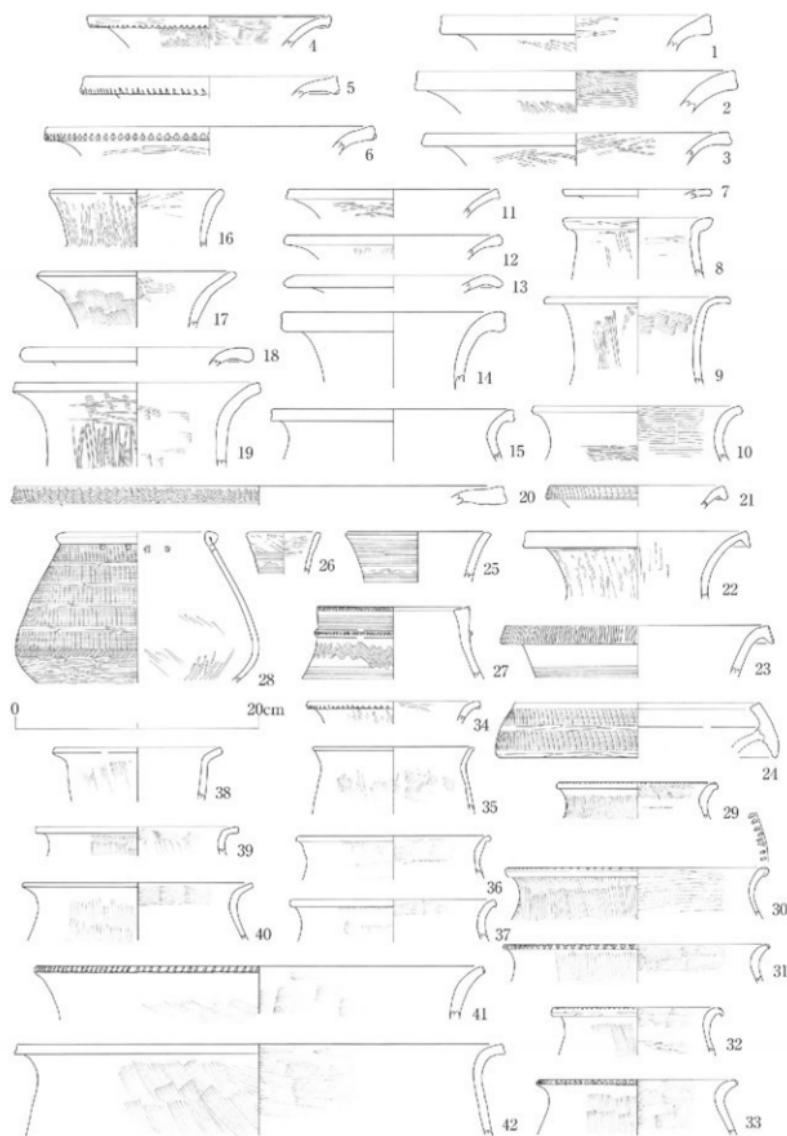
25・26は長頸壺である。口縁部は大きく外反し、口縁端部はやや面を持つ。外面は櫛描文様を施す。内面はナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

27・28は無頸甕である。体部が内傾して立ち上がる。27は口縁端部が内側へ肥厚し、面を持つ。口縁部に櫛描文様と貼り付け突帯を施す。口縁端部と突帯上に刻み目を施す。内面はナデ調整する。28は口縁部が強く外反し、口縁端部は面を持つ。口縁部直下に2個1対の孔を穿つ。体部外面に櫛描文様を施す。体部下半はヘラミガキ調整する。内面はナデ調整とヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。27は非河内産、28は生駒西麓産。

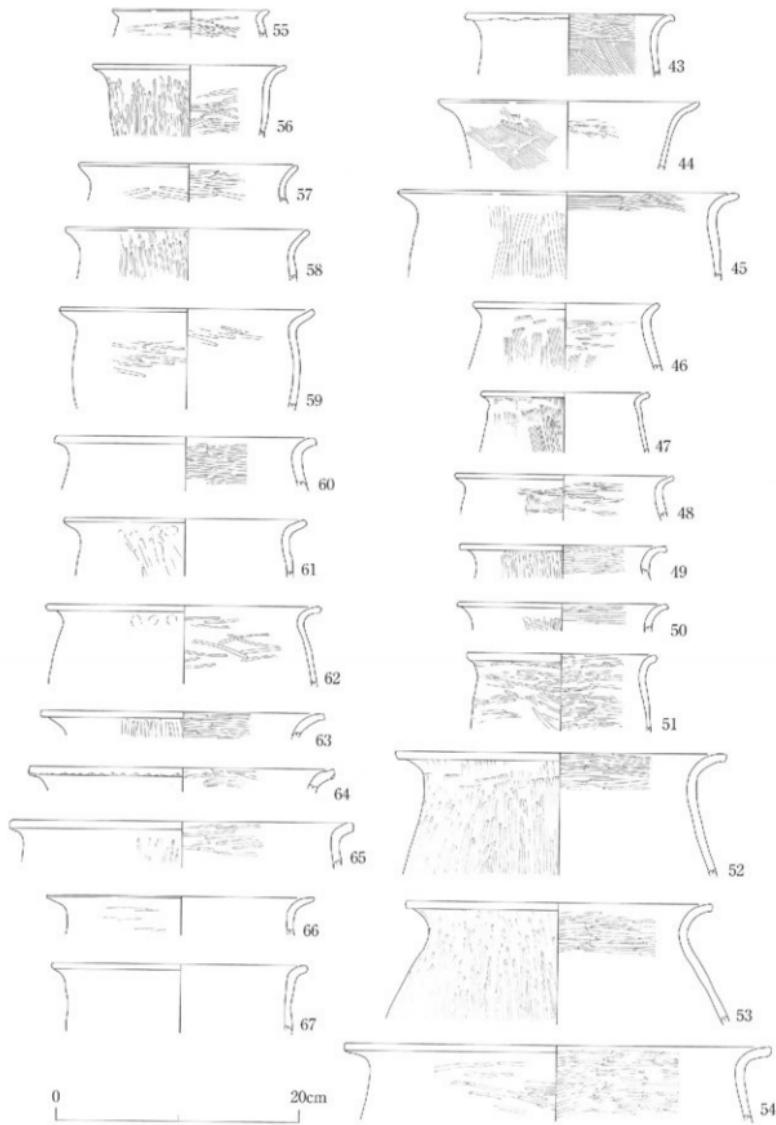
29～77は甕である。29～67は体部の張りが少なく、口縁部はゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。面を持つものが多い。口縁端部に刻み目を施すものが少量ある。外面をハケメ調整するものが多く、他にナデ調整やヘラミガキ調整するものがある。68～77は体部の張りが大きく、口縁部は強く外反し、口縁端部は面を持つ。71は口縁端部を上方へ摘み上げる。外面はハケメ調整するものが多く、他にナデ調整やヘラミガキ調整するものがある。29～67はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。29～37・39・40・47・49～51・61・63・68・72は非河内産、他は生駒西麓産。

78～88は鉢である。78～83は体部が外上方へ立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。79は口縁端部に刻み目を施す。80・86・87は体部外面に櫛描文様を施す。外面はヘラミガキ調整するものが多い。82はハケメ調整する。内面はナデ調整するものが多く、他にハケメ調整やヘラミガキ調整するものがある。84～88は口縁端部が面を持つ。85は口縁部が強く外反する。84は口縁端部に刻み目を施す。外面は櫛描文様を施すものが多い。他に無文ものもある。内面はナデ調整するものがあり、他にハケメ調整やヘラミガキ調整するものもある。78～83はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

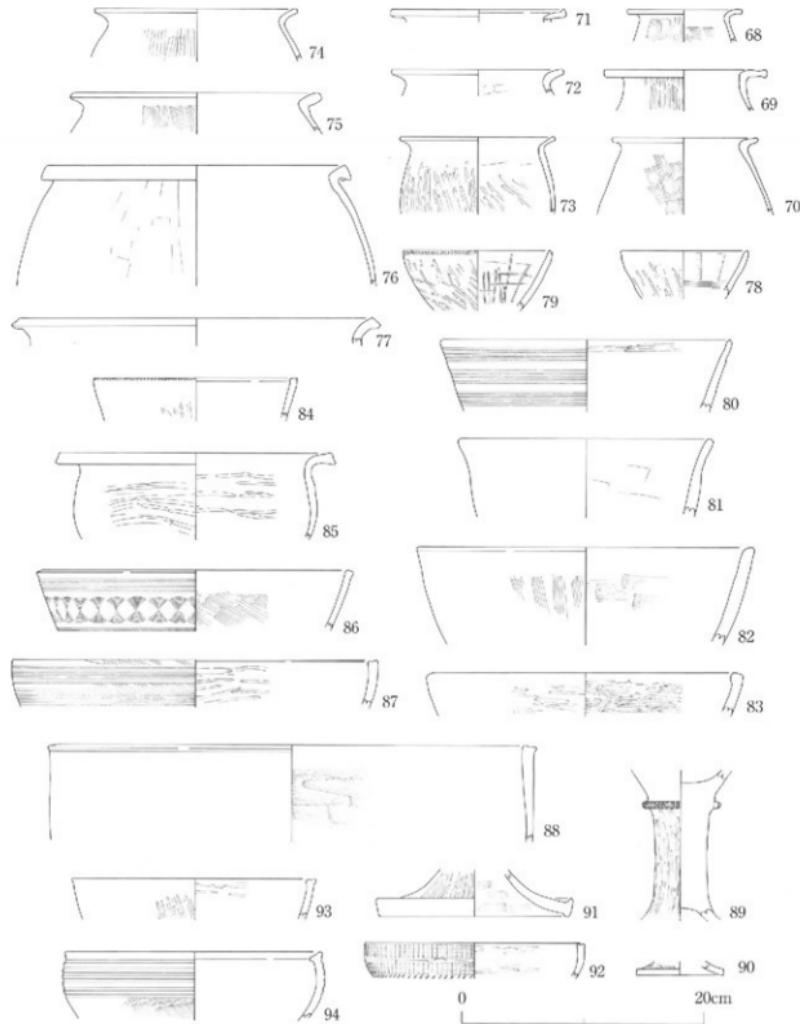
89～94は高杯である。89は柱状部が中実である。基部に突帯を貼り付け、刻み目を施す。外面はヘラミガキ調整する。90・91は裾部がゆるく立ち上がる。裾端部は面を持ち、91は上方へ小さく拡張する。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。92～94は体部が内済して立ち上がり、口縁端部が面を持つ。94は口縁端部が内側へ肥厚する。外面は櫛描文様や凹線文を施すものがある。93の外面はヘラミガキ調整する。内面はヘラミガキ調整するものが多い。89・90はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。



第5図 II-1層出土遺物実測図



第6図 II-1層出土遺物実測図

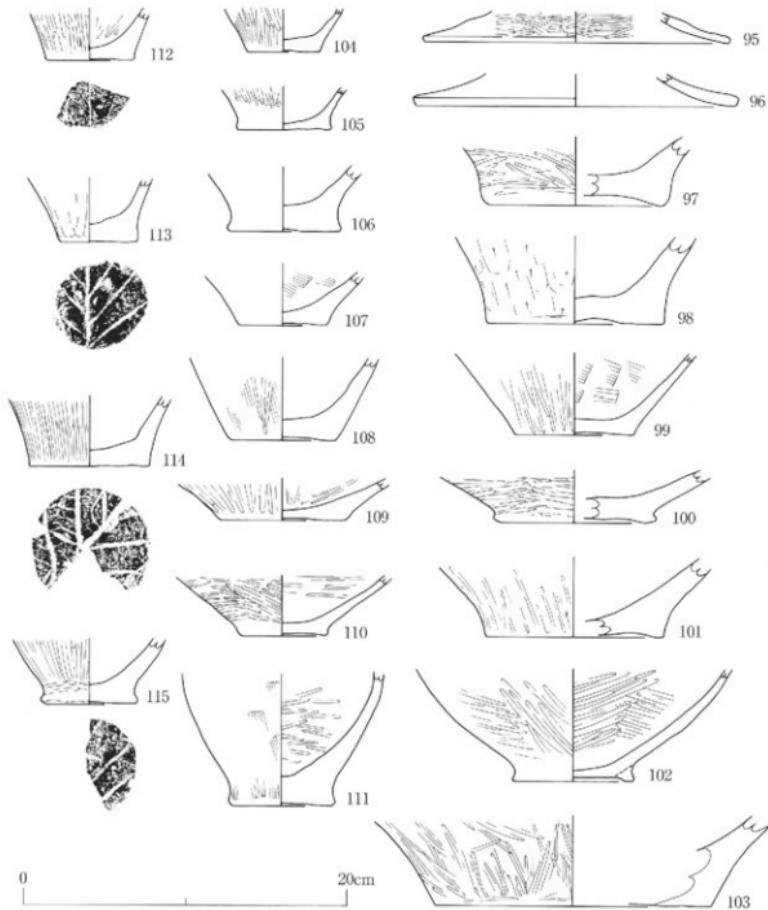


第7図 II-1層出土遺物実測図

式。91・94は非河内産、他は生駒西麓産。

95・96は蓋である。体部はゆるく立ち上がり、口縁端部は面を持つ。95は内外面をヘラミガキ調整、96はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

97～115は底部である。底部が平底を呈し、体部は外上方へ立ち上がる。外面はヘラミガキ調整するものが多く、他にナデ調整するものとハケメ調整するものがある。内面はナデ調整するものが多く、他にハケメ調整とヘラミガキ調整するものがある。112～115は底面に木葉痕が残る。中期。97・99・104・106・114は非河内産、他は生駒西麓産。



第8図 II-1層出土遺物実測図

II - 2 層出土縄文土器 (第9図 116)

116は縄文土器の深鉢である。口縁部はゆるく外反し、口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。外面はミガキ調整、内面はナデ調整する。縄文時代晩期。

II - 2 層出土弥生土器 (第9 ~ 11図 117 ~ 205)

壺、甕、鉢、高杯、蓋、底部がある。

117 ~ 140は壺である。117 ~ 126は口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。面を持つものが多く、丸く終わるものは僅かである。118は口縁端部、120・122は体部外面に櫛描文様を施す。外面はヘラミガキ調整するものが多く、他にハケメ調整するものがある。内面はヘラミガキ調整するものが多く、他にナデ調整するものとハケメ調整するものがある。127 ~ 136は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持ち、下方へ肥厚する。口縁端部に櫛描文様を施すものが多く、他に凹線文や刻み目を施すものもある。133・135は口縁部内面、134・136は体部外面に櫛描文様を施す。131の外面はハケメ調整する。風化が著しく調整法が不明なものが多い。内面はナデ調整するものが多く、他にヘラミガキ調整するものがある。117 ~ 126はⅡ様式、他はⅢ ~ Ⅳ様式。129・132 ~ 135は非河内産、他は生駒西麓産。

137・138は無頭壺である。体部は内傾して立ち上がり、口縁端部は面を持つ。口縁部直下に2個1対の孔を穿つ。137は口縁部が強く外反し、口縁端部に刻み目を施す。外面は櫛描文様を施す。137は内面をナデ調整、138はヘラミガキ調整する。Ⅲ ~ Ⅳ様式。137は生駒西麓産、138は非河内産。

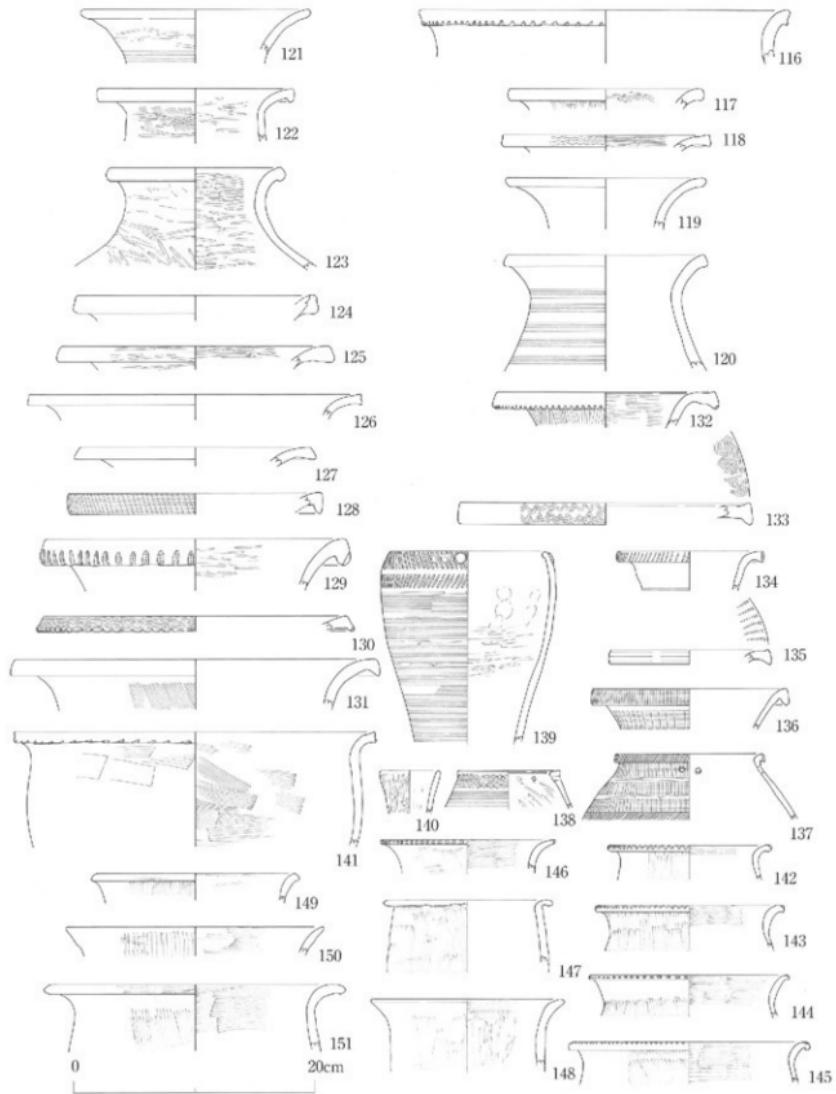
139・140は細頸甕である。頸部は外上方へ立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。内面はナデ調整する。139は口縁部が内傾し、3個の円形浮文を施す。頸部外面は櫛描文様を施す。140は外面をヘラミガキ調整する。Ⅲ ~ Ⅳ様式。139は生駒西麓産、140は非河内産。

141 ~ 183は甕である。141 ~ 176は体部の張りが少ない。口縁部はゆるく外反するものが多いが、147は強く外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。141 ~ 146は口縁端部に刻み目を施す。外面はヘラミガキ調整するものが多く、他にナデ調整するものとハケメ調整するものがある。内面はナデ調整するものが多く、他にハケメ調整するものとヘラミガキ調整するものがある。153はヘラケズリ調整する。177 ~ 183は体部の張りが大きい。口縁部は強く外反するものとゆるく外反するものがある。179・180は口縁端部に刻み目を施す。外面はヘラミガキ調整するものが多く、他にハケメ調整するものがある。内面はナデ調整するものが多く、他にハケメ調整するものとヘラミガキ調整するものがある。142 ~ 177はⅡ様式、他はⅢ ~ Ⅳ様式。142 ~ 146・151・152・158・159・180は非河内産、他は生駒西麓産。

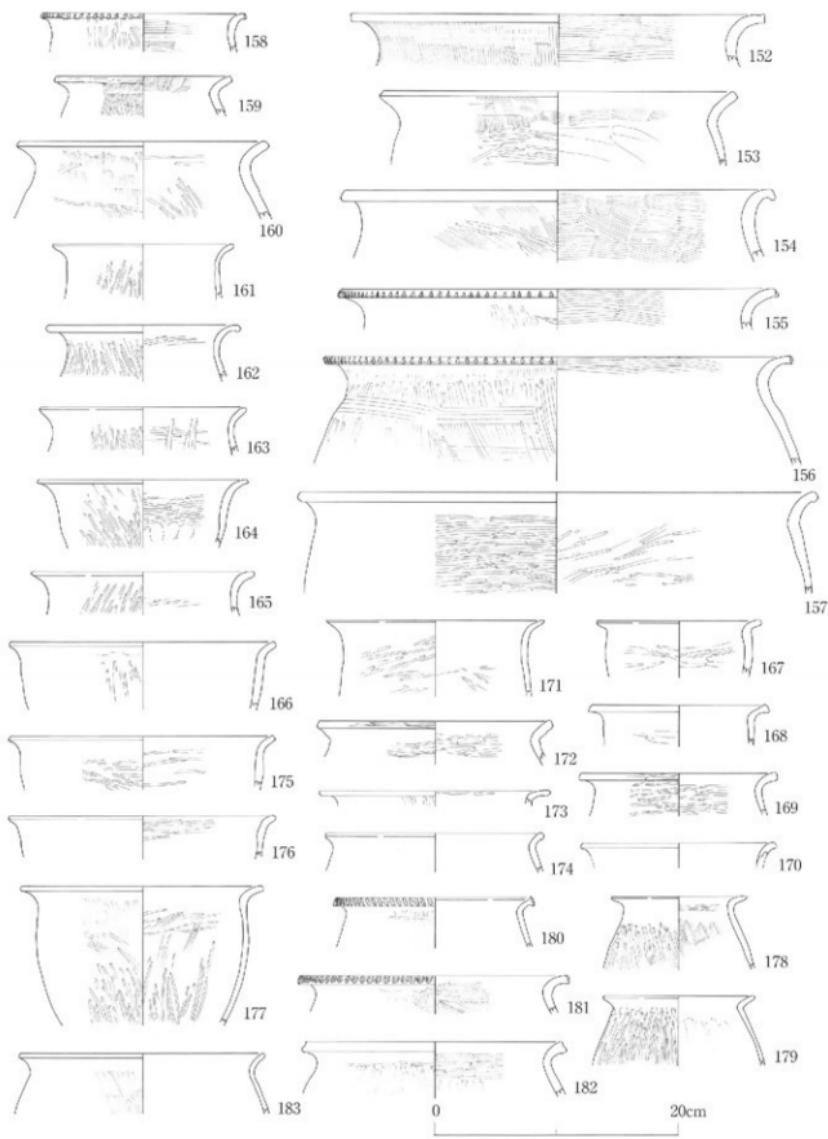
184・185は鉢である。184は体部の張りが少ない。口縁部はゆるく外反し、口縁端部はやや面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。185は小型の鉢である。底部は丸底を呈し、体部は外上方へ伸びる。口縁端部は丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整する。184はⅡ様式。185は中期。生駒西麓産。

186 ~ 188は高杯である。186は体部が内湾して立ち上がり、口縁端部は面を持つ。内外面は風化が著しく調整法は不明である。187・188は縁部がゆるく立ち上がる。縁端部は面を持ち、上方へ拡張する。内面はナデ調整する。187は外面に半截竹管文を施す。188は外面をヘラミガキ調整する。186はⅡ様式、187・188は中期。生駒西麓産。

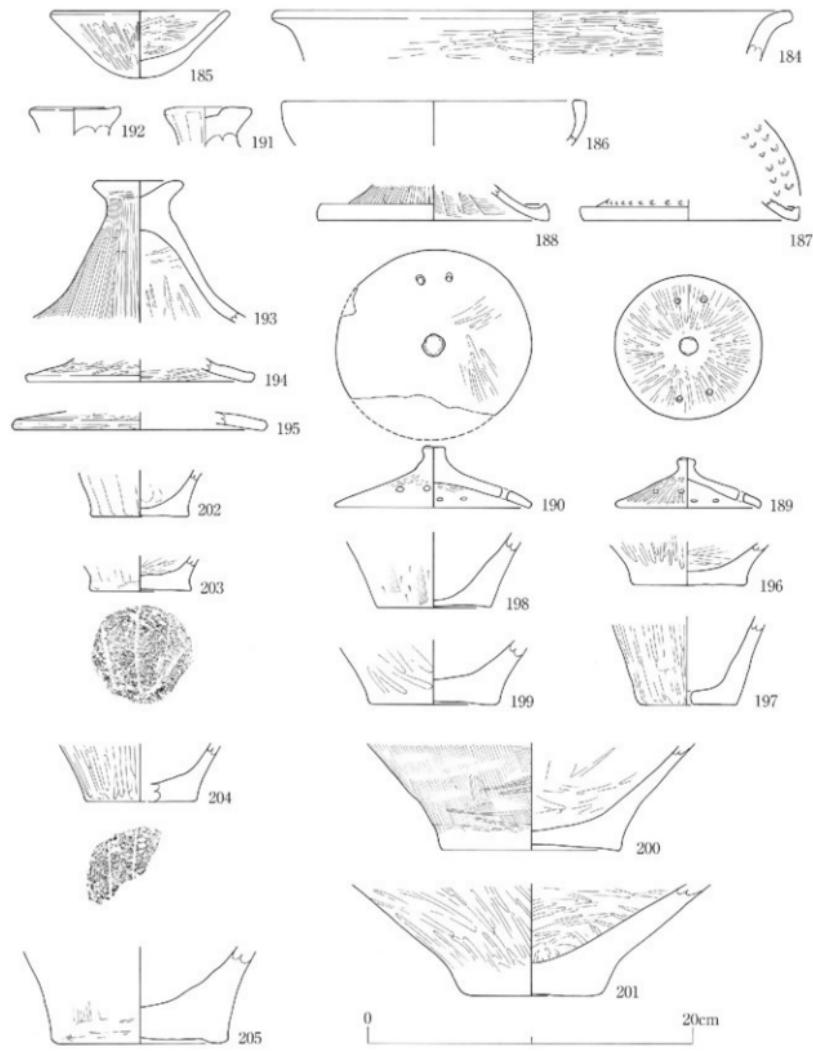
189 ~ 195は蓋である。189・190は甕蓋である。体部はゆるく立ち上がる。口縁端部は面を持つ。摘み部は円形を呈する。体部に2個1対の孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整する。189は内面をナデ調整する。190は内面をヘラケズリ調整する。191 ~ 195は甕蓋である。体部の立ち上がりは大きく、



第9図 II-2層出土遺物実測図



第10図 II-2層出土遺物実測図



第11図 II-2層出土遺物実測図

口縁端部はやや面を持つ。摘み部は円形を呈し、頂部を窪ませるものがある。外面はヘラミガキ調整するものが多く、他にナデ調整するものとハケメ調整するものがある。内面はナデ調整するものが多く、他にヘラミガキ調整するものがある。189・190はⅢ～Ⅳ様式。他は中期。190・191・195は非河内産、他は生駒西麓産。

196～205は底部である。底部は平底を呈し、体部は外上方へ立ち上がる。外面はヘラミガキ調整するものが多く、他にナデ調整するものとハケメ調整するものがある。内面はナデ調整するものが多く、他にハケメ調整するものとヘラミガキ調整するものがある。197は底面に小円孔を穿つ。203・204は底面に木葉痕が残る。中期。202は非河内産、他は生駒西麓産。

II - 3 層出土弥生土器 (第12～13図 206～250)

壺、甕、鉢、高杯、蓋、底部がある。

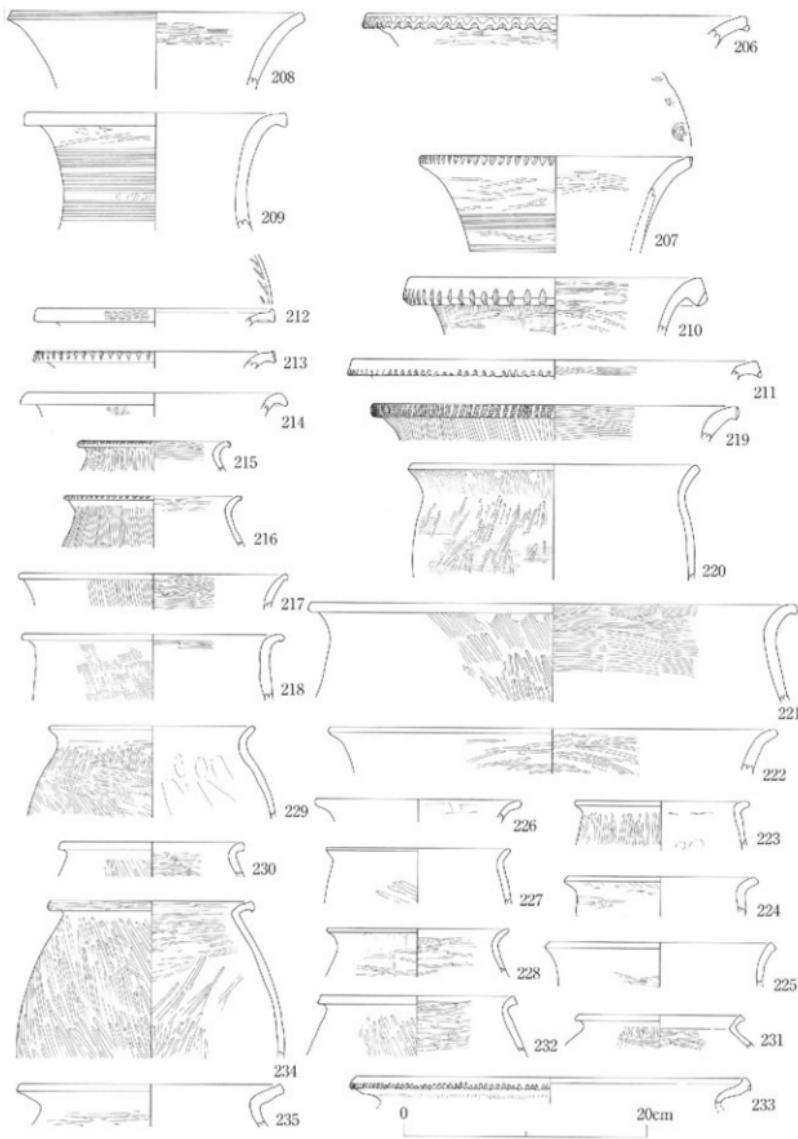
206～214は壺である。206～209は口縁部が大きく外反し、口縁端部は面を持つ。206・207は口縁端部に刻み目を施す。208は口縁端部に櫛描文様を施す。207は口縁部内面と頸部外面に櫛描文様を施す。209は頸部外面に櫛描文様を施す。206の外面はヘラミガキ調整する。内面はナデ調整するものとヘラミガキ調整するものがある。II様式。210～214は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つものが多い。214は口縁端部が丸く終わる。210・211は口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に刻み目や櫛描文様を施すものがある。210の外面はヘラミガキ調整する。風化が著しく調整法の不明なものが多い。内面はハケメ調整するものとヘラミガキ調整するものがある。210・211はⅢ～Ⅳ様式、他は中期。206・209～213は非河内産、他は生駒西麓産。

215～235は甕である。215～228は体部の張りが少なく、口縁部はゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。面を持つものが多い。口縁端部に刻み目を施すものが僅かにある。外面はヘラミガキ調整するものが多く、他にナデ調整するものとハケメ調整するものがある。内面はナデ調整するものが多く、他にハケメ調整するものとヘラミガキ調整するものがある。229～235は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反し、口縁端部は面を持つ。233は口縁端部に刻み目を施す。外面はヘラミガキ調整するもの多く、233はナデ調整する。内面はヘラミガキ調整するものが多く、他にナデ調整するものがある。215～228はII様式、他はⅢ～Ⅳ様式。215～219・227・230・233・235は非河内産、他は生駒西麓産。

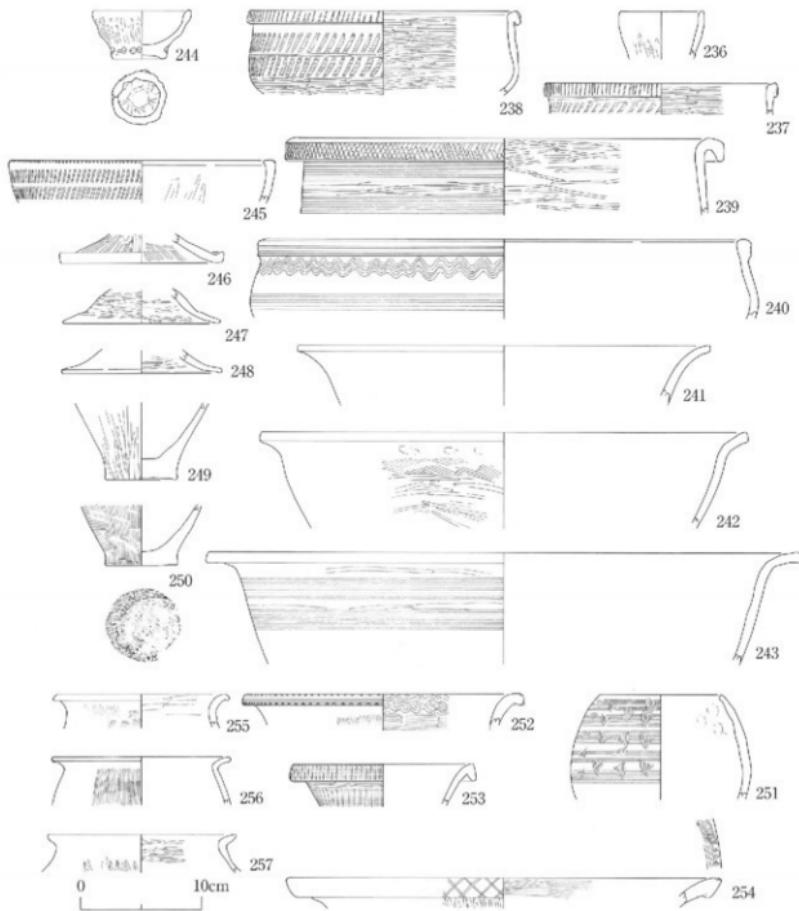
236～244は鉢である。236・244は小型の鉢である。体部が外上方へ立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。内面はナデ調整する。244は底部が平底を呈し、底面に指頭圧痕が残る。底部と体部の境に刺突文を施す。237～243は口縁端部が面を持つ。体部がやや内傾して立ち上がるものと外上方へ立ち上がるものがある。237・238は口縁端部に刻み目を施す。239は口縁端部に斜格子文様を施す。237～240・243は体部外面に櫛描文様を施す。241・242は無文である。外面はヘラミガキ調整する。内面はナデ調整するものとヘラミガキ調整するものがある。237～240はⅢ～Ⅳ様式、236・244は中期、他はII様式。生駒西麓産。

245・246は高杯である。245は体部がやや内湾して立ち上がり、口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、体部外面に櫛描文様を施す。内面はヘラミガキ調整する。246は裾部がゆるく立ち上がる。裾端部は面を持ち、上方へ拡張する。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。245はⅢ～Ⅳ様式、246は中期。生駒西麓産。

247・248は蓋である。体部はゆるく立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。247は内外面をヘラミガキ調整する。248は外面をナデ調整、内面をハケメ調整する。中期。247は生駒西麓産、248は非河内産。



第12図 II-3層出土遺物実測図



第13図 II-3・4層出土遺物実測図

249・250は底部である。平底を呈する。体部は外上方へ立ち上がる。内面はナデ調整する。外面はヘラミガキ調整するものとハケメ調整するものがある。250は底面に布目痕が残る。中期。非河内産。

II-4層出土弥生土器（第13図 251～257）

壺、甕がある。

251～253は壺である。251は無頸壺である。体部は内湾して立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。体部外面に櫛描文様を施す。内面はナデ調整する。252・253は口縁部が大きく外反する。口縁端部は

面を持ち、下方へ拡張する。外面に櫛描文様を施すものと刻み目を施すものがある。252は口縁部内面に櫛描文様を施す。251・252はⅡ様式、253はⅢ～Ⅳ様式。251・254は生駒西麓産、252は非河内産。

254～257は甕である。254・255は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。254は口縁端部が面を持ち、刻み目と斜格子文を施す。255は口縁端部が丸く終わる。外面はハケメ調整し、内面はナデ調整する。256・257は体部の張りが大きい。口縁部は強く外反し、口縁端部は面を持つ。256は外面をハケメ調整し、内面はナデ調整する。257は内外面をヘラミガキ調整する。254・255はⅡ様式。他はⅢ～Ⅳ様式。256・257は生駒西麓産、254・255は非河内産。

II 地区出土土器拓影

II - I 層出土弥生土器文様 (第14図 258～291)

258～291はII - I 層から出土した土器の文様である。

258～263・265・267～284・286～291は櫛描文様である。簾状文、直線文、波状文などがあり、単体で施すものや、2種類を組み合わせたものがある。283・291は円形浮文を貼り付ける。274は櫛原体の歯数が少ない。中期。258・260・267・268・270・275～279・281・282・287は非河内産。他は生駒西麓産。

264は刻み目である。工具または指で等間隔に施す。中期。非河内産。

266は沈線である。横位に11条以上を施す。I 様式。生駒西麓産。

285は突帶である。断面形が三角形を呈する。中期。非河内産。

II - 2 層出土土器文様 (第15図 292～325)

292～325はII - 2 層から出土した土器の文様である。

292～295・298・310～324は櫛描文様である。簾状文、直線文、波状文などがあり、単体で施すものや、2種類の組み合わせたものがある。295は円形浮文を貼り付ける。中期。293・310・313～315・317・318は非河内産、他は生駒西麓産。

296・297・299～303・305は沈線である。横位に2～14条を施す。296・297は刻み目を施す。I 様式。生駒西麓産。

304・306～309は突帶である。断面形がややつぶれた三角形を呈する。突帶は刻み目を施す。304は突帶を貼り付けるための目印として沈線を施す。I 様式。307は非河内産、他は生駒西麓産。

325は刺突文である。棒状の工具で一定間隔に施す。中期。生駒西麓産。

II - 3 層出土土器文様 (第15図 326～332)

326～332はII - 3 層から出土した土器の文様である。

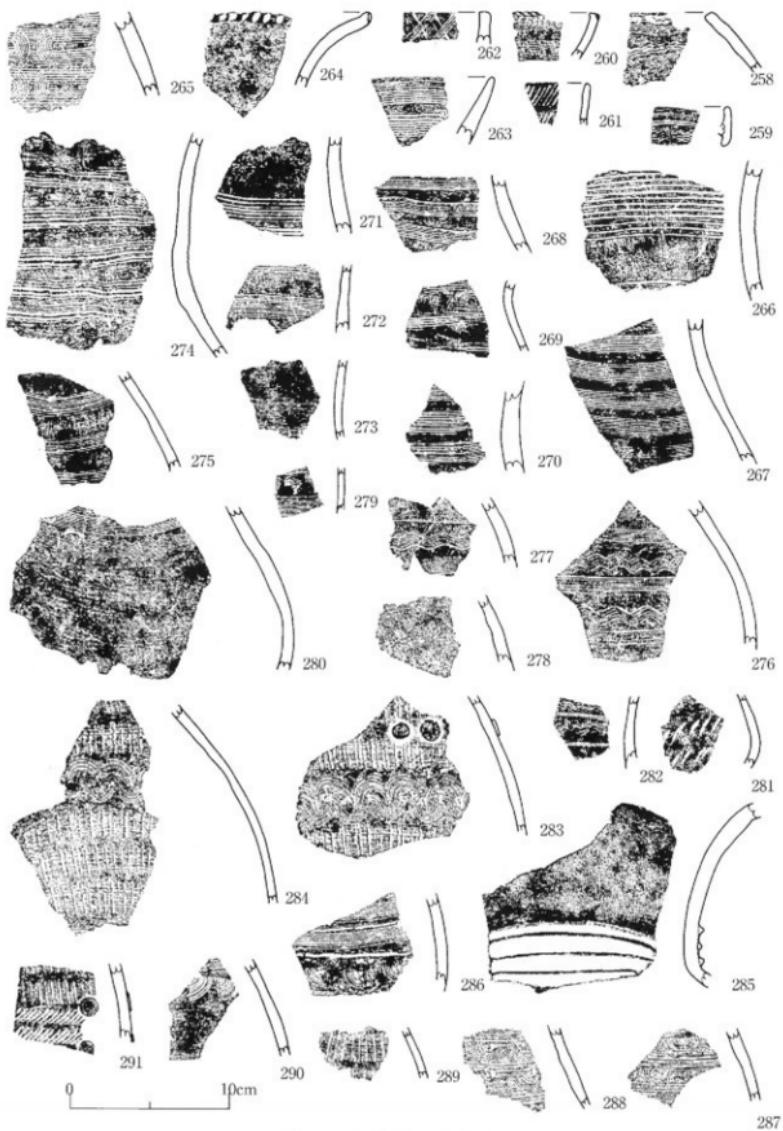
326～328・330～332は櫛描文様である。簾状文、直線文、波状文などがあり、単体で施すものや、2種類の組み合わせたものがある。326は円形浮文を貼り付ける。中期。331は非河内産、他は生駒西麓産。

329は突帶である。断面形がややつぶれた三角形を呈する。突帶は刻み目を施す。I 様式。生駒西麓産。

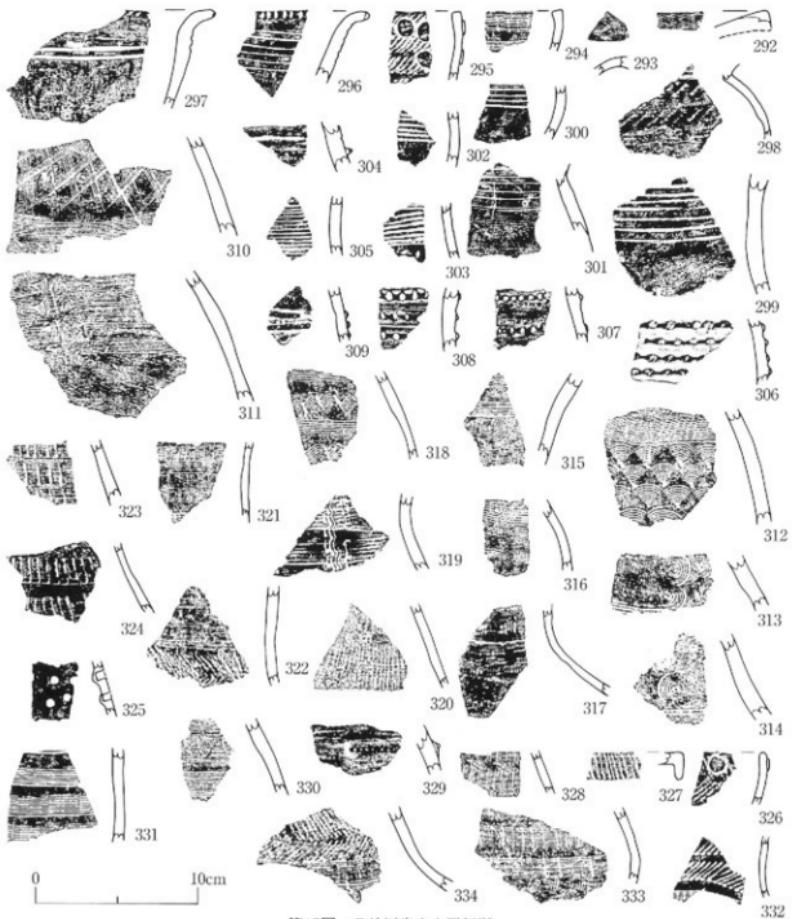
II - 4 層出土土器文様 (第15図 333・334)

333・334はII - 4 層から出土した土器の文様である。

333・334は櫛描文様である。簾状文、扇形文、列点文がある。2種類を組み合わせて施す。中期。生駒西麓産。



第14図 II地区出土土器拓影



第15図 II地区出土土器拓影

II地区出土土製品・石器・角製品（第16・17図 335～357）

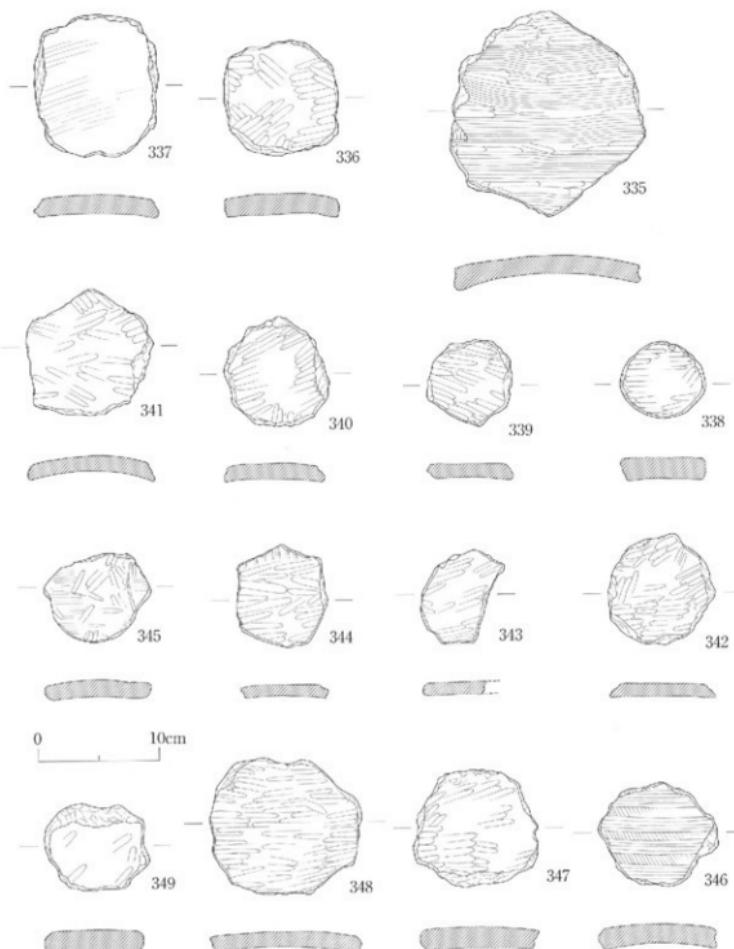
335～349は円板状土製品である。破損した土器の縁辺を打ち欠いて円形に成形する。打ち欠いた後に研磨するものもある。表面に櫛描文様が残るものがある。中期。

350～355は石器である。

350は打製石剣である。1対の抉りを持つ。縁辺を押圧剥離で仕上げる。サスカイト製。

351・352は大型蛤刃石斧である。351は基部である。敲打痕が残る。表面の研磨は丁寧である。352は刃部である。使用による刃こぼれが見られる。表面の研磨は丁寧である。

353は石錐である。表面に擦痕が2条残る。自然石を利用している。

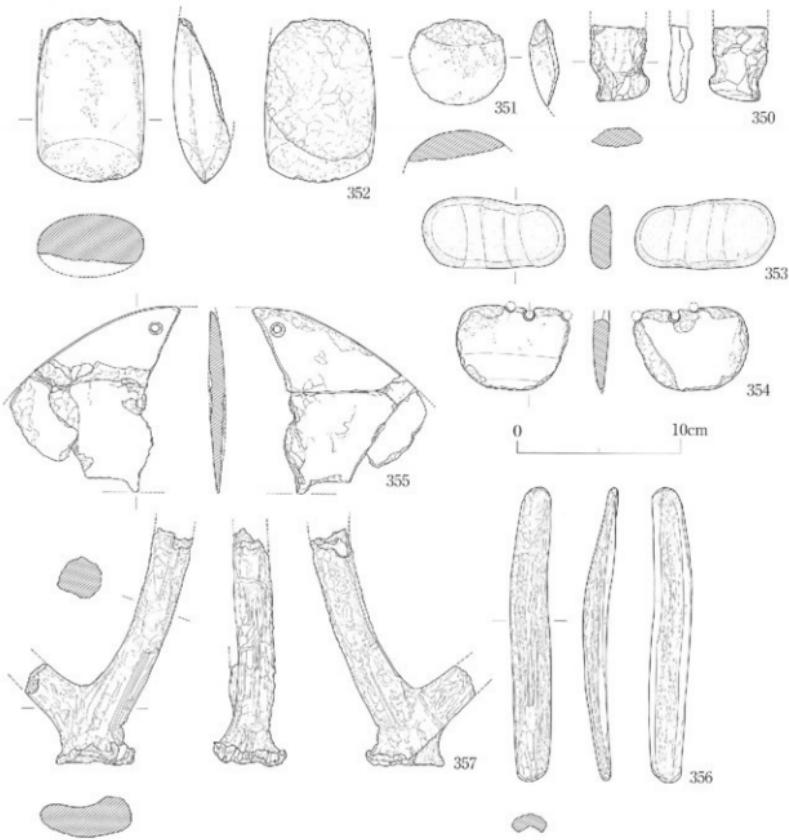


第16図 II地区出土土製品実測図

354は円板状石製品である。3個の穿孔が残ることから、石庖丁を再加工したものと考えられる。縁辺を打ち欠き、円板状に成形している。表面の研磨は丁寧である。緑泥片岩製。

355は大型の石庖丁である。平面形は台形状を呈する。刃部は両刃である。表面の研磨は丁寧である。刃部付近は風化が著しい。緑泥片岩製。

356・357は角製品である。356はヘラ状角製品である。半裁した鹿角の両端を研磨によって成形する。



第17図 Ⅱ地区出土石器・角製品実測図

357は角未成品である。鹿角の必要な箇所を切断する段階のものである。先端付近と根元に切断痕が残る。

III地区出土遺物

III-1層出土弥生土器（第18・19図 358～414）

壺、水差形土器、甌、鉢、高杯、蓋、底部がある。

358～373は壺である。358～366は口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがあり、面を持つものが多い。363は口縁端部を上方へ摘み上げる。外面はナデ調整するものが多く、僅かであるがヘラミガキ調整やハケメ調整するものがある。367～373は口縁部が大きく外反し、口縁端部は面を持つ。口縁端部を下方へ拡張するものと上方へ拡張するものがある。367～370は口縁端部に櫛描文様を施し、368・370は口縁部内面に櫛描文様を施す。372・373は口縁端部に刻み目を施す。外面はハケメ調整するものがある。内面はナデ調整するものが多く、僅かにハケメ調整やヘラミガキ調整するものがある。358～360はⅡ様式、361・362・369は中期、他はⅢ～Ⅳ様式。361・363・365・366・368・371・373是非河内産、他は生駒西麓産。

374は水差形土器である。口頭部は外上方へ立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。口縁部にゆるいU字状の抉りを施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

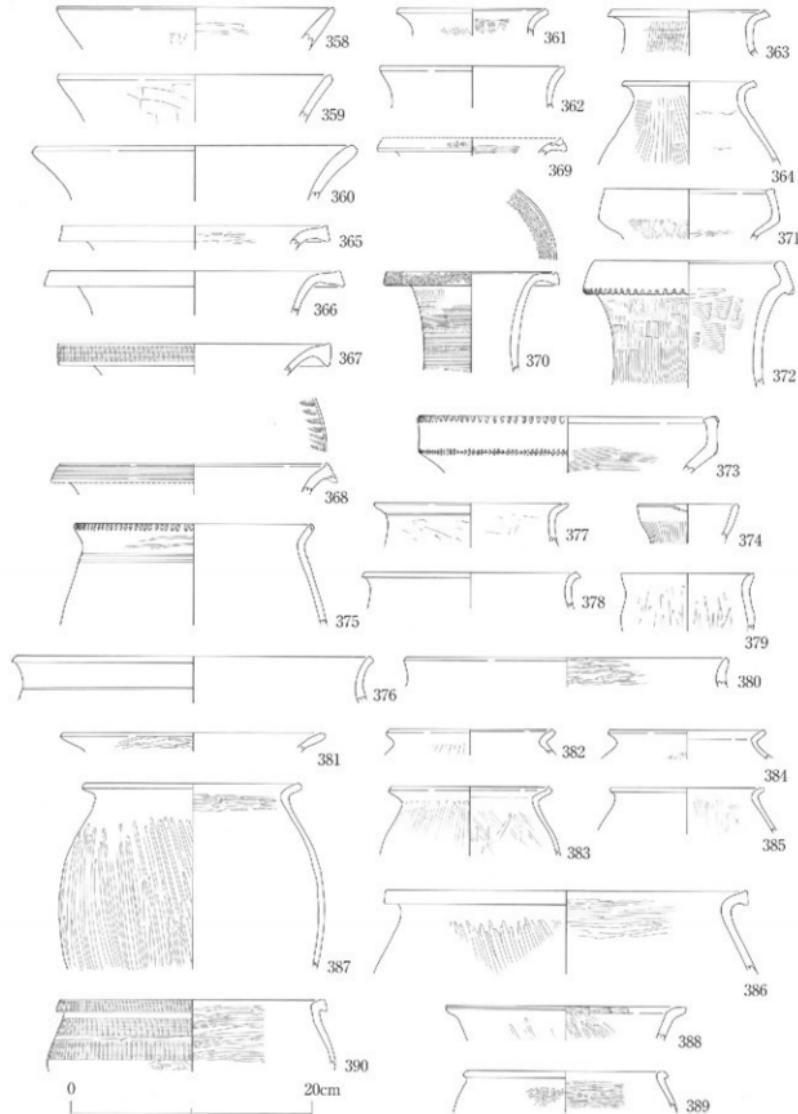
375～387は甌である。375～380は体部の張りは少なく、口縁部はゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。375は口縁端部に刻み目を施す。外面はナデ調整するものが多い。377・379はヘラケズリ調整する。内面はナデ調整するものが多い。379・380はヘラミガキ調整する。375～377は頸部に沈線文を施す。381は口縁部が大きく外反し、口縁端部は面を持つ。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。382～386は体部の張りは大きい。口縁部は強く外反し、口縁端部は面を持つ。382・383は口縁端部を上方へ摘み上げる。外面はヘラミガキ調整するものが多い。382・383はハケメ調整、内面はヘラミガキ調整する。375～377はⅠ様式。378・379はⅡ様式、380・381は中期、他はⅢ～Ⅳ様式。382・384は非河内産、他は生駒西麓産。

388～395は鉢である。388は体部がほとんど張らない。口縁部はゆるく外反する。口縁端部はやや丸く終わり、1条の沈線文を施す。外面はヘラミガキ調整する。体部内面はヘラミガキ調整、口縁部内面はハケメ調整する。389～394は体部が内傾して立ち上がり、張りは少ない。口縁部は強く外反し、口縁端部は面を持つものが多い。口縁端部に櫛描文様を施すものが多く、僅かに刻み目を施すものがある。外面は櫛描文様を施すものと無文のものがある。外面はハケメ調整するものがあり、僅かにヘラミガキ調整するものがある。内面はヘラミガキ調整する。395は体部が外上方へ立ち上がり、口縁端部は面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。388はⅠ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。389・393～395是非河内産、他は生駒西麓産。

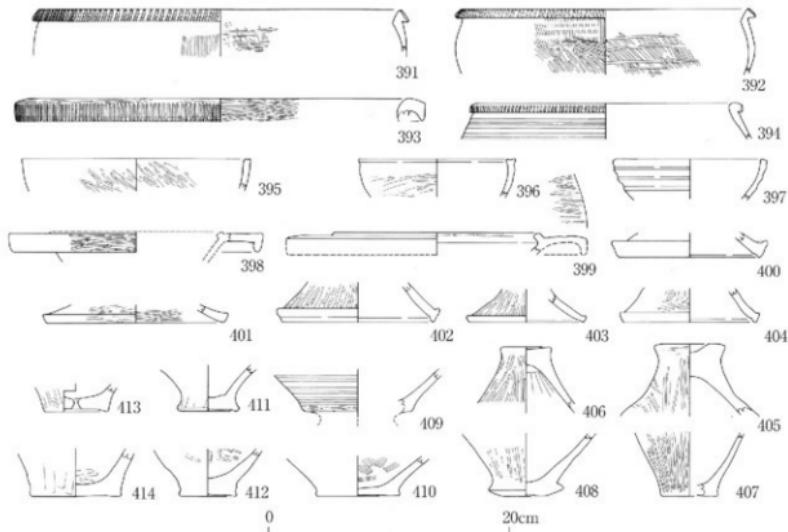
396～404は高杯である。396・397は杯部が浅い椀状を呈し、口縁端部は面を持つ。396は外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。397は外面に3条の凹線文を施す。内面はナデ調整する。398・399は杯部が外上方へ立ち上がる。口縁部は水平に伸び、口縁端部は下方へ拡張する。内外面はヘラミガキ調整する。400～404は高杯の脚部である。脚部はゆるく立ち上がる。脚端部は面を持つものと上方へ拡張するものがある。401は幅の広がりが大きい。外面はヘラミガキ調整するものが多い。内面はナデ調整するものが多く、401は内面をヘラミガキ調整する。396～400はⅢ～Ⅳ様式、他は中期。396・397・400・404是非河内産、他は生駒西麓産。

405・406は蓋である。体部は大きく立ち上がる。摘み部は円形を呈する。405は頂部が窪む。外面はヘラミガキ調整する。内面はナデ調整する。406は板状工具の痕跡が残る。中期。非河内産。

407～414は底部である。平底を呈する。体部は外上方へ立ち上がる。外面はヘラミガキ調整するものが多く、僅かであるがナデ調整するものがある。409は台付鉢の底部である。外面に櫛描文様を



第18図 III-1層出土遺物尖測図



第19図 III - 1層出土遺物実測図

施す。内面はナデ調整するものがほとんどで、ヘラミガキ調整するものもある。408は内面に煤が付着する。413は底面を穿孔する。中期。408・411は非河内産、他は生駒西麓産。

III - 2層出土弥生土器（第20図 415～434）

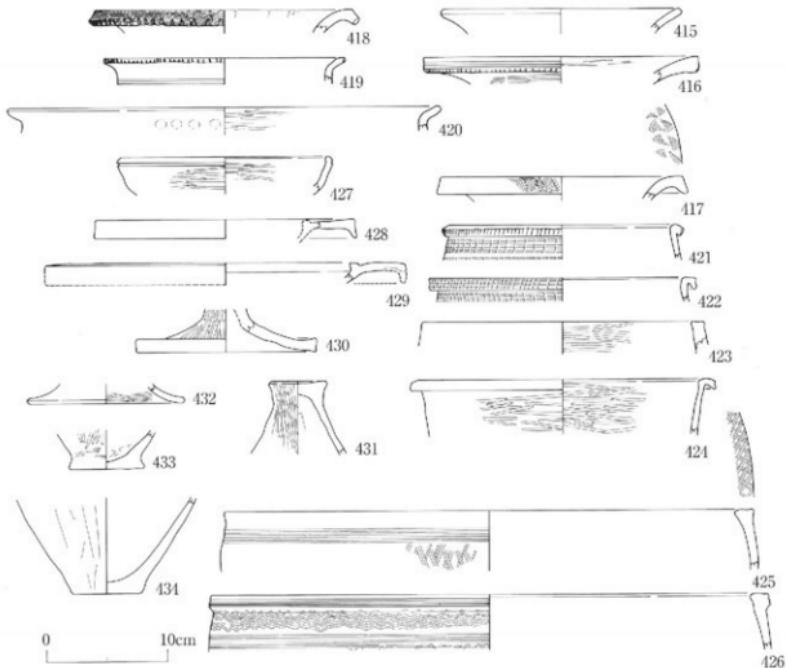
壺、甕、鉢、高杯、蓋、底部がある。

415～418は壺である。415・416は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。416は口縁端部に文様を施す。内外面は風化が著しく調整法は不明である。417・418は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持ち、下方へ拡張する。口縁端部に櫛描文様を施す。417は口縁部内面に扇形文を施す。418は口縁下端部に刻み目を施す。内外面はナデ調整する。415・416はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。416は非河内産、他は生駒西麓産。

419・420は甕である。口縁部がゆるく外反し、口縁端部は丸く終わる。419は体部の張りが少ない。口縁端部に刻み目、頸部に2条の沈線文を施す。420は頸部に指頭圧痕が残る。内外面は風化が著しく調整法は不明である。419はⅠ様式、420はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

421～426は鉢である。体部は内傾して立ち上がる。口縁部が外反するものとしないものがある。426は口縁部に段が付く。口縁端部に櫛描文様や刻み目を施すものがある。外面は櫛描文様を施すものが多い。423・424は無文である。外面はヘラミガキ調整する。内面はヘラミガキ調整するもの、ナデ調整するものがある。Ⅲ～Ⅳ様式。421・423・424は非河内産、他は生駒西麓産。

427～430は高杯である。杯部が浅い椀状を呈するものと口縁部が水平方向へ伸びるものがある。427は内外面をヘラミガキ調整する。428・429は風化が著しく調整法は不明である。430は高杯の脚部である。裾部はゆるく立ち上がり、裾端部は面を持つ。柱状部は中実で、上方へ伸びる。外面はヘラ



第20図 III-2層出土遺物実測図

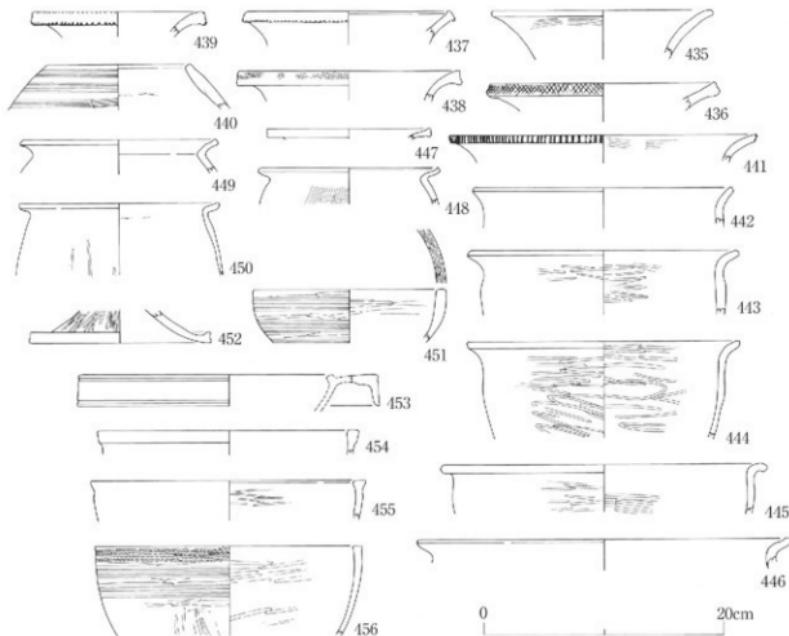
ミガキ調整する。内面はナデ調整する。427は中期、他はⅢ～Ⅳ様式。428は生駒西麓産、427・429・430は非河内産。

431・432は蓋である。体部が大きく立ち上がる。431は摘み部が円形を呈する。外面はヘラミガキ調整する。内面は工具によるナデ調整する。432は口縁端部が丸く終わる。内面はハケメ調整する。外面は風化が著しく調整法は不明である。中期。431は非河内産、432は生駒西麓産。

433・434は底部である。平底を呈する。体部は外上方へ立ち上がる。外面はヘラミガキ調整するものとナデ調整するものがある。内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

III-3層出土弥生土器（第21図 435～456）

壺、甕、鉢、高杯、蓋、底部がある。435～440は壺である。435～437は口縁部が大きく外反し、口縁端部は面を持つ。口縁端部に文様を施すものがある。内外面は僅かであるがナデ調整するものがある。多くは風化が著しく調整法は不明である。438・439は口縁部が大きく外反し、口縁端部は面を持つ。口縁端部は下方へ拡張し、櫛描文様や刻み目を施す。440は無頸壺である。体部は内傾して立ち上がる。口縁端部はやや面を持つ。体部外面に櫛描直線文を施す。内面はナデ調整する。Ⅱ様式。436・437・439・440は非河内産、他は生駒西麓産。

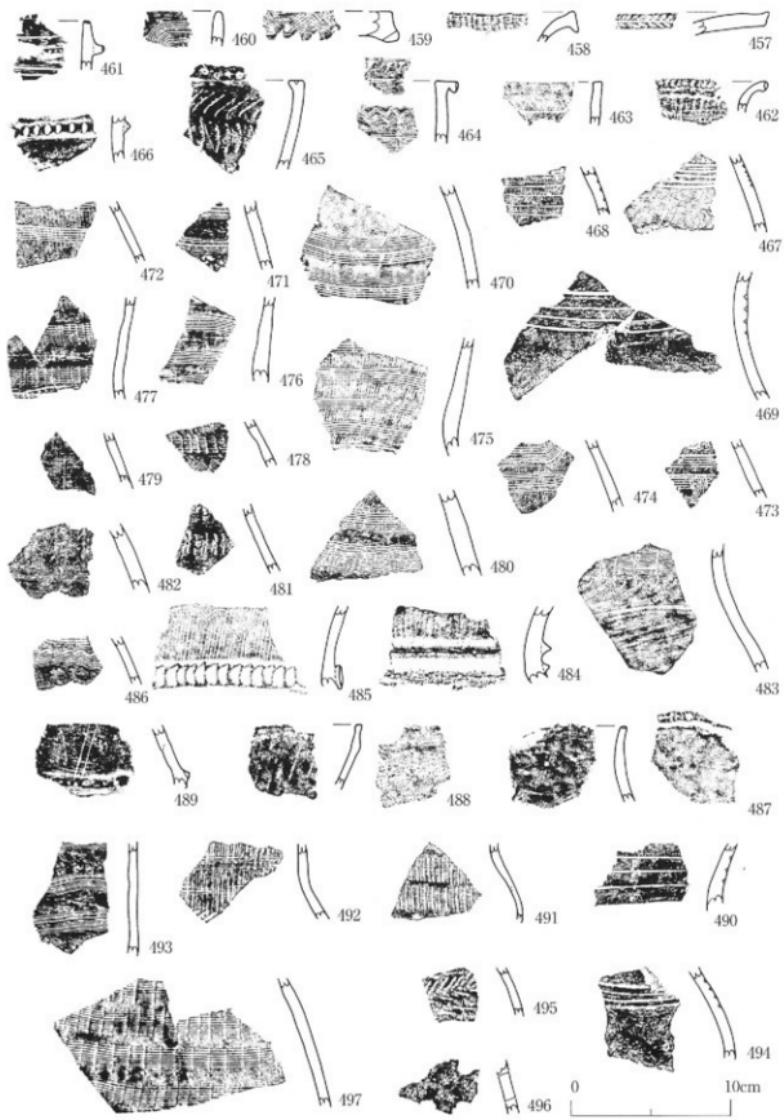


第21図 III-3層出土遺物実測図

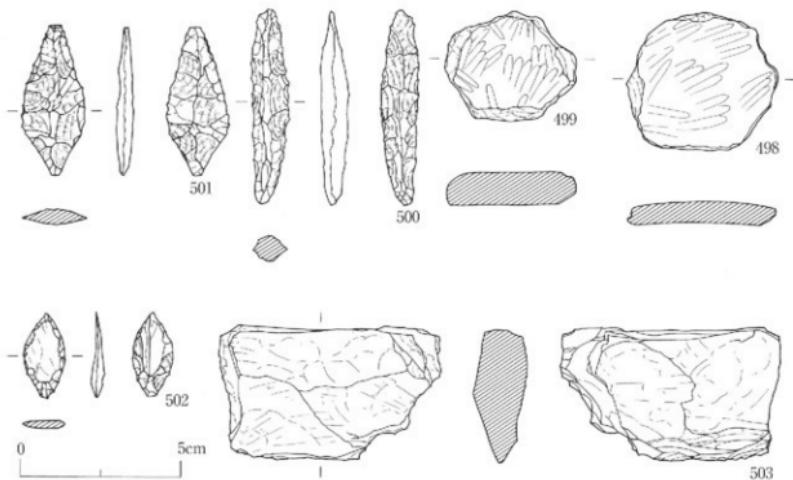
441～450は壺である。441～446は体部の張りが少ない。口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。面を持つものが多い。441は口縁端部に刻み目を施す。外面はヘラミガキ調整するものが多い。風化が著しく調整法は不明なものもある。内面はヘラミガキ調整するものが多く、ハケメ調整するものとナデ調整するものがある。447～450は体部の張りが大きく、口縁部は強く外反する。口縁端部は面を持ち、448は上方へ摘み上げる。外面はヘラミガキ調整するものとナデ調整するものがある。内面はナデ調整するものが多い。447は中期、448はⅢ～Ⅳ様式、他はⅡ様式。441・443・448・449是非河内産、他は生駒西麓産。

451～453は高杯である。口縁端部は面を持つ。杯部が浅い椀状を呈するものと口縁部が水平に伸びるものがある。451は体部外面と口縁端部に櫛描文様を施す。内面はヘラミガキ調整する。453は口縁端部に凹線文を施す。内外面は風化が著しく調整法は不明である。452は裾部がゆるく立ち上がる。裾端部は面を持ち、上方へ拡張する。外面はヘラミガキ調整する。内面はナデ調整する。リング状の煤が付着することから、蓋に転用している。451はⅡ様式。他はⅢ～Ⅳ様式。452は生駒西麓産、451・453是非河内産。

454～456は鉢である。体部は上方へ立ち上がる。口縁端部は段を持つものと持たないものがある。456は体部外面に櫛描文様を施す。外面はヘラミガキ調整するものがある。454・455の外面は風化が



第22図 III地区出土土器拓影



第23図 III地区出土土製品・石器実測図

著しく調整法が不明である。内面はヘラミガキ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

III地区出土上器文様

III-1層出土弥生土器文様（第22図 457～486）

457～486はIII-1層から出土した土器の文様である。

457は綾杉文である。1条の沈線文を施した後、上下に刻み目を施す。I様式。生駒西麓産。

465は櫛描文様と円形刺突文の組み合わせである。中期。非河内産。

461・462・466は刻み目である。461・466は突带上にも刻み目を施す。中期。466は生駒西麓産、461・462は非河内産。

467～469は沈線文である。横位に4～5条を施す。I様式。467は非河内産、他は生駒西麓産。

458～460・463・464・470～483・486は櫛描文様である。簾状文、直線文、波状文などがあり、単体で施すものや、2種類を組み合わせたものがある。中期。463・472・475・476・481・482・486は非河内産、他は生駒西麓産。481・485は突帶である。断面形が三角形になるものと指による押圧文を施したものがある。中期。485は生駒西麓産、484は非河内産。

III-2層出土弥生土器文様（第22図 487～493）

487～493はIII-2層から出土した上器の文様である。また、縄文土器もこの項で説明する。

487・488は縄文土器の深鉢である。487は口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持ち、1条の沈線文の後、刻み目を施す。内外面はナデ調整する。488は体部が外上方へ立ち上がり、口縁部は小さく内傾する。口縁端部は丸く終わる。体部外面をケズリ調整し、口縁部との境に稜を持つ。内面はナデ調整する。縄文時代晚期。生駒西麓産。

489は線刻である。突帶に対してやや斜めに施す。I様式。生駒西麓産。縄文土器の可能性がある。

490は沈線文である。横位に5条以上を施す。I様式。生駒西麓産。

491～493は櫛描文様である。縦状文、直線文がある。櫛原体の歯数が多い。中期。491は生駒西麓産、492・493は非河内産。

III - 3層出土上弥生土器文様（第22図 494～497）

494～497はIII - 3層から出土した土器の文様である。

494は沈線文である。横位に3条を施し、段を表現する。I様式。生駒西麓産。

495・497は櫛描文様である。扇形文、縦状文がある。櫛原体の歯数が多い。中期。497は生駒西麓産、495は非河内産。

496は穿孔である。4ヶ所に孔を穿つ。中期。非河内産。

II地区出土上土製品・石器（第23図 498～503）

498・499は円板状土製品である。破損した土器の縁辺を打ち欠いて円形に成形する。中期。

500～503は石器である。500は打製石錐である。縁辺を丁寧な押圧剥離で仕上げる。錐部は使用により摩滅する。サスカイト製。501・502は打製石錐である。501は凸基有茎式である。先端を欠損する。縁辺を丁寧な押圧剥離で仕上げる。サスカイト製。502は凸基無茎式である。剥片を加工し、縁辺を丁寧な押圧剥離で仕上げる。503は右図丁の未成品である。表面に擦痕が残る。粘板岩製。

第5表 出土遺物観察表

1

排列 回数	種類	器種	残存 部位	地区 部位	法量(cm)	特徴	色調	備考
1	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	II-1	口径21.8cm(復) 器高 30.0cm(残)	口縁部は大きく外反し、縦部は面を持つ 外:不明 内:ナゲ	灰黄褐色(10YR6/2)	II様式 生駒西墓塚
2	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径25.8cm(復) 器高 35.0cm(残)	口縁部は大きく外反し、縦部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ヨコハケ	黄灰色(25Y6/1)	II様式 非河内産
3	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径24.8cm(復) 器高 27.0cm(残)	口縁部は大きく外反し、縦部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナゲ	黒褐色(25Y3/1)	II様式 生駒西墓塚
4	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径19.8cm(復) 器高 27.0cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、上下に小さく拡張する 外:ハケメ 内:ハケメ	灰黄色(25Y6/2)	II様式 生駒西墓塚 口縁下端部に削み目
5	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径20.6cm(復) 器高 18.0cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ拡張する 外:不明 内:ナゲ	明赤褐色(5YR5/6)	II様式 生駒西墓塚 口縁部に剥み目
6	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径26.6cm(復) 器高 24.0cm(残)	口縁部は大きく外反し、縦部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナゲ	黄灰色(25Y4/1)	II様式 生駒西墓塚 口縁下端部に削み目
7	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径12.0cm(復) 器高 0.8cm(残)	口縁部は大きく外反し、縦部はやや面を持つ 外:不明 内:不明	暗灰黄色(25Y5/2)	II様式 生駒西墓塚
8	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	II-1	口径12.4cm(復) 器高 3.1cm(残)	口縁部はゆるく外反し、縦部はやや面を持つ 外:不明 内:ナゲ	外:灰黄褐色(10YR6/2) 内:赤色(10R5/6)	II様式 非河内産
9	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	II-1	口径14.2cm(復) 器高 7.3cm(残)	口縁部は大きく外反し、縦部はやや面を持つ 外:ハケ後ナゲ 内:ハケメ	灰黄褐色(10YR5/2)	II様式 生駒西墓塚
10	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	II-1	口径17.0cm(復) 器高 4.5cm(残)	口縁部は大きく外反し、縦部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ヨコハケ?	黄灰色(25Y4/1)	II様式 非河内産
11	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径17.0cm(復) 器高 24.0cm(残)	口縁部は大きく外反し、縦部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナゲ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	II様式 生駒西墓塚
12	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径17.4cm(復) 器高 2.0cm(残)	口縁部は大きく外反し、縦部はやや面を持つ 外:ハケメ 内:ナゲ	暗灰黄色(25Y5/2)	II様式 生駒西墓塚
13	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径16.0cm(復) 器高 1.4cm(残)	口縁部は大きく外反し、縦部は丸く終わる 外:不明 内:ナゲ	赤色(10R5/6)	II様式 生駒西墓塚
14	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	II-1	口径17.4cm(復) 器高 7.4cm(残)	口縁部は大きく外反し、縦部は面を持つ 外:不明 内:不明	灰白色(10YR7/1)	II様式 生駒西墓塚
15	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径19.6cm(復) 器高 4.3cm(残)	口縁部はゆるく外反し、縦部は面を持つ 外:不明 内:ナゲ	灰白色(10YR8/2)	II様式 非河内産

※(復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

辨別 固版	種類	器種	残存 部位	地区 部位	法規(cm)	特徴	色調	備考
16	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	II-1	口径13.8cm(復) 器高 4.5cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外: ハラミガキ 内: ナデ	にぼい黄橙色(10YR6/3)	II様式 生駒西葉産
17	弥生 土器	壺	口縁 ～颈部	II-1	口径15.6cm(復) 器高 4.7cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外: ハケメ 内: ハケ後ナデ	にぼい黄褐色(10YR5/3)	II様式 生駒西葉産
18	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径17.6cm(復) 器高 4.3cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は丸く終わる 外: 不明 内: ナデ	灰黄褐色(10YR6/2)	II様式 生駒西葉産
19	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	II-1	口径20.0cm(復) 器高 7.8cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外: ハケ後ヘラミガキ 内: 工具によるナデ	にぼい橙色(7.5YR6/4)	II様式 生駒西葉産
20	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径27.0cm(復) 器高 16.6cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外: 不明 内: ナデ	にぼい橙色(7.5YR6/4)	II様式 生駒西葉産 口縁端部に横擦波状文
21	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径14.0cm(復) 器高 18.0cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ拡張する 外: 不明 内: ナデ	にぼい赤褐色(5YR5/4)	Ⅲ～Ⅳ様式 生駒内葉産 口縁端部に横擦筆状文
22	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径18.0cm(復) 器高 5.7cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ拡張する 外: ハラミガキ 内: ナデ	にぼい黄褐色(10YR5/3)	Ⅲ～Ⅳ様式 生駒西葉産
23	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	II-1	口径21.4cm(復) 器高 4.3cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ拡張する 外: 橫擦直線文(8条 / 1.0cm)一帯 内: ナデ	にぼい黄橙色(10YR6/4)	Ⅲ～Ⅴ様式 非河内産 口縁端部に刻み目
24	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径20.0cm(復) 器高 4.6cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部を上に拡張し、幅広の面を持つ 外: 不明 内: 不明	灰黃褐色(10YR5/2)	Ⅲ～Ⅴ様式 生駒西葉産 口縁端部外向に横擦筆状文
25	弥生 土器	長颈壺	口縁部	II-1	口径11.6cm(復) 器高 4.2cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外: 橫擦直線文(12条 / 1.2cm)二帯 内: ナデ	にぼい赤褐色(5YR5/4)	II様式 生駒西葉産
26	弥生 土器	長颈壺	口縁部	II-1	口径 5.4cm(復) 器高 3.5cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外: 橫擦直線文(5条 / 0.7cm)一帯 内: ナデ	灰黃褐色(10YR4/2)	II様式 生駒西葉産
27	弥生 土器	無縁壺	口縁 ～頸部	II-1	口径12.4cm(復) 器高 6.0cm(残)	体部は内傾して立ち上がる 口縁端部は面を持つ 外: 橫擦直線文(7条 / 1.2cm)二帯 横擦波浪文(8条 / 1.3cm)一帯 内: ナデ	黄灰色(2.5Y6/1)	Ⅲ～Ⅴ様式 非河内産 口縁端部に刻み目 口縁部下に刻み目突起
28	弥生 土器	無縁壺	口縁 ～体部	II-1	口径11.6cm(復) 器高 13.0cm(残)	外: 羽墨痕赤灰五帯 列点文はハラミガキ 文様柄輪はハラミガキ 内: ナデとハラミガキ	黄褐色(2.5YY4/1) 黑色(N2/0)	Ⅲ～Ⅴ様式 生駒西葉産 口縁部下二箇所の小円孔
29	弥生 土器	壺	口縁部	II-1	口径12.6cm(復) 器高 3.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外: ハケメ 内: ヨコハケ	黄灰色(2.5Y5/1)	II様式 非河内産 口縁端部に刻み目 内面に接合痕
30	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	II-1	口径21.0cm(復) 器高 4.3cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外: ハケメ 内: ヨコハケ	黑褐色(2.5Y3/1)	II様式 非河内産 口縁端部内面に刻み目

※ (復) は復元径、(残) は残存高・残存長を表す

排國 國版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
31	弥生 土器	甕	口縁部	II-1	口径21.4cm(復) 器高 3.2cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:ハケメ 内:ヨコハケ	灰白色(N8/0)	II様式 非河内産 口縁端部に削み日
32	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径13.2cm(復) 器高 4.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:ハケメ 内:ヨコハケ?	黒褐色(10YR3/2)	II様式 非河内産 口縁端部に削み日
33	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径16.0cm(復) 器高 4.6cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:ハケメ 内:ヨコハケ	黑色(25Y2/1)	II様式 非河内産 口縁端部に削み日
34	弥生 土器	甕	口縁部	II-1	口径14.0cm(復) 器高 1.9cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:不明 内:不明	に赤い褐色(75YR6/3)	II様式 非河内産 口縁端部に削み日
35	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径13.0cm(復) 器高 5.6cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:ハケメ 内:ハケメ	に赤い褐色(75YR6/3)	II様式 非河内産
36	弥生 土器	甕	口縁部	II-1	口径15.6cm(復) 器高 3.6cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:ハケメ 内:ヨコハケ	灰黃褐色(10YR5/2)	II様式 非河内産
37	弥生 土器	甕	口縁部	II-1	口径16.6cm(復) 器高 3.5cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:ハケメ 内:ヨコハケ	灰白色(10YR8/2)	II様式 非河内産
38	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径13.6cm(復) 器高 4.5cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:不明 内:ナデ	に赤い褐色(75YR5/3)	II様式 生駒西麓産
39	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径16.6cm(復) 器高 2.4cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ハケメ 内:口縁部内面をヨコハケ	に赤い褐色(5YR6/4)	II様式 非河内産
40	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径19.0cm(復) 器高 4.8cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ハケメ 内:口縁部内面をヨコハケ、以下ナデ	灰白色(SYR1)	II様式 非河内産
41	弥生 土器	甕	口縁 ～頸部	II-1	口径36.6cm(復) 器高 4.4cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ハケメ 内:ヨコハケ	に赤い黄褐色(10YR5/3)	II様式 生駒西麓産 口縁端部に削み日
42	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径39.8cm(復) 器高 7.7cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ハケ後ナデ 内:ハケメ	に赤い褐色(75YR6/4)	II様式 生駒西麓産
43	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径17.0cm(復) 器高 3.2cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:ナデ 内:ハケメ	灰褐色(75YR5/2)	II様式 生駒西麓産
44	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径21.2cm(復) 器高 5.7cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は大きく外反する 口縁端部は尖り気味に終わる 外:ハケメ 内:ナデ	黄灰色(25Y4/1)	II様式 生駒西麓産
45	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径27.0cm(復) 器高 7.3cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は大きく外反する 口縁端部は尖り気味に終わる 外:ハケメ 内:口縁部内面をヨコハケ、以下ナデ	に赤い褐色(5YR6/4)	II様式 生駒西麓産

※(復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

種別 固形 部品	種類 部品	残存 部位	地区 部位	法典(cm)	特徴	色調	備考
46 弥生 上器	甌 ～体部	II-1	口径15.0cm(復) 器高 5.6cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:ハケ後ナデ 内:ハラミガキ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	II様式 生駒西麓産 外側に焼付有	
47 弥生 上器	甌 ～体部	II-1	口径13.6cm(復) 器高 5.0cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:ハケ後ヘラミガキ 内:ナデ	黒色(5Y2/1)	II様式 非河内産	
48 弥生 上器	甌 ～体部	II-1	口径17.6cm(復) 器高 3.8cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:ハケ後ヘラミガキ 内:ナデ	黒色(5Y2/1)	II様式 生駒西麓産 外側に焼付有	
49 弥生 上器	甌 口縁部	II-1	口径17.0cm(復) 器高 3.8cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:口縁部内面をヨコハケ	黄灰色(25Y4/1)	II様式 非河内産	
50 弥生 上器	甌 口縁部	II-1	口径17.0cm(復) 器高 2.3cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:ヘラミガキ 内:口縁部内面をヨコハケ	にぶい褐色(5YR6/4)	II様式 非河内産	
51 弥生 上器	甌 ～体部	II-1	口径15.4cm(復) 器高 6.4cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:ヘラミガキ 内:ナデ	黒褐色(10YR3/2)	II様式 非河内産	
52 弥生 上器	甌 ～体部	II-1	口径27.0cm(復) 器高10.2cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ハケ後ヘラミガキ 内:頭部内面はヘラミガキ、以下ナデ	黄灰色(25Y5/1)	II様式 生駒西麓産	
53 弥生 上器	甌 ～体部	II-1	口径25.0cm(復) 器高 8.0cm(残)	体部の張りは大きい 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ハケ後ヘラミガキ 内:頭部内面はヘラミガキ、以下ナデ	黄灰色(25Y5/1)	II様式 生駒西麓産	
54 弥生 上器	甌 ～体部	II-1	口径34.6cm(復) 器高 6.3cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は大きく外反し、端部はやや面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナデ	にぶい褐色(7.5YR5/2)	II様式 生駒西麓産	
55 弥生 上器	甌 口縁部	II-1	口径22.7cm(復) 器高 2.1cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:ヘラミガキ 内:ナデ	黒色(25Y2/1)	II様式 生駒西麓産 外側に焼付有	
56 弥生 上器	甌 ～体部	II-1	口径15.8cm(復) 器高 6.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は大きく外反し、端部はやや面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナデ	黒褐色(25Y3/1)	II様式 生駒西麓産 外側に焼付有	
57 弥生 上器	甌 口縁部	II-1	口径17.6cm(復) 器高 3.2cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナデ	黒褐色(25Y3/1)	II様式 生駒西麓産 外側に焼付有	
58 弥生 上器	甌 ～体部	II-1	口径19.6cm(復) 器高 4.3cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナデ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	II様式 生駒西麓産	
59 弥生 上器	甌 ～体部	II-1	口径20.6cm(復) 器高 8.1cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナデ	灰黄褐色(10YR4/2)	II様式 生駒西麓産	
60 弥生 上器	甌 ～体部	II-1	口径21.0cm(復) 器高 4.5cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:不明 内:ヘラミガキ	褐色(25YR6/6)	II様式 生駒西麓産	

※ (復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

博聞 図版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
61	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-I	口径19.4cm(復) 器高 48cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は大きく外反し、縁部は丸く終わる 外: ハラケズリ? 内: ナデ	明褐色(7.5YR7/2)	II様式 非河内産
62	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-I	口径22.2cm(復) 器高 6.6cm(残)	口縁部はゆるく外反し、縁部は丸く終わる 外: 小崩 内: ハラミガキ	外: 黒褐色(10YR3/1) 内: にせい青褐色(10YR4/3)	II様式 生駒西麓産 体部外面に錫付着
63	弥生 土器	甕	口縁部	II-I	口径23.0cm(復) 器高 22cm(残)	口縁部はゆるく外反し、縁部は面を持つ 外: ハラミガキ 内: ハラミガキ	灰褐色(5YR5/2)	II様式 非河内産
64	弥生 土器	甕	口縁部	II-I	口径24.8cm(復) 器高 20cm(残)	口縁部はゆるく外反し、縁部は面を持つ 外: 工具によるナデ 内: ハケメ	にせい黄褐色(10YR5/3)	II様式 牛駒西麓産 口縁下端部に刻み目
65	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-I	口径27.8cm(復) 器高 38cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部はやや面を持つ 外: 不明 内: ハラミガキ	にせい褐色(7.5YR6/4)	II様式 生駒西麓産
66	弥生 土器	甕	口縁部	II-I	口径21.8cm(復) 器高 32cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は大きく外反する 口縁部は尖り気味に終わる 外: ナデ 内: ナデ	にせい褐色(7.5YR7/3)	II様式 生駒西麓産
67	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-I	口径20.6cm(復) 器高 5.7cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部は丸く終わる 外: ナデ 内: ナデ	灰褐色(10YR5/2)	II様式 生駒西麓産
68	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-I	口径 9.4cm(復) 器高 42cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、縁部は面を持つ 外: ハケ後ナデ 内: ナデ?	褐色(7.5YR4/1)	III～IV様式 非河内産
69	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-I	口径13.2cm(復) 器高 3.4cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、縁部は面を持つ 外: ハケ後ヘラミガキ 内: ナデ	黄褐色(2.5Y4/1)	III～IV様式 生駒西麓産
70	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-I	口径11.8cm(復) 器高 6.4cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、縁部はやや面を持つ 外: ハケメ 内: ナデ	黑色(2.5Y2/1)	III～IV様式 生駒西麓産
71	弥生 土器	甕	口縁部	II-I	口径14.0cm(復) 器高 11cm(残)	口縁部は強く外反する 口縁部は面を持ち、上方へ挿み上げる 外: 不明 内: 不明	暗灰黄色(2.5Y5/2)	III～IV様式 生駒西麓産
72	弥生 土器	甕	口縁部	II-I	口径13.8cm(復) 器高 22cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は大きく外反し、縁部は面を持つ 外: 不明 内: ナデ	黄褐色(2.5Y4/1)	III～IV様式 非河内産
73	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-I	口径12.4cm(復) 器高 6.4cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、縁部は面を持つ 外: ハラミガキ 内: ナデ	灰褐色(10YR5/2)	III～IV様式 生駒西麓産 内面に粘土斑痕
74	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-I	口径16.4cm(復) 器高 4.4cm(残)	体部の張りは大きい 口縁部は強く外反し、縁部は面を持つ 外: ハケメ 内: ナデ	にせい褐色(5YR6/4)	III～IV様式 生駒西麓産
75	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-I	口径20.0cm(復) 器高 3.4cm(残)	体部の張りは大きい 口縁部は強く外反し、縁部はやや面を持つ 外: ハケ後ナデ 内: ナデ	灰褐色(10YR4/2)	III～IV様式 牛駒西麓産

※ (復) は復元径、(残) は残存高・残存長を表す

標記 図版	種類	器種	残存 部位	地区 基準	法華(cm)	特徴	色調	備考
76	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径24.4cm(復) 器高10.0cm(残)	体部の張りは大きい 口縁部は強く外反し、頸部は面を持つ 外:ナデ 内:ナデ	灰青褐色(10YR5/2)	III～IV様式 生駒西龍原
77	弥生 土器	甕	口縁部	II-1	口径28.8cm(復) 器高 23.0cm(残)	口縁部はゆるく外反し、頸部は面を持つ 外:不明 内:不明	に赤い褐色(7.5YR6/3)	III～IV様式 生駒西龍原
78	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径10.4cm(復) 器高 4.0cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 口縁部は丸く終わる 外:ハラミガキ 内:ハケ後ナデ	黄灰色(25Y4/1)	II様式 生駒西龍原
79	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径11.6cm(復) 器高 5.0cm(残)	体部は外上方へ立ち上がる 口縁部は丸く気味に終わる 外:ハラミガキ 内:ハラミガキ	褐色(10YR4/1)	II様式 生駒西龍原 口縁端部に刷み目
80	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径23.5cm(復) 器高 6.0cm(残)	体部は外上方へ立ち上がる 口縁部は丸く終わる 外:鷹揚直進文(7条/11cm)～横 文様帶間はハラミガキ 内:ナデ	黄灰色(25Y4/1)	II様式 生駒西龍原
81	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径20.4cm(復) 器高 6.5cm(残)	体部は外上方へ立ち上がる 口縁部はやや面を持つ 外:不明 内:工具によるナデ	黄褐色(25Y5/3)	II様式 生駒西龍原
82	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径27.2cm(復) 器高 8.1cm(残)	体部は外上方へ立ち上がる 口縁部はやや面を持つ 外:ナデ 内:ナデ	に赤い黄褐色(10YR6/3)	II様式 生駒西龍原
83	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径24.4cm(復) 器高 3.6cm(残)	体部は外上方へ立ち上がる 口縁部は丸く終わり、内側へ肥厚する 外:ハラミガキ 内:ハラミガキ	に赤い黄褐色(10YR5/3)	II様式 生駒西龍原
84	弥生 土器	甕	口縁部	II-1	口径16.6cm(復) 器高 3.6cm(残)	体部は外上方へ立ち上がる 口縁部は面を持つ 外:不明 内:ナデ	灰白色(25Y8/2)	III～IV様式 生駒西龍原 口縁部に刷み目
85	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径22.0cm(復) 器高 7.2cm(残)	体部はやや内傾して立ち上がる 口縁部は強く外反し、頸部は面を持つ 外:ハラミガキ 内:ハラミガキ	灰褐色(5YR5/2)	III～IV様式 生駒西龍原
86	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径25.0cm(復) 器高 5.0cm(残)	体部は外上方へ立ち上がる 口縁部は面を持つ 外:鷹揚直進文(9条/11cm)～垂、以下羽形文 文様帶間はハラミガキ 内:ハケ後ナデ	に赤い褐色(7.5YR6/3)	III～IV様式 生駒西龍原
87	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径29.8cm(復) 器高 3.9cm(残)	体部は外上方へ立ち上がる 口縁部は面を持つ 外:鷹揚直進文(10条/16cm)～垂 文様帶間はハラミガキ 内:ハラミガキ	に赤い褐色(7.5YR5/3)	III～IV様式 生駒西龍原
88	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-1	口径38.0cm(復) 器高 8.0cm(残)	体部は上方へ立ち上がる 口縁部は面を持つ 外:不明 内:ハケメ	に赤い褐色(7.5YR7/3)	III～IV様式 生駒西龍原
89	弥生 土器	高杯	柱部	II-1	柱径 4.5cm 器高12.0cm(残)	柱状部は中実 外面をハラミガキ	灰黃褐色(10YR5/2)	II様式 生駒西龍原 柱状部上位に刷み目突起
90	弥生 土器	高杯	脚部	II-1	底径 7.2cm(復) 器高 11.0cm(残)	脚部はゆるく立ち上がり、根瘤部は面を持つ 外:ハラミガキ 内:ナデ	灰褐色(7.5YR4/2)	II様式 生駒西龍原

※ (復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

件名 図版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
91	弥生 土器	高杯	縁部	II-1	底径15.4cm(復) 器高 3.9cm(残)	縁部はゆるく立ち上がる 縁端部は面を持ち、上方へ弧張する 外:ヘラミガキ(風化著しい) 内:不明	明赤褐色(2.5YR5/6)	Ⅲ～Ⅳ様式 非河内産
92	弥生 土器	高杯	口縁部	II-1	口径18.0cm(復) 器高 2.9cm(残)	体部は上方へ立ち上がる 口縁端部は面を持つ 外:輪状文二帯 列点文一帯 内:ナゲ	灰黄褐色(10YR5/2)	Ⅲ～Ⅳ様式 牛駒西麓産
93	弥生 土器	高杯	口縁 ～体部	II-1	口径19.8cm(復) 器高 3.4cm(残)	体部は外上方へ立ち上がる 口縁端部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナゲ	灰黄色(2.5Y7/2)	Ⅲ～Ⅳ様式 牛駒西麓産
94	弥生 土器	高杯	口縁 ～体部	II-1	口径21.0cm(復) 器高 5.7cm(残)	体部は内済して立ち上がる 口縁端部は面を持つ 外:四瓣文(6条)、以下ハケメ 内:ナゲ	にぶい赤褐色(10YR7/2)	Ⅲ～Ⅳ様式 非河内産
95	弥生 土器	蓋	縁部	II-1	口径18.8cm(復) 器高 1.9cm(残)	体部はゆるく立ち上がる 口縁端部はやや圓を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナゲ	黄灰色(2.5Y4/1)	中期 牛駒西麓産
96	弥生 土器	蓋	縁部	II-1	口径19.8cm(復) 器高 2.0cm(残)	体部はゆるく立ち上がる 口縁端部は面を持つ 外:不明 内:ナゲ	暗灰黄色(2.5Y5/2)	中期 牛駒西麓産
97	弥生 土器	—	底部	II-1	底径10.6cm(復) 器高 4.3cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ヘラミガキ 内:ナゲ	黄灰色(2.5Y5/1)	中期 非河内産 底面が上げ放
98	弥生 土器	—	底部	II-1	底径10.8cm(復) 器高 3.5cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ハケズリ 内:ナゲ	暗灰黄色(2.5Y5/2)	中期 牛駒西麓産
99	弥生 土器	—	底部	II-1	底径 7.4cm 器高 5.1cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ミガキ 内:ハケ後ナゲ	灰白色(2.5Y8/1)	中期 非河内産
100	弥生 土器	—	底部	II-1	底径 9.0cm(復) 器高 3.3cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ヘラミガキ 内:不明	灰色(N4/0)	中期 牛駒西麓産
101	弥生 土器	—	底部	II-1	底径10.8cm(復) 器高 5.0cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:不明 内:ナゲ	灰黄褐色(10YR6/2)	中期 牛駒西麓産
102	弥生 土器	—	底部	II-1	底径 7.2cm 器高 7.0cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ミガキ 内:ミガキ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	中期 牛駒西麓産 底部に粘土縫を貼付 凸台状の底部を形成
103	弥生 土器	—	底部	II-1	底径17.0cm(復) 器高 5.7cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ヘラミガキ 内:ナゲ	灰黄褐色(10YR5/2)	中期 牛駒西麓産
104	弥生 土器	—	底部	II-1	底径 4.4cm 器高 2.8cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ハマ後ミガキ 内:ナゲ	灰褐色(7.5YR5/2)	中期 非河内産
105	弥生 土器	—	底部	II-1	底径 5.6cm(復) 器高 2.7cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ケズ後ミガキ 内:ナゲ	灰黄褐色(10YR4/2)	中期 牛駒西麓産

※ (復) は復元径、(残) は残存高・残存長を表す

神國 国版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
106	弥生 土器	一	底部	II-1	底長径 6.6cm 短径 5.6cm 器高 4.1cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:不明 内:ナデ	灰褐色(7.5YR5/2)	中期 非河内産
107	弥生 土器	一	底部	II-1	底径 5.4cm 器高 3.4cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:不明 内:ナデ	外:に赤い褐色(5YR7/3) 内:黒褐色(10Y3/1)	中期 生駒西麓産
108	弥生 土器	一	底部	II-1	底径 6.4cm 器高 5.1cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ハケ後ミガキ 内:ナデ	に赤い黄褐色(10YR5/4)	中期 生駒西麓産
109	弥生 土器	一	底部	II-1	底径 7.6cm(復) 器高 2.7cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ハラミガキ 内:ハラミガキ	黑色(2.5Y2/1)	中期 生駒西麓産
110	弥生 土器	一	底部	II-1	底径 5.0cm 器高 3.8cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ハラミガキ 内:ハラミガキ	灰黄色(2.5Y6/2)	中期 生駒西麓産
111	弥生 土器	一	底部	II-1	底径 6.0cm 器高 8.4cm(残)	体部は下方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:不明 内:ミガキ	に赤い褐色(7.5YR6/3)	中期 生駒西麓産
112	弥生 土器	一	底部	II-1	底径 5.6cm(復) 器高 3.3cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ハラミガキ 内:ナデ	灰黄褐色(10YR5/2)	中期 生駒西麓産 底面に木葉痕
113	弥生 土器	一	底部	II-1	底径 4.6cm 器高 4.0cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:不明 内:ナデ	褐灰色(10YR4/1)	中期 生駒西麓産 底面に木葉痕
114	弥生 土器	一	底部	II-1	底径 7.4cm(復) 器高 4.4cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ハケ 内:ナデ	黑色(2.5Y4/1)	中期 非河内産 底面に木葉痕 内側に焼付着
115	弥生 土器	一	底部	II-1	底径 5.3cm(復) 器高 4.1cm(残)	体部は下方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ハケ 内:ナデ	褐灰色(10YR5/1)	中期 生駒西麓産 底面に木葉痕
116	縄文 土器	漆鉢	口縁部	II-2	口径30.6cm(復) 器高 45.0cm(残)	口縁部の盛りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ミガキ 内:ナデ	灰黄褐色(10YR5/2)	縄文晩期 生駒西麓産 口縁下部に無み日
117	弥生 土器	壺	口縁部	II-2	口径15.8cm(復) 口径 18cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:ハケ 内:ナデ	黄灰色(2.5Y4/1)	II様式 生駒西麓産
118	弥生 土器	壺	口縁部	II-2	口径17.0cm(復) 器高 1.1cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:不明 内:口縁部内面をヨコハケ	黄灰色(2.5Y4/1)	II様式 生駒西麓産 口縁端部に櫛搔波状文
119	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	II-2	口径16.2cm(復) 器高 4.5cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部はやや面を持つ 外:不明 内:ナデ	外:灰黄色(2.5Y6/2) 内:黑色(7.5Y2/1)	II様式 生駒西麓産
120	弥生 土器	壺	口縁 ～全体	II-2	口径16.2cm(復) 器高 9.7cm(残)	口縁部の盛りは少ない 口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:櫛搔直線文(5条/0.75cm)五帶 内:ナデ	に赤い褐色(7.5YR5/4)	II様式 生駒西麓産

※ (復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

博物 園類	種類	器種	残存 部位	地区 部位	法量(cm)	特徴	色調	備考
I21	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	II-2	口径18.6cm(復) 器高 4.5cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は大きく終わる 外：横幅直線文(7条/10cm)一帯 内：ナデ	橙色(5YR6/6)	II様式 生駒西麓産
I22	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	II-2	口径16.0cm(復) 器高 4.5cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ小さく拡張する 外：ハケ後ヘラミガキ 内：ナデ	に赤い黄褐色(10YR5/3)	II様式 生駒西麓産
I23	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	II-2	口径16.4cm(復) 器高 8.6cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ小さく拡張する 外：ハケ後ヘラミガキ 内：ナデ	に赤い黄褐色(10YR5/3)	II様式 生駒西麓産
I24	弥生 土器	壺	口縁部	II-2	口径19.6cm(復) 器高 21cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外：不明 内：不明	黄灰色(25Y4/1)	II様式 生駒西麓産
I25	弥生 土器	壺	口縁部	II-2	口径22.0cm(復) 器高 20cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外：ヘラミガキ 内：ヘラミガキ	黄灰色(25Y4/1)	II様式 生駒西麓産
I26	弥生 土器	壺	口縁部	II-2	口径27.4cm(復) 器高 21cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外：ヘラミガキ 内：不明	に赤い褐色(7.5YR5/4)	II様式 生駒西麓産
I27	弥生 土器	壺	口縁部	II-2	口径18.8cm(復) 器高 16cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ拡張する 外：不明 内：ナデ	灰黄褐色(10YR5/2)	III～IV様式 生駒西麓産
I28	弥生 土器	壺	口縁部	II-2	口径20.9cm(復) 器高 17.7cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ拡張する 外：小明 内：小明	黑褐色(10YR3/1)	III～IV様式 生駒西麓産 口縁部外面に鶴嘴状文
I29	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	II-2	口径24.4cm(復) 器高 4.3cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は下方へ拡張し、幅広の面を持つ 外：不明 内：ヘラミガキ	に赤い褐色(7.5YR6/4)	III～IV様式 非河内産 口縁下端部に 鶴工具による刷込み
I30	弥生 土器	壺	口縁部	II-2	口径25.0cm(復) 器高 13cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ拡張する 外：不明 内：小明	灰黄褐色(10YR5/2)	III～IV様式 生駒西麓産 口縁下端部に 鶴嘴状文
I31	弥生 土器	壺	口縁部	II-2	口径29.8cm(復) 器高 4.2cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ拡張する 外：ハゲメ 内：ナデ	に赤い褐色(5YR5/4)	III～IV様式 生駒西麓産
I32	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	II-2	口径18.0cm(復) 器高 3.0cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ拡張する 外：ハゲメ 内：ヨコナデ	に赤い褐色(5YR6/3)	III～IV様式 非河内産 口縁下端部に刷込み
I33	弥生 土器	壺	口縁部	II-2	口径24.0cm(復) 器高 18cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ拡張する 外：不明 内：口縁部内面に鶴嘴状文	灰白色(25Y8/1)	III～IV様式 非河内産 口縁部外面に鶴嘴状文
I34	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	II-2	口径12.0cm(復) 器高 3.3cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ拡張する 外：横幅直線文 内：ナデ	灰黄褐色(10YR5/2)	III～IV様式 非河内産 口縁下端部に刷込み
I35	弥生 土器	壺	口縁部	II-2	口径13.0cm(復) 器高 1.2cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ拡張する 外：不明 内：口縁部内面に鶴嘴状文	灰黄色(25Y7/2)	III～IV様式 非河内産 口縁部外面に四線文

※（復）は復元形、（残）は残存高・残存長を表す

神奈 四版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法番(ca)	特徴	色調	備考
136	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	II-2	口径16.0cm(復) 器高 3.4cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ折張する 外：撻羅彌状文(20条 /1.8cm)一帯 内：ナデ	に赤い黄褐色(10YR5/4)	III～IV様式 生駒西麓産 口縁部に撻羅彌状文
137	弥生 土器	無強度	口縁 ～体部	II-2	口径12.0cm(復) 器高 5.6cm(残)	体部は内傾して立ち上がる 口縁部は強く外反し、面を持つ 外：撻羅彌状文・帯、以ト列点文、ヘラミガキ 文様帶内はヘラミガキ	暗灰黄色(2.5Y5/2)	III～IV様式 牛駒西麓産 口縁部外面に刻み目 口縁部下小円孔
138	弥生 土器	無強度	口縁部	II-2	口径 8.2cm(復) 器高 3.2cm(残)	体部は内傾して立ち上がる 口縁部は面を持つ 外：撻羅彌状文 撻羅彌直線文(10条 /1.1cm)二帯 内：ヘラミガキ	黄灰色(2.5Y5/1)	III～IV様式 非河内産 口縁部に二個一对の小円孔
139	弥生 土器	無強度	口縁 ～頸部	II-2	口径13.0cm(復) 器高16.0cm(残)	口縁部は外上方向へ立ち上がる 口縁部は内傾し、頸部は丸く終わる 外：口縁部に撻羅彌点文・帯 頸部に撻羅彌直線文(13条 /1.7cm)六帯 内：ナデ	外：貴灰色(2.5Y4/1) 内：黒色(N1.5/0)	III～IV様式 生駒西麓産 列点文上に円形浮文
140	弥生 土器	無強度	口縁部	II-2	口径 4.8cm(復) 器高 3.6cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外：ヘラミガキ 内：ナデ	灰黃褐色(10YR5/2)	III～IV様式 非河内産
141	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	II-2	口径29.8cm(復) 器高 9.6cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外：工具によるナデ 内：ハケメ	に赤い黄褐色(10YR5/3)	III～IV様式 牛駒西麓産 口縁部下部に刻み目
142	弥生 土器	壺	口縁部	II-2	口径13.4cm(復) 器高 2.9cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外：ヘラミガキ 内：口縁部内面をヨコハケ、以下ナデ	に赤い橙色(5YR6/3)	II様式 非河内産 口縁部に刻み目
143	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	II-2	口径14.8cm(復) 器高 3.8cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外：ヘラミガキ 内：ナデ	褐灰色(10YR5/1)	II様式 非河内産 口縁部に刻み目
144	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	II-2	口径16.2cm(復) 器高 3.5cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外：ハケメ 内：口縁部内面をヨコハケ、以下はナデ	外：暗灰色(N3/0) 内：灰白色(2.5Y7/1)	II様式 非河内産 口縁部に刻み目
145	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	II-2	口径19.0cm(復) 器高 3.5cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外：ハケメ 内：口縁部内面をヨコハケ	黒褐色(10YR3/1)	II様式 非河内産 口縁部に刻み目
146	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	II-2	口径14.1cm(復) 器高 2.8cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外：ハケメ 内：口縁部内面をヨコハケ	に赤い黄褐色(10YR7/2)	II様式 非河内産 口縁部に刻み目
147	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	II-2	口径13.2cm(復) 器高 6.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、端部はやや面を持つ 外：ハケメ 内：ナデ	黑色(10YR2/1)	II様式 生駒西麓産
148	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	II-2	口径15.6cm(復) 器高 6.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反する 口縁部は尖り気味に終わる 外：ハケメ 内：ヘラミガキ	褐灰色(10YR4/1)	II様式 牛駒西麓産 外面に規定有
149	弥生 土器	壺	口縁部	II-2	口径16.1cm(復) 器高 2.2cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反する 口縁部は尖り気味に終わる 外：ハケメ 内：ヘラミガキ	褐灰色(10YR4/1)	II様式 生駒西麓産
150	弥生 土器	壺	口縁部	II-2	口径21.5cm(復) 器高 2.5cm(残)	口縁部はゆるく外反する 口縁部は尖り気味に終わる 外：ハケメ 内：口縁部内面をヨコハケ	黄灰色(2.5Y4/1)	II様式 生駒西麓産

※ (復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

件番 図版	種類	器種	残存 部位	地区 局所	法量(cm)	特徴	色調	備考
151	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径23.0cm(復) 器高 5.6cm(残)	口縁部は大きく外反し、縁部は丸く終わる 外:ハケメ 内:ヨコハケ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	II様式 非河内産
152	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径33.8cm(復) 器高 4.4cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部は面を持つ 外:ハケメ 内:ヨコハケ	灰白色(5Y8/1)	II様式 非河内産
153	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径28.6cm(復) 器高 6.2cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部は面を持つ 外:ハケ後ヘラミガキ 内:ヘラスリ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	II様式 生駒西龍産
154	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径35.0cm(復) 器高 6.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部は面を持つ 外:ハケ後ヘラミガキ 内:ハケメ	にぶい黄褐色(5YR5/4)	II様式 生駒西龍産
155	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径35.4cm(復) 器高 3.4cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ヨコハケ	黄灰色(25Y4/1)	II様式 生駒西龍産 口縁部に削み日
156	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径38.0cm(復) 器高 9.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部は面を持つ 外:ハケ後ナデ 内:ナデ	黒色(25Y2/1)	II様式 小駒西龍産 口縁部に削み日
157	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径42.0cm(復) 器高 8.4cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部は丸く終わる 外:ヘラミガキ 内:ナデ後ヘラミガキ	暗灰色(N3/0) にぶい黄褐色(10YR6/3)	II様式 生駒西龍産
158	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径16.8cm(復) 器高 3.2cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部は面を持つ 外:ハケ後ヘラミガキ 内:ヨコハケ	にぶい橙色(5YR6/4)	II様式 非河内産 口縁部に削み日
159	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径14.4cm(復) 器高 3.4cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、縁部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ヨコハケ面内をヨコハケ、以下ナデ	暗灰色(N3/0)	II様式 非河内産
160	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径20.0cm(復) 器高 6.5cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナデ	黒褐色(25Y3/1)	II様式 生駒西龍産
161	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径14.8cm(復) 器高 4.6cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部はやや面を持つ 外:不明 内:ナデ	褐色(10YR4/1)	II様式 生駒西龍産 外面に擦付有
162	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径15.2cm(復) 器高 4.7cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部は丸く終わる 外:ハケ後ナデ 内:ナデ	黒褐色(10YR3/1)	II様式 生駒西龍産
163	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径16.6cm(復) 器高 4.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部は丸く終わる 外:ヘラミガキ 内:ナデ	黒褐色(7.5YR3/1)	II様式 生駒西龍産
164	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径17.0cm(復) 器高 5.7cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部はやや面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ヨコハケ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	II様式 生駒西龍産
165	弥生 土器	甕	口縁部	II-2	口径18.0cm(復) 器高 3.6cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部は丸く終わる 外:ヘラミガキ 内:ナデ	黒褐色(10YR3/1)	II様式 生駒西龍産

※ (復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

横開 国版	種類	器種	残存 部位	地区 位	法量(cm)	特徴	色調	備考
166	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-2	口径21.6cm(復) 器高 5.6cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外: ハラミガキ 内: ナデ	にぶい褐色(7.5YR5/3)	II様式 生駒西麓産
167	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-2	口径13.2cm(復) 器高 4.7cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外: ナデ・ヘラミガキ 内: ハラミグズリ	黒褐色(7.5YR3/1)	II様式 生駒西麓産
168	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-2	口径14.2cm(復) 器高 3.4cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外: 不明 内: 不明	灰青褐色(10YR4/2)	II様式 生駒西麓産
169	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-2	口径16.0cm(復) 器高 3.6cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外: ハラミガキ 内: ハラミガキ	黄褐色(2.5Y4/1)	II様式 生駒西麓産
170	弥生 土器	甕	口縁部	II-2	口径15.4cm(復) 器高 2.1cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外: 不明 内: ナデ	黒褐色(2.5Y3/1)	II様式 生駒西麓産
171	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-2	口径17.8cm(復) 器高 6.2cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外: ハラミガキ 内: ナデ	灰青褐色(10YR4/2)	II様式 生駒西麓産
172	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-2	口径18.8cm(復) 器高 3.7cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外: ハラミガキ 内: ハラミガキ	黒褐色(2.5Y3/1)	II様式 生駒西麓産
173	弥生 土器	甕	口縁部	II-2	口径18.6cm(復) 器高 1.2cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部はやや面を持つ 外: ハラミガキ 内: 不明	灰青褐色(10YR4/2)	II様式 生駒西麓産
174	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-2	口径17.6cm(復) 器高 3.2cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外: ナデ 内: ナデ	黒褐色(10YR3/1)	II様式 生駒西麓産
175	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-2	口径21.5cm(復) 器高 4.3cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外: ハラミガキ 内: ナデ	灰青褐色(10YR4/2)	II様式 生駒西麓産
176	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-2	口径21.6cm(復) 器高 3.6cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外: 不明 内: ナデ	外: 褐灰色(10YR5/1) 内: にぶい黄褐色(10YR7/3)	II様式 生駒西麓産
177	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-2	口径19.8cm(復) 器高11.5cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外: ハケ後・ハラミガキ 内: ハラミガキ	褐灰色(10YR4/1)	II様式 生駒西麓産
178	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-2	口径11.0cm(復) 器高 6.1cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、端部は丸く終わる 外: ハラミガキ 内: ハケメ	褐灰色(10YR4/1)	III～IV様式 生駒西麓産
179	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-2	口径12.0cm(復) 器高 6.3cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外: ハラミガキ 内: ナデ	黑色(2.5Y2/1)	III～IV様式 生駒西麓産
180	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-2	口径16.0cm(復) 器高 4.2cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外: ハラミガキ 内: ナデ	灰白色(7.5Y7/1)	III～IV様式 非内巻 口縁部に削み日

※ (復) は復元径、(残) は残存高・残存長を表す

種類 固形	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
181 株生 土器	甕	口縁部	II-2	口径22.0cm(復) 器高 3.2cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ハケメ 内:ハケメ	灰黄褐色(10YR6/2)	III~IV様式 生駒西麓産 口縁部に刷毛目	
182 株生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径21.0cm(復) 器高 4.7cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ハラミガキ 内:ハラミガキ	にぶい黄褐色(10YR6/3)	III~IV様式 生駒西麓産	
183 株生 土器	甕	口縁 ~体部	II-2	口径20.0cm(復) 器高 5.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ハケメ 内:ナデ	黒褐色(2.5Y3/1)	III~IV様式 生駒西麓産	
184 株生 土器	鉢	口縁 ~体部	II-2	口径31.4cm(復) 器高 3.2cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ハラミガキ 内:ハラミガキ	にぶい褐色(7.5YR6/3)	II様式 生駒西麓産	
185 株生 土器	鉢	口縁 ~底部	II-2	口径10.4cm(復) 器高 4.2cm	体部は外方へ立ち上がる 口縁部はやや面を持つ 外:丸足を呈する 外:エビオサエ後へラミガキ 内:ケズリ後へラミガキ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	中期 生駒内麓産	
186 株生 土器	高杯	口縁部	II-2	口径17.0cm(復) 器高 2.8cm(残)	体部はやや内側にして立ち上がる 口縁部は面を持つ 外:小明 内:小明	黄灰色(2.5Y4/1)	II様式 生駒西麓産	
187 株生 土器	高杯	脚部	II-2	底径13.0cm(復) 器高 1.3cm(残)	脚部はゆるく立ち上がる 脚部には面を持ち、上方へ拡張する 外:平底竹管文二帶 内:ナデ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	中期 生駒西麓産	
188 株生 土器	高杯	脚部	II-2	底径14.0cm(復) 器高 2.2cm(残)	脚部はゆるく立ち上がる 脚部には面を持ち、上方へ拡張する 外:ハラミガキ 内:ハケ後ナデ	灰黄褐色(10YR5/2)	中期 生駒内麓産	
189 株生 土器	壺蓋	完形	II-2	縫み径 1.0cm 口径 8.6cm 器高 3.1cm	体部はゆるく立ち上がる 縫み部は円形を呈する 口縁部はやや面を持つ 外:ハラミガキ 内:ナデ	褐灰色(10YR4/1)	III~IV様式 生駒西麓産 口縁部に一箇一对の小円孔	
190 株生 土器	壺蓋	3/4 残存	II-2	縫み径 1.3cm 口径11.8cm(復) 器高 3.8cm	体部はゆるく立ち上がる 縫み部は円形を呈する 口縁部は丸く終わる 外:ナデ後ミガキ 内:ハラミガキ	黄灰色(2.5Y7/1)	III~IV様式 非河内産 口縁部に一箇一对の小円孔	
191 株生 土器	壺	縫み部	II-2	縫み径 3.4cm 器高 2.5cm(残)	縫み部は円形を呈する 外:不明 内:不明	にぶい赤褐色(2.5YR5/3)	中期 非河内産	
192 株生 土器	壺	縫み部	II-2	縫み径 5.5cm 器高 1.8cm(残)	縫み部は円形を呈する 外:ナデ 内:不明	黄灰色(2.5Y4/1)	中期 生駒西麓産	
193 株生 土器	壺	縫み ~裾部	II-2	縫み径 5.5cm 器高 8.5cm(残)	縫み部は円形を呈する 体部は大きく立ち上がる 外:ハケメ 内:ナデ	黑色(N2/0)	中期 生駒西麓産	
194 株生 土器	壺	口縁部	II-2	口径13.8cm(復) 器高 1.4cm(残)	体部はゆるく立ち上がる 口縁部はやや面を持つ 外:ハラミガキ 内:ハラミガキ	黒褐色(2.5Y3/1)	中期 生駒西麓産	
195 株生 土器	壺	口縁部	II-2	口径15.5cm(復) 器高 1.1cm(残)	体部はゆるく立ち上がる 口縁部はやや面を持つ 外:ハラミガキ 内:ナデ	にぶい黄褐色(10YR7/3)	中期 非河内産	

※(復)は復元形、(残)は残存高・残存長を表す

辨別 図版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法環(cm)	特徴	色調	備考
196	弥生 土器	—	底部	II-2	底径 6.6cm 器高 2.7cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ミガキ 内:ミガキ	灰黄褐色(10YR6/2)	中期 生駒西墓塚 底面に小円孔
197	弥生 土器	—	底部	II-2	底径 6.0cm 器高 5.5cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ナデ+ハラミガキ 内:ナデ	褐灰色(10YR4/1)	中期 生駒西墓塚 底面に小円孔
198	弥生 土器	—	底部	II-2	底径 6.8cm 器高 4.7cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:小輪 内:ナデ	にぶい赤褐色(5YR5/3)	中期 生駒西墓塚 底面にハラミガキ
199	弥生 土器	—	底部	II-2	底径 7.6cm 器高 4.0cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ハラミガキ 内:ナデ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	中期 生駒西墓塚 底面に板用か?
200	弥生 土器	—	底部	II-2	底径11.0cm 器高 6.6cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ハケ後ミガキ 内:ナデ後ミガキ	にぶい褐色(7.5YR6/3)	中期 生駒西墓塚
201	弥生 土器	—	底部	II-2	底径 7.0cm 器高 7.0cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ハラミガキ 内:ハラミガキ	灰褐色(7.5YR5/2)	中期 生駒西墓塚
202	弥生 土器	—	底部	II-2	底径 5.8cm 器高 2.9cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ナデ 内:ナデ	にぶい黄褐色(10YR7/4)	中期 非河内系
203	弥生 土器	—	底部	II-2	底径 6.2cm 器高 2.2cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:不明 内:ナデ	黄灰色(2.5Y4/1)	中期 生駒西墓塚 底面に木製痕
204	弥生 土器	—	底部	II-2	底径 6.8cm(底) 器高 3.6cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ハラミガキ 内:ナデ	灰黄褐色(10YR4/2)	中期 生駒西墓塚 底面に木製痕
205	弥生 土器	—	底部	II-2	底径10.0cm(底) 器高 6.0cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:不明 内:ナデ	灰黄褐色(10YR4/2)	中期 生駒西墓塚
206	弥生 土器	壺	口縁部	II-3	口径31.2cm(底) 器高 2.8cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ強張する 外:ハラミガキ 内:ナデ	黄灰色(2.5Y5/1)	II様式 非河内系 口縁下端部に指による 押圧施文
207	弥生 土器	壺	口縁 ~肩部	II-3	口径22.0cm(底) 器高 8.0cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:櫛振立線文(10条/1.3cm)二重 文様表面はハラミガキ 内:ハラミガキ	灰黄色(2.5Y6/2)	II様式 生駒西墓塚 口縁端部に刻み目 口縁内部に削形文
208	弥生 土器	壺	口縁 ~肩部	II-3	口径24.0cm(底) 器高 6.4cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:不明 内:ハラミガキ	黒褐色(2.5Y3/1)	II様式 生駒西墓塚 口縁端部に櫛振立線文
209	弥生 土器	壺	口縁部	II-3	口径21.2cm(底) 器高 9.8cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は下方へ強張し、端部の面を持つ 外:ハケ後ハラミガキ 内:ハラミガキ	にぶい赤褐色(2.5YR5/4)	II様式 非河内系 口縁端部成形時の指振圧痕
210	弥生 土器	壺	口縁部	II-3	口径23.6cm(底) 器高 4.8cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は下方へ強張し、端部の面を持つ 外:ハケ後ハラミガキ 内:ハラミガキ	灰白色(2.5Y7/1)	III~IV様式 非河内系 口縁下端部に刻み目

※(復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

種類 固版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
211	弥生 土器	壺	口縁部	II-3	口径31.2cm(復) 器高 16cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ拡張する 外:不明 内:不明	に赤い褐色(7.5YR7/4)	Ⅲ-Ⅳ様式 非河内產 口縁下端部に刻み目
212	弥生 土器	壺	口縁部	II-3	口径19.4cm(復) 器高 15cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部を上方へ拡張し、面を持つ 外:不明 内:不明	灰白色(2.5Y8/2)	中期 非河内產 口縁端部に錐形文 口縁部内面に層形文
213	弥生 土器	壺	口縁部	II-3	口径19.6cm(復) 器高 14cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ拡張する 外:不明 内:ナデ	黄灰色(2.5Y4/1)	中期 非河内產 口縁端部に刻み目
214	弥生 土器	壺	口縁部	II-3	口径20.8cm(復) 器高 20cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ拡張する 外:不明 内:不明	褐灰色(7.5YR1/1)	中期 牛胸西麓產
215	弥生 土器	壺	口縁部	II-3	口径12.0cm(復) 器高 2.5cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:ヘラミガキ 内:ヨコハケ	黒褐色(10YR3/1)	Ⅲ様式 非河内產 口縁端部に刻み目
216	弥生 土器	壺	口縁～体部	II-3	口径14.4cm(復) 器高 4.3cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:ハケメ 内:ナデ?	灰黃褐色(10YR5/2)	Ⅲ様式 非河内產 口縁端部に刻み目
217	弥生 土器	壺	口縁部	II-3	口径21.6cm(復) 器高 3.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は大きく外反し、端部は丸く終わる 外:ハケメ 内:ヨコハケ?	褐灰色(10YR4/1)	Ⅲ様式 非河内產
218	弥生 土器	壺	口縁～体部	II-3	口径21.0cm(復) 器高 5.5cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:ハケメ 内:ナデ	灰褐色(7.5YR6/2)	Ⅲ様式 非河内產
219	弥生 土器	壺	口縁部	II-3	口径30.0cm(復) 器高 3.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ハケメ 内:ハケメ	灰白色(2.5Y8/1)	Ⅲ様式 非河内產 口縁端部に錐状工具による 刻み目
220	弥生 土器	壺	口縁～体部	II-3	口径23.2cm(復) 器高 9.6cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ナデ 内:ナデ(工具?)	褐灰色(10YR4/1)	Ⅲ様式 牛胸西麓產
221	弥生 土器	壺	口縁～体部	II-3	口径39.8cm(復) 器高 8.1cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ハケ後:ラミガキ 内:ヨコハケ	褐色(7.5YR5/4)	Ⅲ様式 牛胸西麓產
222	弥生 土器	壺	口縁部	II-3	口径36.6cm(復) 器高 4.8cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ヘラミガキ	灰黃褐色(10YR4/2)	Ⅲ様式 生胸西麓產
223	弥生 土器	壺	口縁～体部	II-3	口径14.0cm(復) 器高 4.1cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、端部はやや面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナデ	黑褐色(2.5Y3/1)	Ⅲ様式 生胸西麓產 粘土縫痕有り
224	弥生 土器	壺	口縁部	II-3	口径15.2cm(復) 器高 3.3cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナデ	黄灰色(2.5Y4/1)	Ⅲ様式 牛胸西麓產 外面に深付着
225	弥生 土器	壺	口縁部	II-3	口径18.2cm(復) 器高 3.7cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナデ	灰黃褐色(10YR5/2)	Ⅲ様式 生胸西麓產

※ (復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

所蔵 団体	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
226	弥生 土器	甕	口縁部	II-3	口径18.6cm(復) 器高 19cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:不明 内:不明	黄灰色(2.5Y5/1)	II様式 生駒西麓産
227	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-3	口径14.8cm(復) 器高 4.6cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:不明 内:不明	にい黄褐色(10YR5/3)	II様式 非河内産
228	弥生 土器	甕	口縁部	II-3	口径14.6cm(復) 器高 4.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:ナデ後ハラミガキ 内:ハラミガキ	褐灰色(10YR4/1)	II様式 生駒西麓産 外側に保有着
229	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-3	口径16.6cm(復) 器高 7.5cm(残)	体部の張りは大きい 口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:ハケ後ハラミガキ 内:ナデ	黒色(2.5Y2/1)	III~IV様式 生駒西麓産
230	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-3	口径14.8cm(復) 器高 2.9cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ハラミガキ	黄灰色(2.5Y4/1)	III~IV様式 非河内産
231	弥生 土器	甕	口縁部	II-3	口径13.2cm(復) 器高 2.8cm(残)	体部の張りは大きい 口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ハラミガキ	褐褐色(10YR3/2)	III~IV様式 生駒西麓産
232	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-3	口径15.8cm(復) 器高 5.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:ハラミガキ 内:ハラミガキ	黑褐色(2.5Y3/1)	III~IV様式 生駒西麓産
233	弥生 土器	甕	口縁部	II-3	口径31.8cm(復) 器高 2.2cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:ハケ後ナデ 内:ナデ	灰白色(10YR8/2)	III~IV様式 非河内産 口縁下部に刻み目
234	弥生 土器	甕	口縁 ~体部	II-3	口径16.4cm(復) 器高13.0cm(残)	体部の張りは大きい 口縁部は大きく外反し、端部はやや面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ハラミガキ	褐灰色(10YR4/1)	III~IV様式 生駒西麓産
235	弥生 土器	甕	口縁部	II-3	口径21.2cm(復) 器高 3.5cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外:ヘラケスリ 内:ナデ	灰褐色(2.5Y7/2)	III~IV様式 非河内産
236	弥生 土器	小型甕	口縁部	II-3	口径 6.6cm(復) 器高 4.0cm(残)	体部は上方へ立ち上がる 口縁部は丸く終わる 外:不明 内:ナデ	灰色(5Y6/1)	II様式 生駒西麓産
237	弥生 土器	鉢	口縁部	II-3	口径19.0cm(復) 器高 2.6cm(残)	体部は上方へ立ち上がる 口縁部は段を持つ 外:擴張列点文 内:ヘラミガキ	灰褐色(10YR6/2)	III~IV様式 生駒西麓産 口縁部に刻み目
238	弥生 土器	鉢	口縁 ~体部	II-3	口径22.0cm(復) 器高 7.0cm(残)	体部はやや内傾して立ち上がる 口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外:擴張直線文(9条/1.6cm) 文様帶開口ハラミガキ 内:ハラミガキ	灰褐色(7.5YR5/2)	III~IV様式 生駒西麓産 口縁部に刻み目
239	弥生 土器	鉢	口縁 ~体部	II-3	口径34.0cm(復) 器高 6.4cm(残)	体部はやや内傾して立ち上がる 口縁部は丸く終わる 外:擴張直線文(6条/1.6cm) 文様帶開口ハラミガキ 内:ハラミガキ	灰褐色(10YR5/2)	III~IV様式 生駒西麓産 口縁部に斜格子刻み
240	弥生 土器	鉢	口縁 ~体部	II-3	口径39.4cm(復) 器高 6.7cm(残)	体部は内傾して立ち上がる 口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外:口縁部下に鶴造波紋 体部に鶴造直線文(6条/1.3cm)一帯 内:ナデ	青灰色(2.5Y6/1)	III~IV様式 生駒西麓産 口縁部に2条の凹溝文

※(復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

博団 図版	種類	器種	残存 部位	堆区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
241	弥生 土器	鉢	口縁部	II-3	口径34.0cm(復) 器高 3.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:不明 内:不明	黄灰色(25Y5/1)	II様式 生駒西麓産
242	弥生 土器	鉢	口縁 ～体部	II-3	口径40.0cm(復) 器高 8.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:ハケ後ヘラミガキ	灰褐色(7.5YR4/2)	II様式 生駒西麓産
243	弥生 土器	鉢	口縁 ～体部	II-3	口径49.0cm(復) 器高 9.3cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:櫛目横線文(9条/1.8cm)二巻 内:ナデ	にびい褐色(7.5YR6/3)	II様式 生駒西麓産
244	弥生 土器	小型鉢	2/3 残存	II-3	口径 8.0cm(復) 器高 4.0cm 底径 4.2cm	体部は外上方へ立ち上がり、 口縁端部は丸く終わる 底部は平底を呈する 外:ナデ 内:ナデ	黄灰色(25Y4/1)	中期 牛駒西麓産 体部と底部の境に稜突文 底面にユビオサエ
245	弥生 土器	高杯	口縁部	II-3	口径22.0cm(復) 器高 3.6cm(残)	体部はやや内傾して立ち上がる 口縁端部は面を持つ 外:櫛目横線文二巻 内:ナデ 内:不明	褐色(10YR4/1)	III～IV様式 生駒西麓産 口縁端部に刻み日
246	弥生 土器	高杯	脚部	II-3	底径12.2cm(復) 器高 2.4cm(残)	脚部はゆるく立ち上がる 脚端部は面を持ち、上方へ拡張する 外:ハラミガキ 内:ハケメ(細かい)	灰黄褐色(10YR6/2)	中期 生駒西麓産
247	弥生 土器	盃	口縁 ～体部	II-3	口径12.8cm(復) 器高 2.8cm(残)	体部はゆるく立ち上がる 口縁端部に気味に終わる 外:ハラミガキ 内:ハラミガキ	黑褐色(25Y3/1)	中期 生駒西麓産
248	弥生 土器	盃	口縁部	II-3	口径13.0cm(復) 器高 1.9cm(残)	体部はゆるく立ち上がる 口縁端部は丸く終わる 外:コナデ 内:ナケメ?	にびい褐色(5YR6/3)	中期 非河内産
249	弥生 土器	一	底部	II-3	底径 5.8cm 器高 6.4cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ハラミガキ 内:不明	にびい黄褐色(10YR6/3)	中期 非河内産 内面に羅付有
250	弥生 土器	一	底部	II-3	底径 6.0cm 器高 5.1cm(残)	体部は外上方へ立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ナケメ(細かい) 内:ナデ	黄褐色(25Y4/1)	中期 非河内産 底面に布目痕
251	弥生 土器	無底盃	口縁 ～体部	II-4	口径10.0cm(復) 器高 8.7cm(残)	体部は内溝して立ち上がる 口縁端部は丸く終わる 外:櫛目横線文(8条/1.1cm)五帯 直線上に崩形文を描す 内:ナデ(筋状的)にユビオサエ	灰黄褐色(10YR4/2)	II様式 生駒西麓産
252	弥生 土器	盃	口縁部	II-4	口径22.8cm(復) 器高 3.0cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ拡張する 外:ナケメ 内:口縁部内面に櫛目横線文、以下ハケメ	明赤褐色(25YR5/6)	II様式 非河内産 口縁端部に刻み日 近江、山城系
253	弥生 土器	盃	口縁部	II-4	口径14.8cm(復) 器高 3.5cm(残)	口縁部は面を持つ 外:櫛目横線文 内:ナデ	灰灰褐色(10YR5/2)	III～IV様式 生駒西麓産 口縁端部に櫛目横線文
254	弥生 土器	盃	口縁部	II-4	口径36.0cm(復) 器高 2.5cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:ナケメ 内:口縁部内面をヨロハケ	灰白色(10YR8/2)	II様式 非河内産 口縁端部外に斜格子文 口縁部内面に刻み目
255	弥生 土器	盃	口縁部	II-4	口径13.8cm(復) 器高 2.8cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はやく外反し、端部は丸く終わる 外:ナケメ 内:ナデ	黑褐色(25Y3/1)	II様式 非河内産

※(復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

桝固 固版	被覆	器種	残存 部位	地区 部位	法量(cm)	各微	色調	備考
256	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	II-4	口径14.6cm(底) 器高 40.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外:ハケメ 内:ナデ	外:黄灰色(25Y4/1) 内:灰黄褐色(10YR6/2)	Ⅲ～Ⅴ様式 生駒西麓産
257	弥生 土器	甕	口縁部	II-4	口径15.4cm(底) 器高 32.0cm(残)	体部の張りは大きい 口縁部は大きく外反し、端部は丸く終わる 外:ヘラミガキ 内:ヘラミガキ	灰黃褐色(10YR5/2)	Ⅲ～Ⅴ様式 生駒西麓産
258	弥生 土器	無底甕	口縁部	II-1		体部は大きく内傾して立ち上がる 口縁部は面を持つ 外:模様直線文、以下模様波状文 文様帶間はヘラミガキ 内:ナデ	灰白色(10YR8/1)	中期 赤河内産
259	弥生 土器	甕	口縁部	II-1		口縁部は大きく外反する 口縁部を上下へ張張し、端部の面を持つ 外:不明 内:不明	に赤い黄褐色(10YR5/3)	中期 生駒西麓産 口縁部外側に 模様直線文と模様波状文
260	弥生 土器	鉢	口縁部	II-1		体部は外上方へ立ち上がる 口縁部は面を持つ 外:模様直線文(7条) 文様帶間はヘラミガキ 内:ナデ	灰黃褐色(10YR5/2)	中期 非河内産 口縁部外側に網目
261	弥生 土器	長柄甕	口縁部	II-1		口縁部は上方へ立ち上がる 口縁部はやや面を持つ 外:列点文二帯 文様帶間はヘラミガキ 内:ナデ	褐色(10YR4/1)	中期 生駒西麓産
262	弥生 土器	甕	口縁部	II-1		口縁部は大きく外反する 口縁部は上方へ張張し、端部の面を持つ 外:小明 内:小明	灰黃褐色(10YR5/2)	中期 生駒西麓産 口縁部外側に斜格子文
263	弥生 土器	鉢	口縁部	II-1		体部は外上方に立ち上がる 口縁部は少し氣味に終わる 外:模様直線文(7条 /1.3cm)二帯 文様帶間はヘラミガキ 内:ナデ	灰黃褐色(10YR4/2)	中期 生駒西麓産
264	弥生 土器	甕	口縁部	II-1		口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:ナデ 内:ナデ	に赤い黄褐色(10YR7/2)	中期 非河内産 口縁部外側に網目
265	弥生 土器	一	体部	II-1		外:模様波状流文二段 内:ナデ	に赤い褐色(7.5YR5/3)	中期 生駒西麓産
266	弥生 土器	一	体部	II-1		外:ヘラミガキ ヘラ描き沈線 11 条と 2 条 内:ナデ	褐色(10YR4/1)	I 様式 生駒西麓産
267	弥生 土器	一	体部	II-1		外:模様直線文(10条 /1.3cm)六帯 文様帶間はヘラミガキ 内:ナデ	に赤い褐色(7.5YR7/4)	中期 非河内産
268	弥生 土器	一	体部	II-1		外:模様直線文(7条 /0.9cm)二帯 文様帶間はヘラミガキ 内:ハケメ	灰黃褐色(10YR6/2)	中期 非河内産
269	弥生 土器	一	体部	II-1		外:模様直線文(8条 /1.1cm)三帯 文様帶間はヘラミガキ 内:ナデ	灰黃褐色(10YR6/2)	中期 生駒西麓産
270	弥生 土器	一	体部	II-1		外:模様直線文(10条 /1.4cm)二帯 文様帶間はヘラミガキ 内:ヘラミガキ	灰黄色(25Y7/2)	中期 非河内産

※（復）は復元径、（残）は残存高・残存長を表す

地図 図版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法長(cm)	着微	色調	備考
271	弥生 土器	—	体部	II-1		外: 摺捺直線文(7条 / 1.6cm)二帯 文様密間はヘラミガキ 内: ナデ	に赤い黄褐色(10YR5/3)	中期 生駒西麓産
272	弥生 土器	—	体部	II-1		外: 摺捺直線文(11条 / 1.5cm)二帯 文様密間はヘラミガキ 内: ナデ	褐灰色(10YR5/1)	中期 生駒西麓産
273	弥生 土器	—	体部	II-1		外: 摺捺直線文(14条 / 1.4cm)二帯 捺捺波状文 文様密間はヘラミガキ 内: ナデ	灰黄色(2.5Y6/2)	中期 生駒西麓産
274	弥生 土器	—	体部	II-1		外: 摺捺直線文(6条 / 1.4cm)五帯 文様密間はヘラミガキ 内: ナデ	灰黄色(10YR5/2)	中期 生駒西麓産
275	弥生 土器	—	体部	II-1		外: ハケ後ナデ 捺捺直線文(9条 / 1.3cm)三帯 文様密間はヘラミガキ 内: ナデ	灰黄色(2.5Y6/2)	中期 非河内産
276	弥生 土器	—	体部	II-1		外: 斜格子文 捺捺直線文(11条 / 1.3cm)三帯 直線文間に捺捺波状文 内: ナゲ	に赤い褐色(7.5YR7/3)	中期 非河内産
277	弥生 土器	—	体部	II-1		外: 摺捺直線文(8条 / 1.0cm)二帯 捺捺波状文 文様密間はヘラミガキ 内: ヘラミガキ	灰黄色(10YR6/2)	中期 非河内産
278	弥生 土器	—	体部	II-1		外: 摺捺直線文(11条 / 1.2cm) 捺捺波状文 文様密間はヘラミガキ 内: ナデ	灰白色(10YR7/1)	中期 非河内産
279	弥生 土器	—	体部	II-1		外: 摺捺直線文二帯 直線文間に扇形文を施す 文様密間はヘラミガキ 内: ナゲ	褐灰色(10YR4/1)	中期 非河内産
280	弥生 土器	—	体部	II-1		外: 摺捺直線文(9条 / 1.1cm) 捺捺波状文 文様密間はヘラミガキ 内: ヘラミガキ	に赤い黄褐色(10YR5/3)	中期 生駒西麓産
281	弥生 土器	—	体部	II-1		外: 到点文 内: ナデ	灰褐色(N4/0)	中期 非河内産
282	弥生 土器	—	体部	II-1		外: ハケ横間波状文二帯 文様密間はヘラミガキ 内: ナデ	に赤い黄褐色(10YR7/3)	中期 非河内産
283	弥生 土器	—	体部	II-1		外: 摺捺波状文一帯 捺捺波状文 文様密間はヘラミガキ 内: ナデ	黄褐色(2.5Y4/1)	中期 生駒西麓産 体部に円形浮文を二個貼付
284	弥生 土器	—	体部	II-1		外: 摺捺波状文六帯 捺捺波状文 文様密間はヘラミガキ 内: ナデ	褐灰色(10YR4/1)	中期 生駒西麓産
285	弥生 土器	—	体部	II-1		外: 貼り付け奥帯3条 内: ナデ	灰白色(10YR7/1)	中期 非河内産

※ (復) は復元径、(残) は残存高・残存長を表す

排岡 園版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法準(cm)	特徴	色調	備考
286	弥生 土器	—	体部	II-1		外:輪描直線文8条(1.1cm)二帯、以下扇形文 文様留間はヘラミガキ 内:ハケ後ナデ	暗灰色(N3/0)	中期 生駒西墓塚
287	弥生 土器	—	体部	II-1		外:輪描直線文(1.1条/1.5cm)三帯 直線文上に扇形文を施す 文様留間はヘラミガキ 内:ナデ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	中期 非河内塚
288	弥生 土器	—	体部	II-1		外:輪描直線文(10条/1.6cm)三帯 直線文上に扇形文を施す 内:ナデ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	中期 生駒西墓塚
289	弥生 土器	—	体部	II-1		外:輪描直線文二帯 文様留間はヘラミガキ 内:ナデ	褐灰色(7.5YR5/1)	中期 生駒西墓塚
290	弥生 土器	—	体部	II-2		外:輪描波状文 扇形文 文様留間はヘラミガキ 内:ヘラミガキ	灰黃褐色(10YR4/2)	中期 生駒西墓塚
291	弥生 土器	—	体部	II-1		外:輪描直線文二帯 列点文二帯 文様留間はヘラミガキ 内:ハケ後ナデ	灰黄色(25Y6/2)	中期 生駒西墓塚 円形浮文を二箇所貼付
292	弥生 土器	畫	口縁部	II-2		口縁部は強く外反する 口縁部は面を持ち、下方へ拡張する 外:不明 内:不明	灰黃褐色(10YR5/2)	中期 生駒西墓塚 口縁部に輪描波状文
293	弥生 土器	畫	口縁部	II-2		口縁部は大きく外反する 外:不明 内:不明	灰白色(25Y8/2)	中期 非河内塚 口縁部内面に列点文
294	弥生 土器	鉢	口縁部	II-2		体部はやや内凹して立ち上がる 口縁部は面を持つ 外:輪描直線文二帯 文様留間はヘラミガキ 内:ナデ	褐灰色(7.5YR4/1)	中期 生駒西墓塚
295	弥生 土器	細頭瓶	口縁部	II-2		口縁部は上方へ立ち上がる 口縁部は面を持つ 外:列点文二帯 文様留間はヘラミガキ 内:ナデ	にぶい黄褐色(10YR6/3)	中期 生駒西墓塚 円形浮文を二箇所貼付
296	弥生 土器	壺	口縁部	II-2		体部の幅は少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:不明 内:ナデ 体部に6条の沈線	灰黃褐色(10YR4/2)	I様式 生駒西墓塚 口縁部に崩み目
297	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	II-2		体部の幅は少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:ナデ 内:ナデ 体部に2条の沈線	にぶい褐色(7.5YR6/3) 灰色(N6/0)	I様式 生駒西墓塚 口縁部に崩み目
298	弥生 土器	鉢	体部	II-2		外:列点文二帯、以下ヘラミガキ 内:ナデ後ヘラミガキ	褐色(7.5YR4/3)	中期 生駒西墓塚
299	弥生 土器	—	体部	II-2		外:ヘラ描き沈線7条 内:ナデ	にぶい褐色(7.5YR5/4)	I様式 生駒西墓塚
300	弥生 土器	—	体部	II-2		外:ヘラ描き沈線五条、以下ヘラミガキ 内:ハケ後ナデ	外:墨色(N2/0) 内:灰オリーブ色(5Y6/2)	I様式 生駒西墓塚

※（復）は復元径、（残）は残存高・残存長を表す

特徴 図版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徵	色調	備考
301	弥生 土器	—	体部	II-2		外: ヘラ描き沈縫 6 条 内: ナデ	灰黄褐色(10YR5/2)	I 様式 生駒西麓産
302	弥生 土器	—	体部	II-2		外: ヘラ描き沈縫 6 条 内: ナデ	黒褐色(10YR3/2)	I 様式 生駒西麓産
303	弥生 土器	—	体部	II-2		外: ヘラ描き沈縫 9 条 内: ナデ	灰黄褐色(10YR5/2)	I 様式 生駒西麓産
304	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 貼り付け突帯 1 条 内: ナデ	に赤褐色(5YR4/4)	I 様式 生駒西麓産 突帯上に刷み目 突帯貼付のため 沈縫がある
305	弥生 土器	—	体部	II-2		外: ヘラ描き沈縫 14 条 内: ナデ	灰黄褐色(10YR5/2)	I 様式 生駒西麓産
306	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 貼り付け突帯 4 条 内: ナデ	灰褐色(7.5YR4/2)	I 様式 生駒西麓産 突帯上に刷み目
307	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 貼り付け突帯 2 条 内: ナデ	黄灰色(2.5Y5/1)	I 様式 非河内産 突帯上に刷み目
308	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 貼り付け突帯 3 条 内: ナデ	褐色(7.5YR4/4)	I 様式 生駒西麓産 突帯上に刷み目 突帯貼付のため 沈縫がある
309	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 貼り付け突帯 3 条 内: ナデ	に赤褐色(10YR4/3)	I 様式 生駒西麓産 突帯上に刷み目 突帯貼付のため 沈縫がある
310	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 斜格子文 櫛描直線文(11 条 / 1.3cm) 櫛波状文 内: ナデ	に赤褐色(7.5YR7/3)	中期 非河内産
311	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 櫛描直線文(8 条 / 1.0cm) 四帯 直線文上に扇形文を施す 文様帶間はヘラミガキ 内: ハラミガキ	に赤褐色(10YR6/3)	中期 生駒西麓産
312	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 櫛描波状文、以下扇形文四列 文様帶間はヘラミガキ 内: ハケ後ナデ	に赤褐色(10YR5/3)	中期 生駒西麓産
313	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 扇形文二帯 櫛描直線文 文様帶間はヘラミガキ 内: ナデ	に赤褐色(2.5YR5/3)	中期 非河内産
314	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 扇形文 以下櫛描直線文 文様帶間はヘラミガキ 内: ナデ	褐色(5YR6/6)	中期 非河内産
315	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 櫛描直線文(8 条 / 1.0cm) 四帯 直線文上に扇形文を施す 文様帶間はヘラミガキ 内: ナデ	灰黄褐色(10YR6/2)	中期 非河内産

※ (復) は復元径、(残) は残存高・残存長を表す

博物 館版	種類	番号	残存 部位	地区 部位	法量(cm)	特徴	色調	備考
316	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 横描直線文(7条 / 1.2cm) 直線文上に履形文を施す 内: ヘラミガキ	褐灰色(10YR4/1)	中期 生駒西墓原
317	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 横描箋状文二帯 間に横描直線文(4条 / 0.6cm) 文様帶間はヘラミガキ 内: ナデ	灰黃褐色(10YR5/2)	中期 非河内產
318	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 横描直線文(8条 / 1.1cm)と 横描波状文を交互に施す 文様帶間はヘラミガキ 内: ハケ後ナデ	灰白色(25Y8/1)	中期 非河内產
319	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 横描直線文(6条 / 1.4cm)二帯 直交する履位の横描波状文 文様帶間はヘラミガキ 内: ナデ	黃灰色(25Y4/1)	中期 生駒西墓原
320	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 横描箋状文二帯 内: ナデ	にぶい褐色(7.5YR6/3)	中期 生駒西墓原
321	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 横描箋状文二帯 文様帶間はヘラミガキ 内: ナデ	暗灰黃色(25Y5/2)	中期 生駒西墓原
322	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 横描直線文(16条 / 1.7cm)二帯 列点文二帯を波形状に施す 文様帶間はヘラミガキ 内: ナデ	灰黃褐色(10YR6/2)	中期 生駒西墓原
323	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 横描箋状文三帯 内: ナデ	にぶい赤褐色(5YR5/3)	中期 生駒西墓原
324	弥生 土器	—	体部	II-2		外: 横描箋状文二帯 文様帶間はヘラミガキ 内: ナデ	オリーブ黒色(7.5YR3/1)	中期 生駒西墓原
325	弥生 土器	—	脚部	II-2		外: 竹管文による刺方文 内: ナデ	にぶい黄褐色(10YR6/4)	中期 生駒西墓原
326	弥生 土器	壺	口縁部	II-3		口縁部はやや内溝し、兩部は丸く終わる 外: 横描直線文二帯を波形状に施す 内: ナデ	褐灰色(10YR4/1)	中期 生駒西墓原 口縁部底面に円形浮文貼付
327	弥生 土器	壺	口縁部	II-3		口縁部は強く外反する 口縁部は圓を持ち、下方へ抵張する 外: 不明 内: 不明	黒褐色(10YR3/1)	中期 生駒西墓原 口縁端部外面に横描箋状文
328	弥生 土器	—	体部	II-3		外: 横描箋状文二帯 箋状文間に履形文を施す 文様帶間はヘラミガキ 内: ナデ	褐灰色(10YR4/1)	中期 生駒西墓原
329	弥生 土器	—	体部	II-3		外: 刻り付け突帯1条 内: ナデ	灰黃褐色(10YR4/2)	I様式 生駒西墓原 突帯上に刻み目
330	弥生 土器	—	体部	II-3		外: 横描直線文(15条 / 1.7cm)二帯 直線文上に履形文を施す 文様帶間はヘラミガキ 内: ナデ	にぶい褐色(7.5YR5/3)	中期 生駒西墓原

※ (復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

持国 固版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
331	弥生 土器	—	体部	II-3		外: 摺描直線文(8条 / 1.2cm)二重 摺描直線文二重 文様表面はヘラミガキ 内: ハケ後ナデ	黄灰色(2.5Y4/1)	中期 非陶内底
332	弥生 土器	—	体部	II-3		外: 摺描直線文(8条 / 1.2cm)二重 摺描直線文 文様表面はヘラミガキ 内: ナデ	にぶい橙色(7.5YR6/4)	中期 生駒西墓塚
333	弥生 土器	—	体部	II-4		外: 摺描直線文(8条 / 1.2cm)二重 摺描直線文 文様表面はヘラミガキ 内: ヘラミガキ	黑色(N2/0)	中期 生駒西墓塚
334	弥生 土器	—	体部	II-4		外: 列点文二重を波状文に施す 摺描直線文 文様表面はヘラミガキ 内: ナデ	黄灰色(2.5Y4/1)	中期 生駒西墓塚
335	土製品	円盤状 土製品	—	II-1	長径 8.6cm 短径 8.0cm 厚さ 0.9cm	外: 摺描直線文(10条 / 1.0cm)五重 直線文に肩形文 文様表面はヘラミガキ 内: ヘラミガキ	オリーブ黒色(5Y4/1)	中期
336	土製品	円盤状 土製品	—	II-1	長径 4.8cm 短径 4.7cm 厚さ 0.9cm	外: ヘラミガキ 内: ナデ	湖灰色(10YR6/1)	中期
337	土製品	円盤状 土製品	—	II-1	長径 5.9cm 短径 5.1cm 厚さ 0.8cm	外: ハケメ 内: ナデ	にぶい赤褐色(5YR5/4)	中期
338	土製品	円盤状 土製品	—	II-1	長径 3.6cm 短径 3.2cm 厚さ 0.9cm	外: ナデ 内: ナデ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	中期
339	土製品	円盤状 土製品	—	II-1	長径 3.6cm 短径 3.5cm 厚さ 0.6cm	外: ヘラミガキ 内: ナデ	灰色(7.5Y4/1)	中期
340	土製品	円盤状 土製品	—	II-2	長径 4.6cm 短径 4.4cm 厚さ 0.6cm	外: ヘラミガキ 内: ナデ	灰色(N4/0)	中期
341	土製品	円盤状 土製品	—	II-2	長径 5.3cm 短径 5.2cm 厚さ 0.6cm	外: ヘラミガキ 内: ナデ	にぶい黄橙色(10VR7/2)	中期
342	土製品	円盤状 土製品	—	II-3	長径 4.6cm 短径 4.4cm 厚さ 0.5cm	外: ヘラミガキ 内: ナデ	灰色(5Y6/1)	中期
343	土製品	円盤状 土製品	—	II-2	長径 3.9cm 短径 2.7cm 厚さ 0.5cm	外: ナデ 内: ナデ	黄褐色(2.5Y5/3)	中期
344	土製品	円盤状 土製品	—	II-2	長径 4.3cm 短径 3.8cm 厚さ 0.4cm	外: 摺描筆致文 ヘラミガキ 内: ナデ	灰色(5Y4/1)	中期
345	土製品	円盤状 土製品	—	II-2	長径 4.4cm 短径 3.7cm 厚さ 0.7cm	外: ハケ後ヘラミガキ 内: ナデ	黄灰色(2.5Y5/1)	中期

※ (復) は復元径、(残) は残存高・残存長を表す

件名 固版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
346	土製品	円盤状 土製品	—	II-3	直径 50cm 高さ 4.3cm 厚さ 0.8cm	外:ハケ後拂拭直線文(5条 / 0.7cm) 固帯 内:ナデ	灰黄褐色(10YR6/2)	中期
347	土製品	円盤状 土製品	—	II-3	長径 51cm 短径 49cm 厚さ 0.9cm	外:ナデ 内:ナデ	暗灰黄色(25Y5/2)	中期
348	土製品	円盤状 土製品	—	II-4	長径 62cm 短径 56cm 厚さ 0.6cm	外:ヘラミガキ 内:ナデ	灰黄褐色(10YR6/2)	中期
349	土製品	円盤状 土製品	—	II-2	長径 44cm 短径 38cm 厚さ 0.9cm	外:不明 内:不明	灰黄褐色(10YR6/2)	中期
350	石器	打製 石器	基部	II-1	長さ 4.8cm(残) 幅 3.6cm 厚さ 1.4cm	縁辺を押圧剥離で仕上げる	暗灰色(N3/0)	サヌカイト製 一対の抉りを持つ
351	石器	大型船 刃石斧	基部	II-2	長さ 5.4cm(残) 幅 5.8cm 厚さ 1.6cm	全体に丁寧な研磨を施す	灰色(10Y4/1)	基部部に敲打痕
352	石器	大型船 刃石斧	刃部	II-1	長さ10.2cm(残) 幅 6.6cm 厚さ 3.0cm	全体に丁寧な研磨を施す	オリーブ黒色(10Y3/1)	研ぎ直しにより刃部が 左右差对称
353	石器	石鍬	—	II-1	長さ 8.8cm 幅 4.5cm 厚さ 1.2cm		灰色(7.5Y3/1)	自然石を利用 擦痕が2条残る
354	石器	円盤状 石製品	—	II-1	長さ 7.9cm 幅 5.1cm 厚さ 0.9cm	全体に丁寧な研磨を施す 縁辺を打ち欠いている	緑褐色(GG3/1)	緑泥片岩製 石包丁片を内々包む 3ヶ所の穿孔が残る
355	石器	大型 石包丁	I/2 残存	II-2	長さ10.5cm(残) 幅 11.6cm(残) 厚さ 0.9cm	全体に研磨を施す 刃部は両刃	暗オリーブ灰色(25GY3/1) にぶい青褐色(10YR7/2)	緑泥片岩製 →ヶ所穿孔が残る 刃部は風化のため変色
356	骨角 製品	不明	—	II-2	長さ18.5cm 幅 2.4cm 厚さ 0.8cm	表面に磨痕が残る	灰黄褐色(10YR4/2)	鹿角製
357	骨角 製品	角製品 木成品	—	II-1	長さ14.3cm 幅 10.2cm 厚さ 2.5cm	表面に切断痕が残る	にぶい黄色(25Y6/3)	鹿角製
358	骨生 土器	甌	口縁部	III-1	口径22.8cm(復) 器高 3.6cm(復)	口縁部は外上方へ大きく外反する 口縁部は丸く終わる 外:ヘラミガキ? 内:横方向のヘラミガキ	黄灰色(25Y5/1)	II様式 生駒西窓
359	骨生 土器	甌	口縁部	III-1	口径22.4cm(復) 器高 4.0cm(復)	口縁部は外上方へ大きく外反する 口縁部はやや面を持つ 外:ナデ(工具によるナデ?) 内:ナデ	にぶい赤褐色(5YR5/3)	II様式 生駒西窓
360	骨生 土器	甌	口縁部	III-1	口径26.0cm(復) 器高 4.7cm(復)	口縁部は外上方へ大きく外反する 口縁部はやや面を持つ 外:ナデ 内:ナデ	灰黄褐色(10YR5/2) 暗灰色(N3/0)	II様式 生駒西窓

※(復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

博物館	種類	器種	残存部位	地区	法量(cm)	特徴	色調	備考
361	弥生土器	甕	口縁～頸部	III-I	口径12.0cm(復) 器高 23.0cm(残)	口縁部はゆるく外反する 口縁端部は面を持ち、やや挿み上げる 外:ハラミガキ 内:ハケ後ナデ	灰黄褐色(10YR5/2)	中期 非河内産
362	弥生土器	甕	口縁～体部	III-I	口径15.0cm(復) 器高 35.0cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:ナデ 内:ナデ	褐灰色(10YR4/1)	中期 生駒西置産
363	弥生土器	甕	口縁～頸部	III	口径12.8cm(復) 器高 49.0cm(残)	口縁部は強く外反する 口縁端部は面を持ち、上方へ挿み上げる 外:ハケメ 内:ナデ	灰白色(2.5Y7/1)	III～IV様式 非河内産
364	弥生土器	甕	口縁～体部	III	口径10.8cm(復) 器高 7.0cm(残)	体部の張りは大きい 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ハケメ 内:ナデ	褐灰色(10YR5/1)	III～IV様式 生駒西置産
365	弥生土器	甕	口縁部	III-I	口径22.0cm(復) 器高 2.0cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ拡張する 外:不明 内:横方向のハラミガキ?	灰黄褐色(10VR6/2)	III～IV様式 非河内産
366	弥生土器	甕	口縁～頸部	III-I	口径24.0cm(復) 器高 37.0cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ拡張する 外:ナデ 内:ナデ	灰褐色(7.5YR6/2)	III～IV様式 非河内産
367	弥生土器	甕	口縁部	III-I	口径22.4cm(復) 器高 2.6cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ拡張する 外:不明 内:ナデ	灰黄褐色(10YR6/2)	III～IV様式 生駒西置産 口縁端部に樹脂塗装文
368	弥生土器	甕	口縁部	III-I	口径22.0cm(復) 器高 2.6cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ拡張する 外:不明 内:不明	灰白色(2.5Y7/1)	III～IV様式 非河内産 口縁部内面に櫛排列点文 口縁端部に凹彫文
369	弥生土器	甕	口縁部	III-I	口径15.8cm(復) 器高 14.0cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ拡張する 外:不明 内:ハケによるナデ	灰褐色(N5/0)	中期 生駒西置産 口縁端部に櫛撋痕状文
370	弥生土器	甕	口縁～頸部	III-I	口径14.0cm(復) 器高 8.4cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ拡張する 外:不明 内:横方向のハラミガキ後、 櫛撋痕文(10条 / 1.1cm)三帯 内:ナデ	灰黄褐色(10YR5/2)	III～IV様式 生駒西置産 口縁部内面と端部に 櫛撋痕状文
371	弥生土器	甕	口縁部	III-I	口径14.0cm(復) 器高 4.2cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部を上方へ拡張し、粗広の面を持つ 外:ハケメ 内:ナデ	暗灰色(N3/0)	III～IV様式 非河内産
372	弥生土器	甕	口縁～頸部	III-I	口径15.4cm(復) 器高 10.6cm(残)	口縁部はゆるく外反する 口縁端部を上方へ拡張し、粗広の面を持つ 外:ハケメ 内:コハケ	にふい赤褐色(SYR5/4)	III～IV様式 生駒西置産 口縁端部に刻み目
373	弥生土器	甕	口縁部	III-I	口径24.6cm(復) 器高 4.8cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部を上方へ拡張し、粗広の面を持つ 外:不明 内:ハケメ?	黄褐色(2.5Y6/1)	III～IV様式 非河内産 口縁端部に刻み目
374	弥生土器 木蓋形土器	口縁部	III-I	口径 8.0cm(復) 器高 3.3cm(残)	口縁部は上方へ伸びる 口縁端部は丸く終わる 口縁部にゆるくじ字状の挟りを入れる 外:ハケメ 内:ナデ	灰白色(10YR8/2)	III～IV様式 非河内産	
375	弥生土器	甕	口縁～体部	III-I	口径19.4cm(復) 器高 8.5cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:ナデ 内:ナデ 頸部に2条の沈線	黑褐色(10YR3/1)	I様式 生駒西置産 口縁端部に刻み目

(復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

地図 図版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
376	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	III-1	口径29.2cm(復) 器高 39.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:ナデ 内:ナデ 頭部に1条の沈線	灰黄褐色(10YR5/2)	I様式 生駒西麓産
377	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	III-1	口径15.9cm(復) 器高 37.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:ハラケアリ 内:ナデ 頭部に1条の沈線	灰褐色(7.5YR5/2)	I様式 生駒西麓産
378	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	III-1	口径17.4cm(復) 器高 30.0cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:不明 内:不明	灰褐色(5Y5/1)	II様式 生駒西麓産
379	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	III-1	口径11.0cm(復) 器高 48.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は小さく外反し、端部は丸く終わる 外:ハラケアリ 内:ヘラミガキ	黄灰色(25Y4/1)	II様式 生駒西麓産
380	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	III-1	口径26.4cm(復) 器高 25.0cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:不明 内:ヘラミガキ	外:灰色(N4/0) 内:灰褐色(7.5YR5/2)	中期 生駒西麓産
381	弥生 土器	壺	口縁部	III-1	口径21.6cm(復) 器高 16.0cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部はやや面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナデ	灰褐色(5YR6/2) 灰黄褐色(10YR6/2)	中期 牛駒西麓産
382	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	III-1	口径13.4cm(復) 器高 22.0cm(残)	口縁部は強く外反する 口縁部は面を持ち、上方へ盛み上げる 外:ハラケ 内:不明	灰白色(25Y8/2)	III～IV様式 寿河内産
383	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	III-1	口径13.0cm(復) 器高 58.0cm(残)	体部の張りは大きい 口縁部は強く外反する 口縁端部は頭を持ち、上方へ盛み上げる 外:ハラケ 内:ハラケ後ヘラミガキ	黒色(25Y2/1)	III～IV様式 牛駒西麓産
384	弥生 土器	壺	口縁 ～頸部	III-1	口径12.8cm(復) 器高 25.0cm(残)	口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:不明	暗灰褐色(25Y5/2)	III～IV様式 寿河内産
385	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	III-1	口径12.5cm(復) 器高 39.0cm(残)	体部の張りは大きい 口縁部は強く外反し、端部はやや面を持つ 外:不明 内:ヘラミガキ	褐灰色(10YR4/1)	III～IV様式 牛駒西麓産
386	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	III-1	口径29.8cm(復) 器高 7.0cm(残)	体部の張りは大きい 口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:頭部内面をヘラミガキ、以下をナデ	褐灰色(10YR4/1)	III～IV様式 牛駒西麓産
387	弥生 土器	壺	口縁 ～体部	III-1	口径17.2cm(復) 器高15.5cm(残)	体部の張りは大きい 口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:頭部内面をヘラミガキ、以下をナデ	外:黒色(N1.5/0) 内:ぶい赤褐色(5YR5/3)	III～IV様式 生駒西麓産 体部外側に煤が付着
388	弥生 土器	鉢	口縁 ～体部	III-1	口径19.6cm(復) 器高 29.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終わる 外:不明 内:口縁部内面にハラケ、以下ヘラミガキ	灰黄色(25Y6/2)	I様式 生駒西麓産 口縁部に1条の沈線
389	弥生 土器	鉢	口縁 ～体部	III-1	口径16.0cm(復) 器高 35.0cm(残)	体部は内傾して立ち上がる 口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外:擦損直線文(14条/15cm)二帯 文様帶間はヘラミガキ	灰黃褐色(10YR6/2)	III～IV様式 寿河内産
390	弥生 土器	鉢	口縁 ～体部	III-1	口径21.8cm(復) 器高 53.0cm(残)	体部は内傾して立ち上がる 口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外:擦損直線文(14条/15cm)二帯 文様帶間はヘラミガキ	褐灰色(10YR4/1)	III～IV様式 牛駒西麓産 口縁部に擦損文様

※(復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

種別 図版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
391	弥生 土器	鉢	口縁 ~体部	III-1	口径30.0cm(復) 器高 3.9cm(残)	体部は内傾して立ち上がる 口縁部は強く外反し、縫部は面を持つ 外:ハラミガキ 内:ヘラミガキ	灰色(5Y5/1)	Ⅲ~Ⅳ様式 生駒西麓産 口縁縫部に刷み日
392	弥生 土器	鉢	口縁 ~体部	III-1	口径23.8cm(復) 器高 5.5cm(残)	体部は内傾して立ち上がる 口縁部は強く外反し、縫部は面を持つ 外:ハラミガキ 内:ヘラミガキ	灰色(5Y5/1) 暗灰色(N3/0)	Ⅲ~Ⅳ様式 生駒西麓産 口縁縫部に刷み日
393	弥生 土器	鉢	口縁部	III-1	口径34.0cm(復) 器高 1.9cm(残)	口縁部は強く外反し、縫部は面を持つ 外:不明 内:ヘラミガキ	灰色(N5/0)	Ⅲ~Ⅳ様式 非河内産 口縁縫部に刷み模様
394	弥生 土器	鉢	口縁 ~体部	III-1	口径21.4cm(復) 器高 3.0cm(残)	体部は内傾して立ち上がる 口縁部は強く外反し、縫部は面を持つ 外:脚部直線文(10条/0.9cm)二帯 内:不明	灰赤色(7.5R6/2)	Ⅲ~Ⅳ様式 非河内産 口縁縫部に刷み日
395	弥生 土器	鉢	口縁 ~体部	III-1	口径18.8cm(復) 器高 2.7cm(残)	体部は外上方へ立ち上がる 口縁縫部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ヘラミガキ	灰白色(7.5Y8/1)	Ⅲ~Ⅳ様式 非河内産
396	弥生 土器	高杯	口縁 ~体部	III-1	口径12.8cm(復) 器高 3.2cm(残)	杯部は浅い碗状を呈する 口縁縫部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ナデ	暗灰色(N3/0)	Ⅲ~Ⅳ様式 非河内産
397	弥生 土器	高杯	口縁 ~体部	III-1	口径11.9cm(復) 器高 3.4cm(残)	杯部は浅い碗状を呈する 口縁縫部は面を持つ 外:3条の四線文 内:ナデ	外:灰青い緑色(2.5YR6/4) 内:灰白色(10YR8/2)	Ⅲ~Ⅳ様式 非河内産
398	弥生 土器	高杯	口縁部	III-1	口径21.0cm(復) 器高 1.6cm(残)	口縁部が水平方向へ伸びる 口縁縫部を下へ大きく拡張する 水平部上端へヘラミガキ 水平部内面へヘラミガキ	灰色(N5/0)	Ⅲ~Ⅳ様式 生駒西麓産
399	弥生 土器	高杯	口縁部	III-1	口径26.8cm(復) 器高 1.6cm(残)	杯部が外上方へ立ち上がる 口縁部は水平方向へ伸びる 口縁縫部を下へ大きく拡張する 水平部上端へヘラミガキ 杯部内面をヨコナデ	暗灰色(N3/0)	Ⅲ~Ⅳ様式 生駒西麓産
400	弥生 土器	高杯	脚部	III-1	底径11.6cm(復) 器高 3.0cm(残)	脚部はゆるく立ち上がる 脚縫部は面を持ち、上方へ拡張する 外:不明 内:ヨコナデ?	灰黄褐色(10YR5/2)	Ⅲ~Ⅳ様式 非河内産
401	弥生 土器	高杯	脚部	III-1	底径14.7cm(復) 器高 1.5cm(残)	体部はゆるく立ち上がる 脚縫部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ヘラミガキ	暗灰色(N3/0)	中期 生駒西麓産
402	弥生 土器	高杯	脚部	III-1	口径12.4cm(復) 器高 3.3cm(残)	脚部はゆるく立ち上がる 脚縫部は面を持ち、上方へ拡張する 外:ヘラミガキ 内:ナデ	黄灰色(2.5Y4/1)	中期 生駒西麓産
403	弥生 土器	高杯	脚部	III-1	口径 9.4cm(復) 器高 2.7cm(残)	脚部はゆるく立ち上がる 脚縫部は面を持ち、上方へ拡張する 外:ヘラミガキ 内:ナデ	明褐色(7.5YR5/4)	中期 生駒西麓産
404	弥生 土器	高杯	脚部	III-1	口径11.0cm(復) 器高 2.8cm(残)	脚部はゆるく立ち上がる 脚縫部は面を持ち、上方へ拡張する 外:ヘラミガキ 内:ナデ	灰色(5Y4/1)	中期 非河内産
405	弥生 土器	盃	横み ~脚部	III-1	横み径6.0cm(復) 器高 6.0cm(残)	体部は大きめに立ち上がる 横み部は円形を呈する 外:ヘラミガキ 内:ナデ	灰色(2.5Y7/1)	中期 非河内産

※ (復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

井國 岡田	種類	器種	残存 部位	地区 基準	法量(cm)	特徴	色調	備考
406	弥生 土器	盞	縫み ～縫部	III-1	底径 3.8cm(底) 器高 5.5cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 縫み部は円形を呈する 外:ヘラミガキ 内:ナデ	灰黄褐色(10YR6/2)	中期 非河内產 内面に絞り痕
407	弥生 土器	—	底部	III-1	底径 4.6cm(底) 器高 5.3cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ヘラミガキ 内:ナデ	褐灰色(10YR4/1)	中期 生駒内鑿差
408	弥生 土器	—	底部	III-1	底径 6.2cm 器高 5.2cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ヘラケツリ後ヘラミガキ 内:ナデ	灰白色(10YR7/1)	中期 非河内產 内面に縦付窓
409	弥生 土器	台付鉢	底部	III-1	底径 8.8cm(底) 器高 3.6cm(残)	体部は外上方へ立ち上がる 底部は平底を呈する 外:標識直線文(5条/0.7cm)二重 文様帯開はヘラミガキ 内:ナデ	暗灰色(N3/0)	中期 生駒西鑿差
410	弥生 土器	—	底部	III-1	底径 6.8cm 器高 3.3cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ナデ? 内:ハケ後ナデ	灰黄褐色(10YR5/2)	中期 生駒西鑿差
411	弥生 土器	—	底部	III-1	底径 4.6cm 器高 3.8cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ナデ? 内:ナデ	外:に赤い黃褐色(10YR7/3) 内:暗灰色(N3/0)	中期 非河内產
412	弥生 土器	—	底部	III-1	底径 4.6cm 器高 3.9cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:ヘラミガキ 内:ハケ後ヘラミガキ	に赤い黃褐色(10YR6/3)	中期 生駒内鑿差 底部構成特別可
413	弥生 土器	甕	底部	III-1	底径 5.2cm 器高 2.2cm(残)	体部は外上方へ立ち上がる 底部は平底を呈する 外:不明 内:ナデ	黄灰色(25Y4/1)	中期 生駒内鑿差 底部中心に穿孔
414	弥生 土器	—	底部	III-1	底径 7.4cm 器高 3.9cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外:工具によるナデ 内:ナデ	に赤い褐色(7.5YR5/3)	中期 生駒西鑿差
415	弥生 土器	甕	口縁部	III-2	口径19.4cm(底) 器高 2.1cm(残)	口縁部は大きく外反し、縁部はやや面を持つ 外:ナデ? 内:ナデ	外:に赤い褐色(5YR5/4) 内:黄灰色(25Y6/1)	II様式 生駒西鑿差
416	弥生 土器	甕	口縁部	III-2	口径22.6cm(底) 器高 2.3cm(残)	口縁部は大きく外反し、縁部は面を持つ 外:ヘラミガキ 内:不明	に赤い赤褐色(5YR5/4)	II様式 非河内產 口縁部に標識直線文と 縫み目
417	弥生 土器	甕	口縁部	III-2	口径20.0cm(底) 器高 2.0cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ拡張する 外:不明 内:不明	黄灰色(25Y5/1)	III-N様式 生駒西鑿差 口縁部内面に扇形文 口縁部に縫み目
418	弥生 土器	甕	口縁部	III-2	口径21.2cm(底) 器高 2.0cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ拡張する 外:ナデ? 内:工具によるナデ	暗灰黄色(2.5Y5/2)	III-N様式 生駒西鑿差 口縁部に縫接波状文と 縫み目 縫刻有り
419	弥生 土器	甕	口縁部	III-2	口径19.8cm(底) 器高 2.2cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、縁部は丸く終わる 外:不明 内:不明 縁部に2条の沈板	に赤い黃褐色(10YR5/3)	I様式 生駒西鑿差 口縁部に縫み目
420	弥生 土器	甕	口縁部	III-2	口径35.6cm(底) 器高 2.1cm(残)	口縁部は強く外反し、縁部は丸く終わる 外:ナデ? 内:ヘラミガキ	に赤い褐色(7.5YR6/4)	III-N様式 生駒西鑿差

※ (後) は復元径、(残) は残存高・残存長を表す

博局 図版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
421	弥生 土器	鉢	口縁部	III-2	口径18.8cm(復) 器高 29cm(残)	体部は内傾して立ち上がる 口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外: 雪描施文 内: 不明	に赤い橙色(5YR7/4)	III~IV様式 非河内産 口縁部に刻み目
422	弥生 土器	鉢	口縁部	III-2	口径22.0cm(復) 器高 20cm(残)	体部は内傾して立ち上がる 口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外: 雪描施文 内: 不明	に赤い黄色(25Y6/3)	III~IV様式 生駒西麓産 口縁部に雪描施文
423	弥生 土器	鉢	口縁部	III-2	口径22.2cm(復) 器高 27cm(残)	体部は内傾して立ち上がる 口縁部は面を持つ 外: ナデ? 内: ハケメ	に赤い褐色(5YR5/4)	III~IV様式 非河内産
424	弥生 土器	鉢	口縁部	III-2	口径23.8cm(復) 器高 47cm(残)	体部は外上方へ立ち上がる 口縁部は強く外反し、端部はやや面を持つ 外: ハラミガキ 内: ハラミガキ	外: 黄灰色(25Y4/1) 内: 赤黄色(25Y7/2)	III~IV様式 非河内産
425	弥生 土器	鉢	口縁 ~体部	III-2	口径4.0cm(復) 器高 5.1cm(残)	体部は内傾して立ち上がる 口縁部は面を持つ 外: 雪描施文(7.7~11cm) 体部に施文格子文標文 内: ナデ?	外: に赤い赤褐色(5YR5/4) 内: 褐灰色(10YR6/1)	III~IV様式 生駒西麓産 口縁部に雪描施文
426	弥生 土器	鉢	口縁部	III-2	口径16.2cm(復) 器高 4.7cm(残)	体部は内傾して立ち上がる 口縁部は段を持つ 外: 雪描波状文と施文格子文 内: ナデ?	に赤い黄褐色(10YR6/3)	III~IV様式 生駒西麓産 口縁部形に円錐文
427	弥生 土器	高杯	口縁部	III-2	口径17.0cm(復) 器高 3.1cm(残)	杯部は浅い楕状を呈する 口縁部は面を持つ 外: ハラミガキ 内: ハラミガキ	に赤い黄褐色(10YR7/2)	中期 非河内産 口縁部下に1条の凹線文
428	弥生 土器	高杯	口縁部	III-2	口径21.4cm(復) 器高 1.6cm(残)	口縁部が水平方尚へ伸びる 口縁部を下方へ大きく拡張する 外: 不明 内: 不明	に赤い褐色(7.5YR6/3)	III~IV様式 牛駒西麓産
429	弥生 土器	高杯	口縁部	III-2	口径29.8cm(復) 器高 1.7cm(残)	杯部は浅い楕状を呈する 口縁部が水平方尚へ伸びる 口縁部を下方へ大きく拡張する 外: 不明 内: 不明	褐色(2.5YR6/6)	Ⅲ~Ⅳ様式 非河内産 風化が著しい
430	弥生 土器	高杯	脚部	III-2	底径14.7cm(復) 器高 3.6cm(残)	脚部はゆるく立ち上がり、腹部は面を持つ 脚部は中実 外: ハラミガキ 内: ナデ?	に赤い褐色(7.5YR6/4)	III~IV様式 非河内産
431	弥生 土器	蓋	積み部	III-2	積み径4.4cm(復) 器高 6.2cm(残)	体部は大きく立ち上がる 積み部は円形を呈する 外: ハラミガキ 内: 工具によるナデ?	灰黄褐色(10YR5/2)	中期 非河内産
432	弥生 土器	蓋	口縁部	III-2	底径12.6cm(復) 器高 1.6cm(残)	体部はゆるく立ち上がる 口縁部は丸く終わる 外: 不明 内: ハケメ	黒褐色(10YR3/1)	中期 生駒西麓産 内面に煤付青
433	弥生 土器	—	底部	III-2	底径 5.8cm 器高 3.2cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外: 工具によるナデ 内: ナデ	に赤い黄褐色(10YR5/3)	中期 生駒西麓産
434	弥生 土器	—	底部	III-2	底径 5.4cm 器高 8.0cm(残)	体部は外上方に立ち上がる 底部は平底を呈する 外: 工具によるナデ 内: ナデ	灰黄褐色(10YR5/2)	中期 生駒西麓産
435	弥生 土器	蓋	口縁部	III-3	口径18.2cm(復) 器高 4.1cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外: ナデ 内: ナデ	に赤い褐色(7.5YR6/4)	Ⅲ様式 生駒西麓産

※ (復) は復元径、(残) は残存高・残存長を表す

発掘 図版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
436	弥生 土器	甕	口縁部	III-3	口径18.6cm(復) 器高 23cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:不明 内:不明	灰黄褐色(10YR6/2)	II様式 非河内産 口縁端部に刻字文
437	弥生 土器	甕	口縁部	III-3	口径16.6cm(復) 器高 29cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:不明 内:ナデ	に赤い褐色(5YR6/4)	II様式 非河内産 口縁下端部に刻み目
438	弥生 土器	甕	口縁部	III-3	口径18.2cm(復) 器高 25cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁端部は面を持ち、下方へ膨張する 外:不明 内:不明	に赤い赤褐色(2.5YR5/3)	II様式 生駒西麓産 口縁端部に指擦痕状文
439	弥生 土器	甕	口縁部	III-3	口径14.0cm(復) 器高 21.2cm(残)	口縁部は大きく外反し、端部は面を持つ 外:不明 内:不明	に赤い黄褐色(10YR5/3)	II様式 非河内産 口縁端部に刻み目
440	弥生 土器	無頸甕	口縁部	III-3	口径11.6cm(復) 器高 38cm(残)	体部は大きく内傾して立ち上がる 口縁端部はやや面を持つ 外: 硬墻直線文(6条/1.0cm)一帯 内:不明	灰白色(10YR8/1)	II様式 非河内産 体部内面に粘土粗痕跡
441	弥生 土器	甕	口縁部	III-3	口径25.4cm(復) 器高 23cm(残)	口縁部はゆるく外反し、端部は面を持つ 外:不明 内:不明	灰褐色(7.5YR6/2)	II様式 非河内産 口縁端部に刻み目
442	弥生 土器	甕	口縁部	III-3	口径21.2cm(復) 器高 3.3cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:不明 内:ナデ	灰褐色(7.5YR4/2)	II様式 生駒西麓産
443	弥生 土器	甕 ～体部	口縁 ～体部	III-3	口径22.0cm(復) 器高 5.4cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ヘラミガキ	灰白色(10YR7/1)	II様式 非河内産
444	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	III-3	口径22.4cm(復) 器高 8.1cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部はゆるく外反し、端部はやや面を持つ 外:ヘラミガキ 内:ヘラミガキ	に赤い黄褐色(10YR6/3)	II様式 生駒西麓産
445	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	III-3	口径20.0cm(復) 器高 4.2cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、端部は丸く終わる 外:ヘラミガキ 内:ハケメ	に赤い褐色(7.5YR5/3)	II様式 生駒西麓産
446	弥生 土器	甕	口縁部	III-3	口径30.4cm(復) 器高 2.6cm(残)	口縁部は強く外反し、端部は丸く終わる 外:不明 内:不明	に赤い褐色(5YR6/4)	II様式 生駒西麓産
447	弥生 土器	甕	口縁部	III-3	口径13.4cm(復) 器高 0.9cm(残)	口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外:不明 内:不明	橙色(5YR6/6)	中期 生駒西麓産
448	弥生 土器	甕	口縁部	III-3	口径14.6cm(復) 器高 2.1cm(残)	口縁部は強く外反する 口縁端部は面を持ち、上方へ膨らませる 外:ハケメ 内:ナデ	に赤い橙色(7.5YR7/4)	III～IV様式 非河内産
449	弥生 土器	甕	口縁部	III-3	口径15.8cm(復) 器高 2.9cm(残)	口縁部は強く外反し、端部は面を持つ 外:ナデ 内:不明	灰褐色(10YR6/2)	II様式 非河内産
450	弥生 土器	甕	口縁 ～体部	III-3	口径16.4cm(復) 器高 6.0cm(残)	体部の張りは少ない 口縁部は強く外反し、端部はやや面を持つ 外:ナデ 内:ナデ	外:黒褐色(10YR3/1) 内:褐褐色(10YR5/1)	II様式 生駒西麓産

※ (復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

標識番號	種類	器種	残存部位	地区	断面	法量(cm)	特徴	色調	備考
451	弥生上器	高杯	口縁 ～体部		III-3	口径15.8cm(後) 器高 4.4cm(残)	杯部は浅い椀状を呈する 口縁部は面を持つ 外・櫛描直線文(10条 /1.0cm)三帯 文様帶間にはハラミガキ 内・ナデミミガキ	にぶい黄褐色(10YR7/3)	II様式 非河内産 口縁端部に櫛描波状文
452	弥生上器	高杯	縁部		III-3	底径14.6cm(後) 器高 2.8cm(残)	柄部はゆるく立ち上がる 口縁部は面を持ち、上方へ抵張する 外・ヘラミガキ 内・ナデ	にぶい褐色(7.5YR5/3)	III～IV様式 生駒西麓産 縁端部内面に縦有り
453	弥生上器	高杯	口縁部		III-3	口径24.0cm(後) 器高 2.6cm(残)	口縁部が水平方向へ伸びる 口縁端部を下方へ大きく押張する 外・四線文2条 内・ナデ	橙色(5YR6/6)	III～IV様式 非河内産
454	弥生上器	鉢	口縁部		III-3	口径21.4cm(後) 器高 2.1cm(残)	体部は上方へ立ち上がる 口縁部は段を持つ 外・不明 内・ナデ	にぶい褐色(7.5YR5/3)	III～IV様式 生駒西麓産
455	弥生上器	鉢	口縁部		III-3	口径22.6cm(後) 器高 3.4cm(残)	体部はやや内傾して立ち上がる 口縁部は面を持つ 外・四線文2条 内・ハラミガキ	にぶい褐色(7.5YR6/3)	III～IV様式 生駒西麓産
456	弥生下器	鉢	口縁 ～体部		III-3	口径22.0cm(後) 器高 7.5cm(残)	体部は上方へ立ち上がる 口縁端部は面を持つ 外・櫛描直線文(7条 /1.0cm)二帯 文様帶間にはハラミガキ 内・ナデ後ハラミガキ	灰色(N4/0)	III～IV様式 生駒西麓産 口縁部直下に櫛描波状文
457	弥生下器	壺	口縁部		III-1	器高 14cm(残)	口縁部は大きく外反し、壺部は面を持つ 外・不明 内・不明	暗灰色(N3/0)	I様式 生駒西麓産 口縁端部に縦文
458	弥生下器	壺	口縁部		III-1	器高 19cm(残)	口縁部は大きく外反する 口縁部は面を持ち、下方へ抵張する 外・不明 内・不明	にぶい黄褐色(10YR5/3)	中期 生駒西麓産 口縁端部に櫛描直状文
459	弥生下器	壺	口縁部		III-1	器高 1.9cm(残)	口縁部は下方へ抵張し、相広の面を持つ 外・不明 内・不明	暗灰褐色(25Y5/2)	中期 非河内産 口縁端部に櫛描山形文 口縁下端部に刻み目
460	弥生下器	壺	口縁部		III-1	器高 2.2cm(残)	口縁部は上方へ立ち上がる 口縁部は丸く終わる 外・櫛描波状文(9条 /1.4cm) 内・ナデ?	にぶい褐色(7.5YR5/4)	中期 生駒西麓産
461	弥生上器	壺	口縁部		III-1	器高 3.1cm(残)	体部は上方へ立ち上がる 口縁部は面を持つ 外・點付刻み目文帯 + 3条の四線文 内・ナデ	灰白色(10YR7/2)	中期 非河内産 口縁部に刻み目
462	弥生上器	壺	口縁部		III-1	器高 2.0cm(残)	口縁部はゆるく外反し、壺部は丸く終わる 外・ハケメ 内・ヨコハケ	にぶい黄褐色(10YR5/3)	中期 非河内産 口縁端部に刻み目
463	弥生上器	鉢	口縁部		III-1	器高 2.7cm(残)	体部は上方へ立ち上がる 口縁部は面を持つ 外・ハケメ櫛描直線文二帯 文様帶間にはハラミガキ 内・ハラミガキ	にぶい黄褐色(10YR6/4)	中期 非河内産 口縁端部に列点文
464	弥生上器	鉢	口縁部		III-1	器高 4.0cm(残)	体部は上方へ立ち上がる 口縁部は面を持つ 外・櫛描波状文 櫛描直線文(7条 /1.0cm) 内・ナデ	にぶい黄褐色(10YR6/3)	中期 生駒西麓産 口縁端部に壺形文
465	弥生上器	鉢	口縁部		III-1	器高 5.7cm(残)	体部は外方に立ち上がる 口縁部は面を持つ 外・櫛描刻点文二帯 内・ナデ	灰黄色(25Y6/2)	中期 非河内産 口縁端部に円形刻文

(※) (復) は復元径、(残) は残存高・残存長を表す

拂岡 団版	種類	器種	残存 部位	地区 位置	法量(cm)	特徴	色調	備考
466	弥生 土器	一	体部	III-1		外:ナデ 内:ハケメ	暗灰黄色(25Y5/2)	中期 生駒西麓産 断面二角形の突帯貼付 突密上に刷み目
467	弥生 土器	一	体部	III-1		外:ハケ後ヘラ引き沈線5条 内:ナデ	にぶい黄橙色(10YR7/2)	I様式 非河内産
468	弥生 土器	一	体部	III-1		外:ヘラ引き沈線5条 内:ナデ	灰色(3Y5/1)	I様式 生駒西麓産
469	弥生 土器	一	体部	III-1		外:ヘラ引き沈線4条 内:ナデ	にぶい橙色(5YR6/4)	I様式 生駒西麓産
470	弥生 土器	一	体部	III-1		外:ヘラミガキ後 柳葉直線文(10条/16cm)二帶 内:ヘラミガキ	暗灰黄色(25Y5/2)	中期 生駒西麓産
471	弥生 土器	一	体部	III-1		外:柳葉直線文(5条/10cm)二帶 文様帶間にヘラミガキ 内:ナデ	にぶい赤褐色(5YR5/3)	中期 生駒西麓産
472	弥生 土器	一	体部	III-1		外:ハケ後ナデ 柳葉直線文(6条/10cm)二帶 内:ハケメ	灰黃褐色(10YR6/2)	中期 非河内産
473	弥生 土器	一	体部	III-1		外:柳葉直線文(5条/10cm)二帶 直線文間に崩形文を施す 内:ナデ	灰黃褐色(10YR4/2)	中期 生駒西麓産
474	弥生 土器	一	体部	III-1		外:ハケ後柳葉直線文(9条/13cm) 内:ナデ	灰黃褐色(10YR5/2)	中期 生駒西麓産
475	弥生 土器	長脚部	脚部	III-1		外:ハケ後柳葉直線文(7条/11cm)五帶 内:ナデ	にぶい褐色(5YR6/3)	中期 非河内産
476	弥生 土器	短脚部	脚部	III-1		外:柳葉直線文(9条/12cm)三帶 文様帶間にヘラミガキ 内:ナデ	にぶい褐色(7.5YR6/4)	中期 非河内産
477	弥生 土器	一	脚部	III-1		外:柳葉直線文(9条/13cm)四帶 文様帶間にヘラミガキ 内:ナデ	にぶい褐色(7.5YR5/4)	中期 生駒西麓産
478	弥生 土器	一	体部	III-1		外:柳葉直線文(11条/13cm)二帶 柳葉波状文 文様帶間にヘラミガキ 内:ナデ	褐色(10YR4/1)	中期 生駒西麓産
479	弥生 土器	一	体部	III-1		外:柳葉直線文 内:ナデ	にぶい赤褐色(5YR5/4)	中期 生駒西麓産
480	弥生 土器	一	体部	III-1		外:柳葉直線文(13条/20cm)一帶 柳葉波状文(13条/20cm)二帶 文様帶間にヘラミガキ 内:ナデ	灰黃褐色(10YR5/2)	中期 生駒西麓産

※（復）は復元件、（残）は残存高・残存長を表す

番号 図版	種類	器種	残存 部位	地区 層位	法量(cm)	特徴	色調	備考
481	彌生 土器	一	体部	III-1		外: 脊描兼状文(10条/1.4cm)三帯 内: ヘラミガキ	灰黄褐色(10YR5/2)	中期 非河内産
482	彌生 土器	一	体部	III-1		外: 脊描直線文 内: ヘラミガキ	褐色(10YR3/1)	中期 非河内産
483	彌生 土器	壺	体部	III-1		外: ヘラミガキ後 内: 脊描直線文と扇形文	黄灰色(25Y5/1)	中期 生駒西麓産
484	彌生 土器	壺	頸部	III-1		外: ヘラミガキ 内: ナデ	灰褐色(7.5YR5/2)	中期 非河内産 断面二角形の突帯を 2条貼付
485	彌生 土器	壺	頸部	III-1		外: ハケメ 内: ナデ	褐色(25YR6/6)	中期 生駒西麓産 指による押圧文を施した 突帯を透す
486	彌生 土器	一	体部	III-1		外: 脊描直線文 内: ナデ	暗灰褐色(25Y5/2)	中期 非河内産
487	縄文 土器	漆鉢	口縁部	III-2		口縁部はゆるく外反し、端部はやや曲を持つ 外: 不明 内: 不明	灰白色(10YR7/1)	縄文晚期 継承式 生駒西麓産 口縁部に1条の沈線後 刻み目
488	縄文 土器	漆鉢	口縁部	III-2		体部は外上方へ立ち上がる 口縁部で小さく内傾し、端部は丸く終わる 外: ハラケツリ 内: 小崩	にぶい黄褐色(10YR4/3)	縄文晚期 生駒西麓産
489	彌生 土器	一	体部	III-1		外: ナデ 内: ナデ	にぶい褐色(7.5YR5/3)	I 株式 生駒西麓産 外腹に2条の縦割 断面三角形の突帯跡付 突带上に刻み目
490	彌生 土器	一	体部	III-2		外: ハケ後ヘラ接き沈線4条 内: ナデ	暗灰褐色(25Y5/2)	I 株式 生駒西麓産
491	彌生 土器	鉢	体部	III-2		外: 脊描兼状文(14条/1.7cm)二帯 内: ヘラミガキ	灰褐色(7.5YR5/2)	中期 生駒西麓産
492	彌生 土器	壺	体部	III-2		外: ハケ後縦割直線文(6条/1.2cm): 内: ハケメ	にぶい褐色(7.5YR7/4)	中期 非河内産
493	彌生 土器	長颈甕	頸部	III-2		外: 脊描直線文(11条/1.4cm)三帯 内: ナデ	灰黃褐色(10YR6/2)	中期 非河内産
494	彌生 土器	壺	体部	III-3		外: ヘラ描き沈線3条(段を表現する) 内: ナデ	にぶい褐色(7.5YR6/3)	I 株式 生駒西麓産
495	彌生 土器	一	体部	III-3		外: 脊描扇形文三段 内: ナデ	にぶい黄褐色(10YR6/3)	中期 非河内産

※(復)は復元件、(残)は残存高・残存長を表す

絶固 編版	種類	器種	残存 部位	地区 部位	法量(cm)	特徴	色調	備考
496	弥生 土器	—	体部	III-3		外:4箇所の小円孔 内:ナデ	に赤い橙色(7.5YR7/4)	中期 青洞内窓 高杯脚? 多孔土器?
497	弥生 土器	—	体部	III-3		外:箇所横状文(11条/1.8cm)四帶 内:ナデ	灰黄褐色(10YR6/2)	中期 牛馬西窓
498	上製品	円盤状 土製品	—	III-1	長径 4.7cm 短径 4.3cm 厚さ 0.7cm	外:ハラミガキ 内:ナデ	黄褐色(25Y5/3)	中期
499	上製品	円盤状 土製品	—	III-1	長径 4.1cm 短径 3.5cm 厚さ 1.0cm	外:ハラミガキ 内:ナデ	黒褐色(25Y3/1)	中期
500	石器	打製 石器	定形	III-1	長さ 61cm 幅 12cm 厚さ 0.9cm	縁刃を丁寧な押圧削離で仕上げる	暗灰色(N3/0)	サスカイト製 無刃は摩滅している
501	石器	打製 石器	ほぼ 定形	III-2	長さ 4.7cm(残) 幅 1.9cm 厚さ 0.5cm	縁刃を丁寧な押圧削離で仕上げる	暗灰色(N3/0)	サスカイト製 凸基底式
502	石器	打製 石器	定形	III-2	長さ 2.7cm 幅 1.3cm 厚さ 0.4cm	縁刃を丁寧な押圧削離で仕上げる	暗灰色(N3/0)	サスカイト製 凸基底式
503	石器	石器 未完成	—	III-1	長さ 69cm 幅 4.1cm 厚さ 1.7cm	表面に擦痕がある	灰色(N4/0)	粘板岩製

※(復)は復元径、(残)は残存高・残存長を表す

IV. まとめ

今回の第64次調査について、近接の既調査の結果を念頭に入れながら、弥生時代を中心にして各地区の状況を概観しておく。

I 地区は第38次調査地の東隣で、鬼虎川遺跡の北端に位置する。今回は工事立会のため土層の観察のみを行った。その結果、遺構は見られず、掘削土からも遺物は出土しなかった。第38次調査の成果では弥生時代中期の遺物包含層が検出されたが、遺物は希薄であったことが確認されている。また、国道170号線と308号線が交差する一帯では東西方向に並行する3条の大溝が検出されている。この大溝を境界として、南側では弥生時代の遺物が多量に出土したが、北側ではその出土量が著しく減少することが確認されている。これらのことから当地区は、弥生時代中期には主要な集落域から外れていたと考えられる。

II 地区は第44次調査地と第62次調査地の間、III 地区は II 地区の南側、第58次調査地の南東に隣接する。夜間工事のため土層の観察と平面の調査はできなかった。遺物は掘削面積に対して多く、弥生時代の土器が多量に出土したほか、石器、土製品、角製品があった。土器は弥生時代中期のものがほとんどであり、両地区とともに全体の90%以上を占める。残りは前期のものであり、II 地区では約5%、III 地区では約10%出土している。後期の土器は確認できなかった。今回の調査で遺物が出土した層位は、II 地区は第62次調査の15～17層、III 地区は第58次調査の14～17層に相当する。これらは整地層であることが確認されている。本調査で出土した土器のはほとんどが破片であり、完形品が僅かなことも整地層であることを裏付けている。これらの出土土器の傾向は既調査で確認された状況と合致する。

これまでの調査を含め、本遺跡では後期の遺物や遺構が希薄であることから、この頃には集落は廃絶または移動したものと考えられる。当遺跡の東に位置する西ノ辻遺跡では、後期初頭頃の堅穴住居跡が検出されている。また、南東の鬼塚遺跡でも後期の土器とともに堅穴住居跡が確認されていることから、これらの土地へ移動した可能性も考えられる。

（参考文献）

- ・東大阪市文化財協会 1997 『鬼虎川遺跡北部の歴史時代耕作地跡と地質層序－国道170号線被覆箇地蔵交差点立体交差事業に伴う鬼虎川遺跡第38次発掘調査報告－』
- ・東大阪市教育委員会 2000 『一般国道170号西石切立体交差事業に伴う鬼虎川遺跡第44次発掘調査報告』
- ・東大阪市教育委員会 2006 『一般国道170号西石切立体交差事業に伴う鬼虎川遺跡第58・60次発掘調査報告』
- ・東大阪市教育委員会 2008 『一般国道170号西石切立体交差事業に伴う鬼虎川遺跡第62・63次発掘調査報告』
- ・東大阪市遺跡保護調査会 1979 『東大阪市埋蔵文化財包掘地調査概報19 鬼塚遺跡Ⅱ・若江遺跡発掘調査報告書』
- ・東大阪市教育委員会 2001 『第27章 西ノ辻遺跡の第43次調査』『東大阪市下水道事業関係発掘調査報告－平成12年度－』

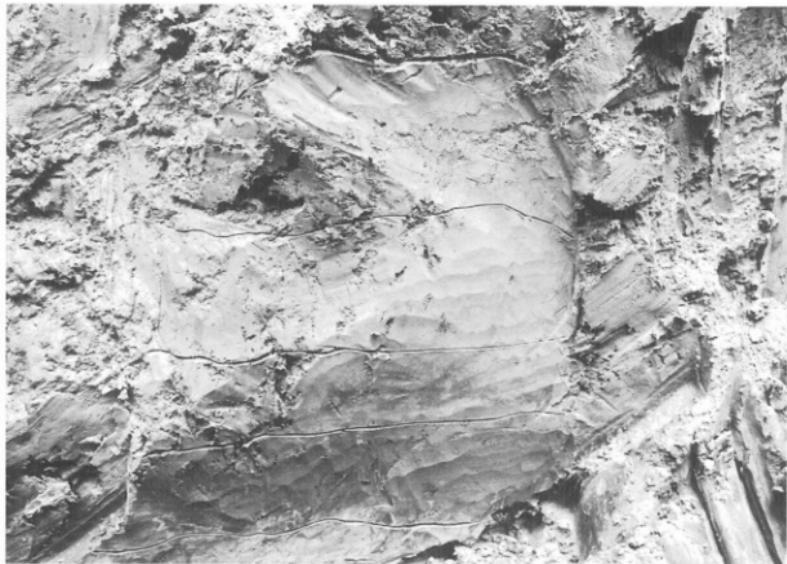
図 版



1. I 地区 調査地遠景（北東から）



2. I 地区 北側西壁土層断面



1. 1地区 南側西壁土層断面



2. 残土置き場（東から）



1. II 地区 調査地遠景（北東から）



2. II 地区 遺物精査作業風景（東から）

図版 4
遺構



1. Ⅲ地区 調査地遠景（北から）



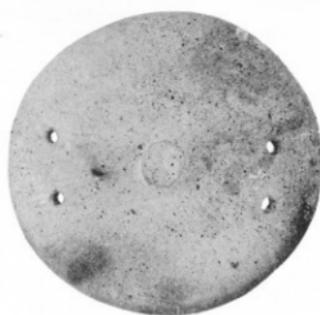
2. Ⅲ地区 遺物精査作業風景（東から）



185



244



189'



190'



189



190



189"

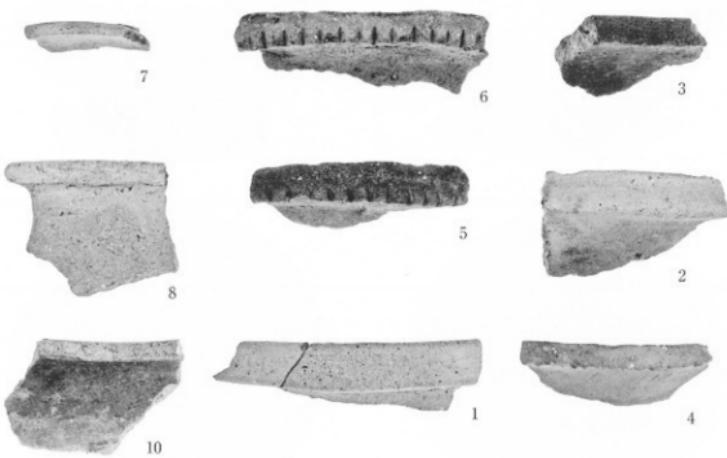


190"

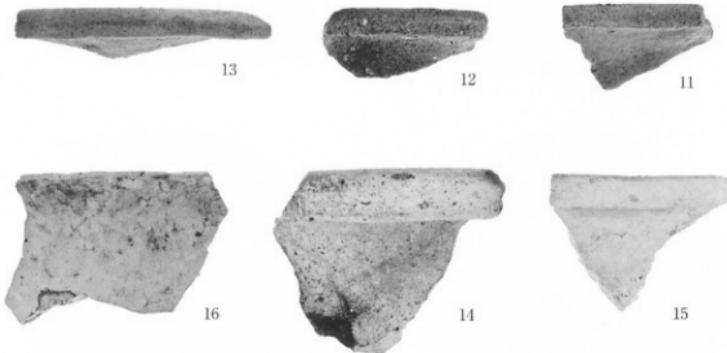
II - 2 層出土弥生土器 鉢・壺蓋、II - 3 層出土弥生土器 鉢

圖版
6

遺物



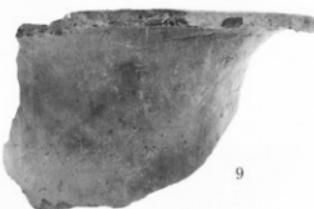
1. II - 1 層出土弥生土器 瓷



2. II - 1 層出土弥生土器 瓷



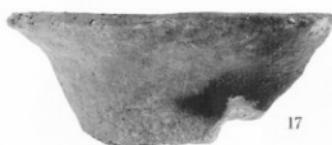
18



9



20



17



19

1. II - 1 層出土弥生土器 壺



26



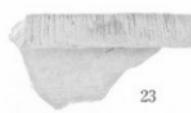
25



21



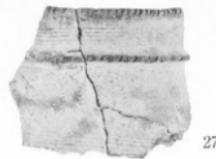
24



23



22

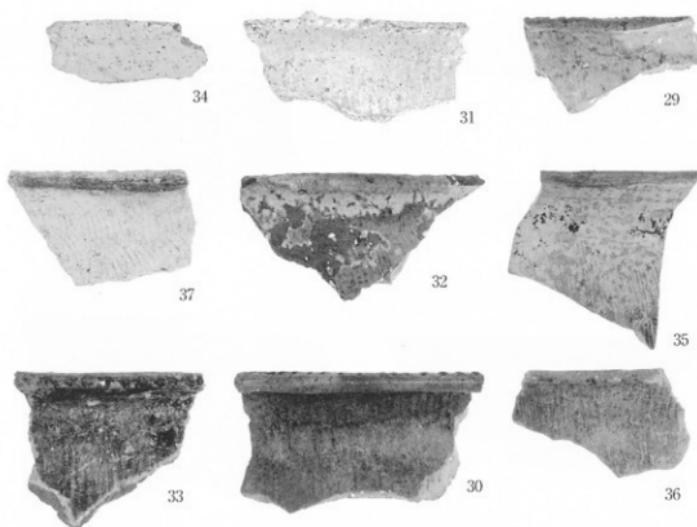


27

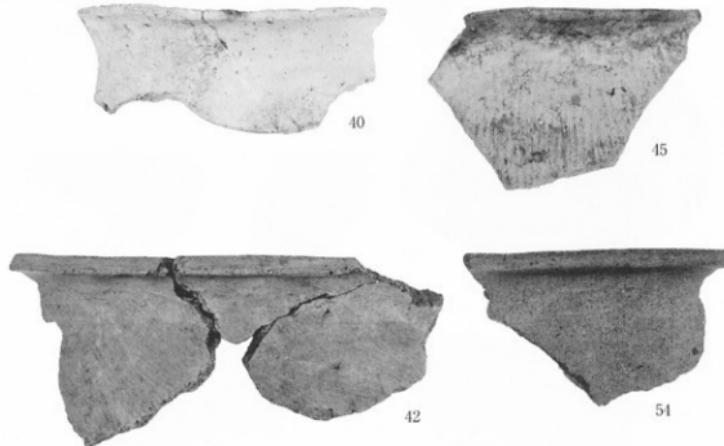
2. II - 1 層出土弥生土器 壺・長頸壺・無頸壺

図版 8

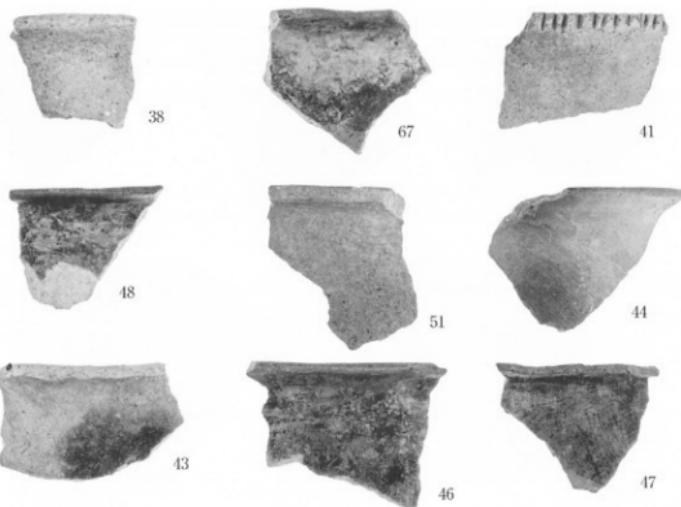
遺物



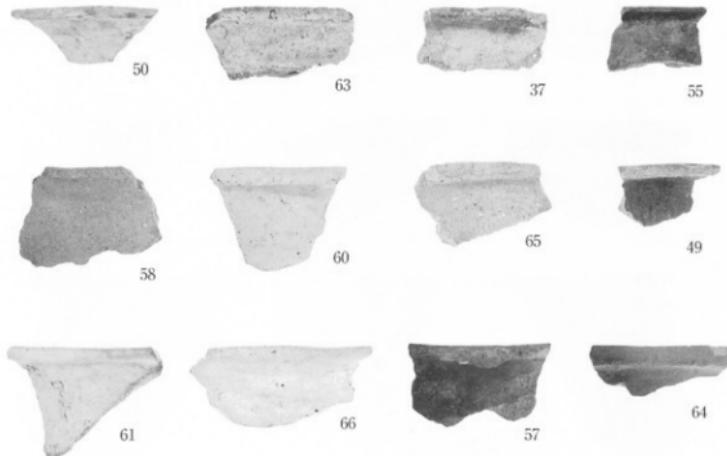
1. II-1層出土弥生土器 壺



2. II-1層出土弥生土器 壺



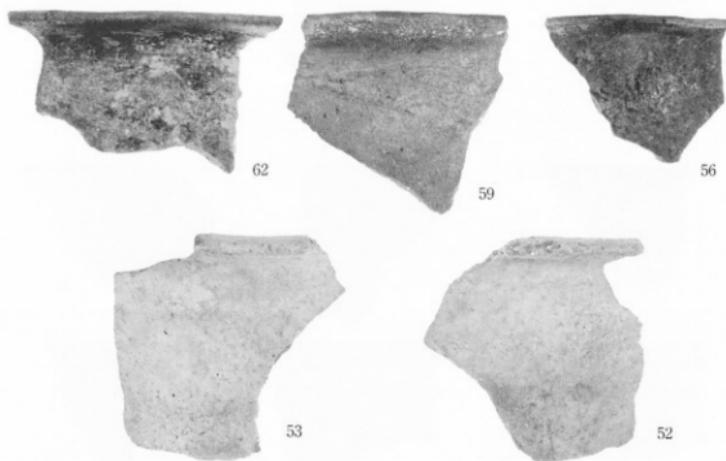
1. II-1層出土弥生土器 寛



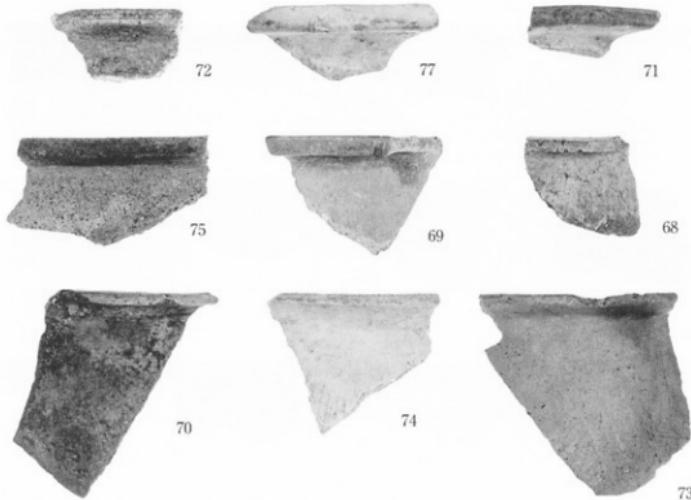
2. II-1層出土弥生土器 寛

図版
10

遺物



1. II - I 層出土弥生土器 麦

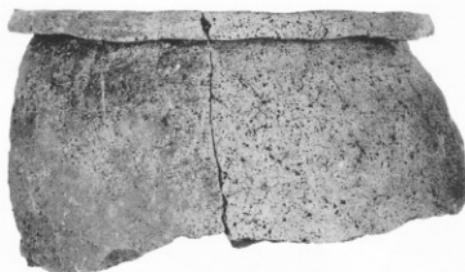


2. II - I 層出土弥生土器 麦



81

82



76

1. II - 1 層出土弥生土器 壺・鉢



84



83



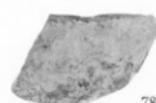
79



86



87



78



85

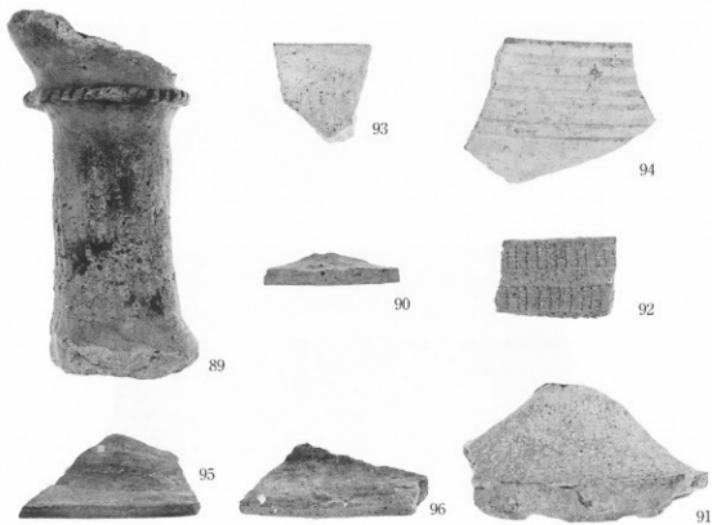


88

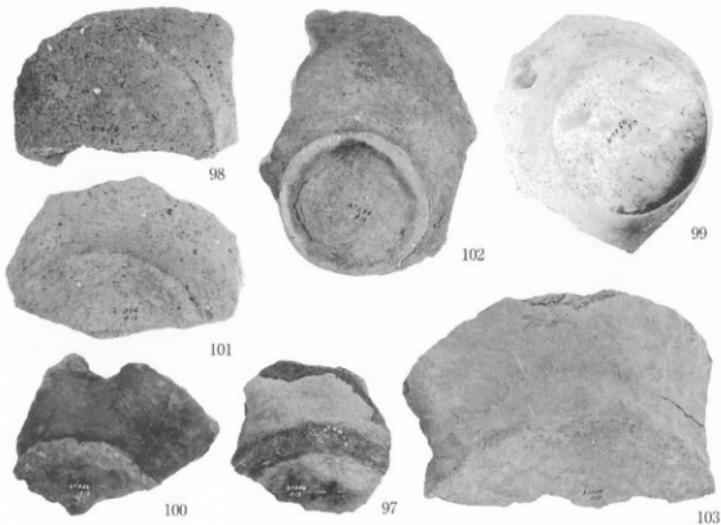
80



2. II - 1 層出土弥生土器 壺・鉢



1. II - 1層出土弥生土器 高杯・蓋



2. II - 1層出土弥生土器 底部



105



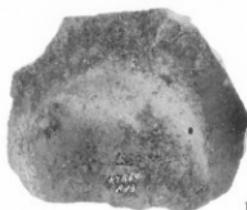
106



104



107



109



108

1. II - 1 層出土弥生土器 底部



113



115



112



114



110



111

2. II - 1 层出土弥生土器 底部

図版
14

遺物



125



117



124



126



119



118



121



132



116

1. II - 2 層出土縄文土器 深鉢、弥生土器 壺



123



122



120



139

2. II - 2 層出土弥生土器 壺・細頸壺



135



130



128



133



136



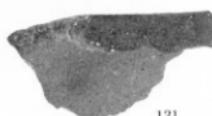
127



129



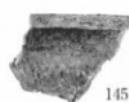
134



131



144



145



146



142



143



138



140



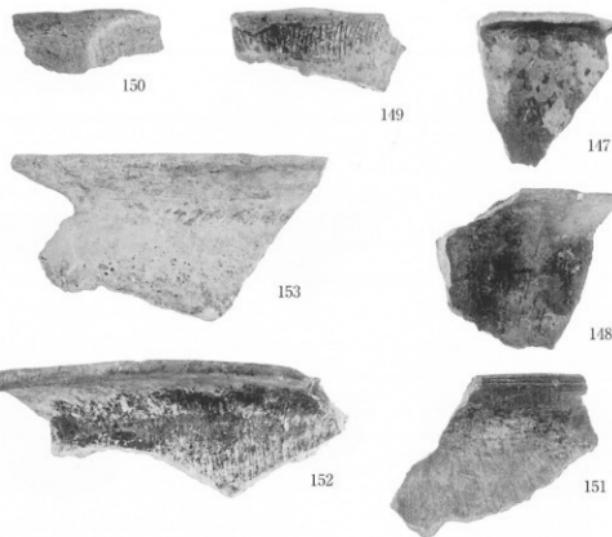
141



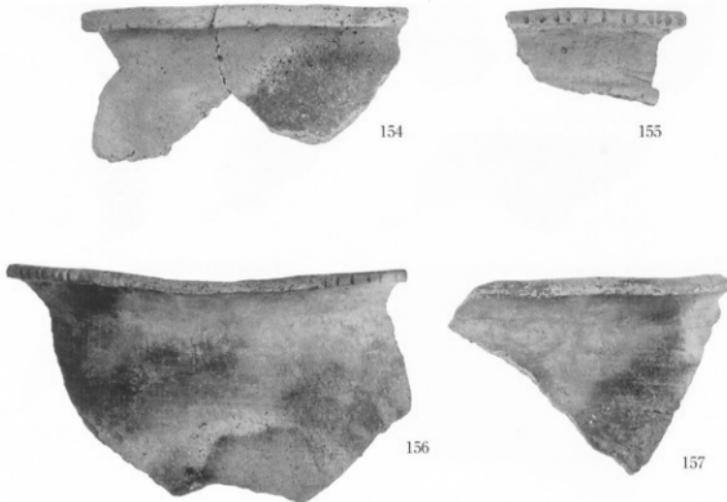
137

1. II - 2 層出土弥生土器 壺

2. II - 2 層出土弥生土器 無頸壺・細頸壺・壺



1. II - 2層出土弥生土器 瓢



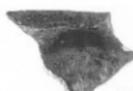
2. II - 2層出土弥生土器 瓢



158



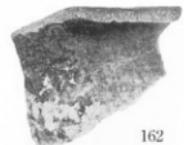
165



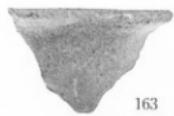
159



166



162



163



164



161



160

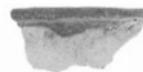
1. II - 2 層出土弥生土器 麦



168



173



170



174



169



176



172



171



175

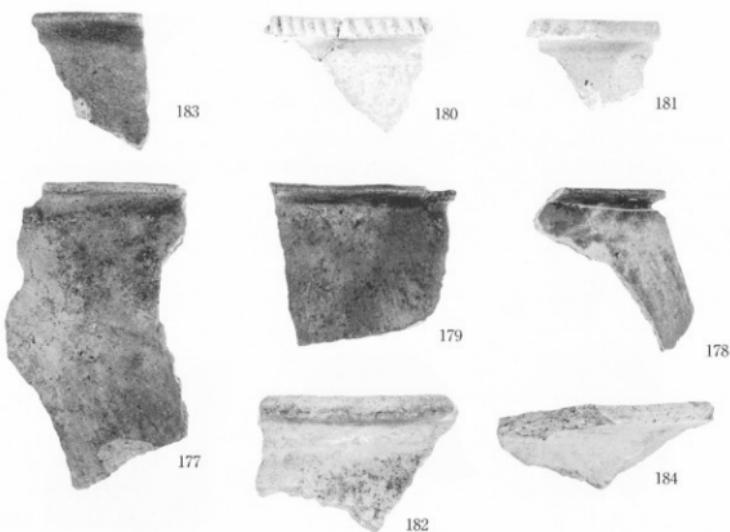


167

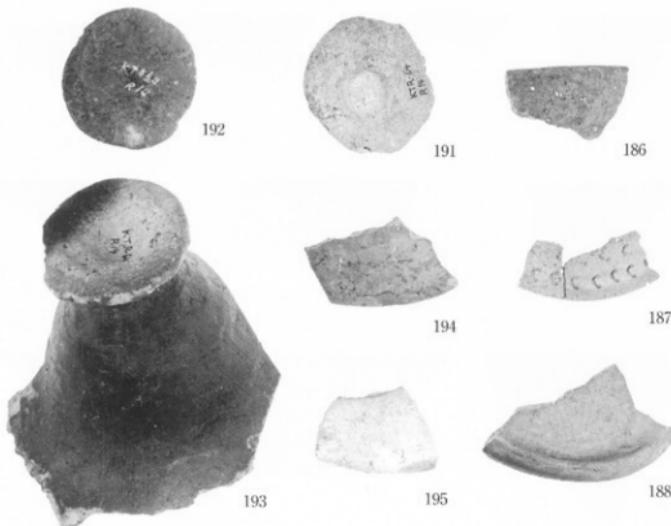
2. II - 2 層出土弥生土器 麦

図版
18

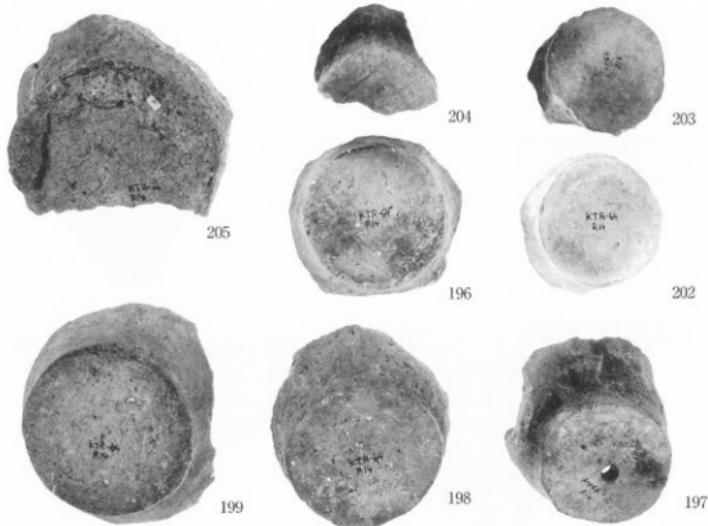
遺物



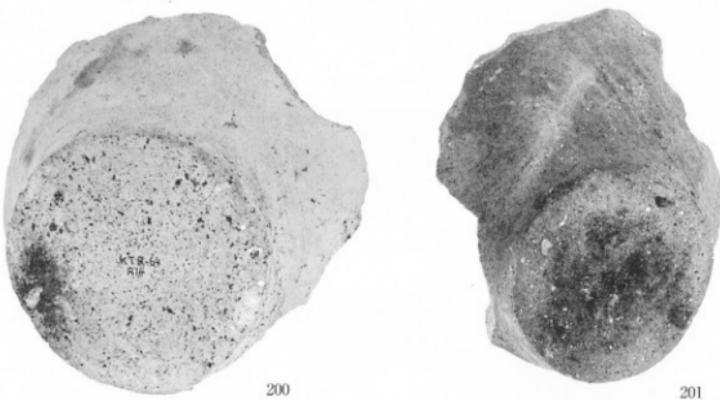
1. II-2層出土弥生土器 壺・鉢



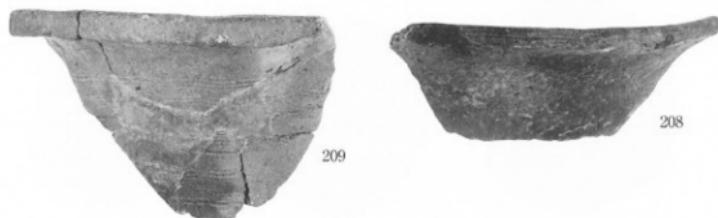
2. II-2層出土弥生土器 高杯・壺蓋



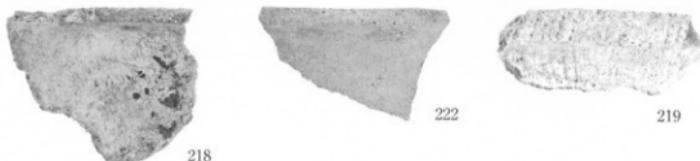
1. II - 2 層出土弥生土器 底部



2. II - 2 層出土弥生土器 底部



1. II - 3層出土弥生土器 壺



2. II - 3層出土弥生土器 壺



221



220

1. II - 3層出土弥生土器 壺



231



230



226



233



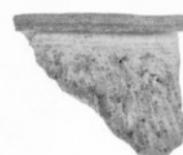
227



228



235

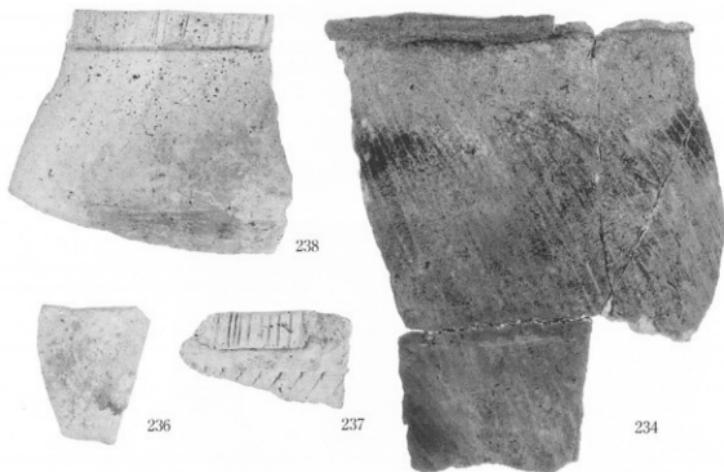


232

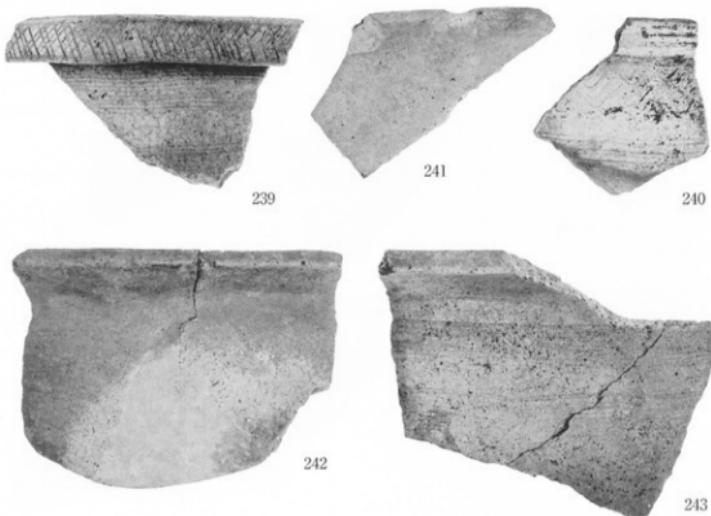


229

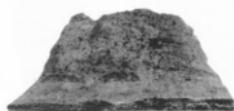
2. II - 3層出土弥生土器 壺



1. II - 3 層出土弥生土器 瓢・小型鉢・鉢



2. II - 3 層出土弥生土器 鉢



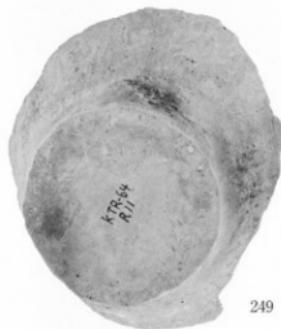
247



248



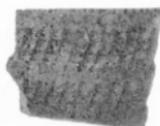
246



249



250



245

1. II - 3 層出土弥生土器 高杯・蓋・底部



254



257



255



253



251



256

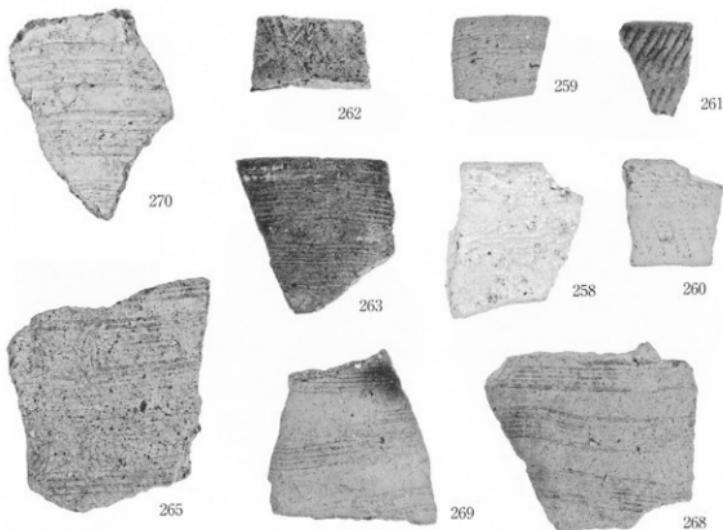


252

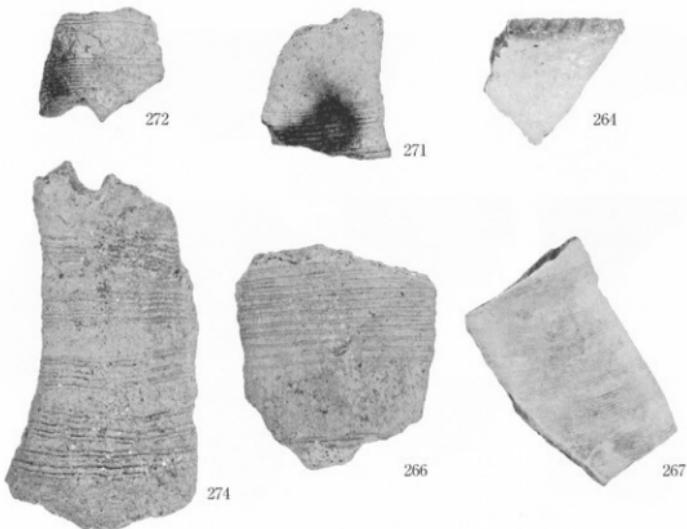
2. II - 4 層出土弥生土器 無類壺・壺・甕

図版24

遺物

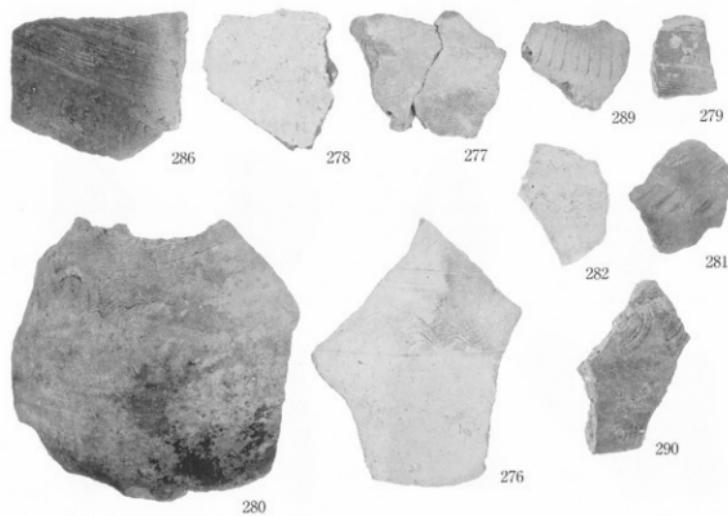


1. II地区出土弥生土器文様

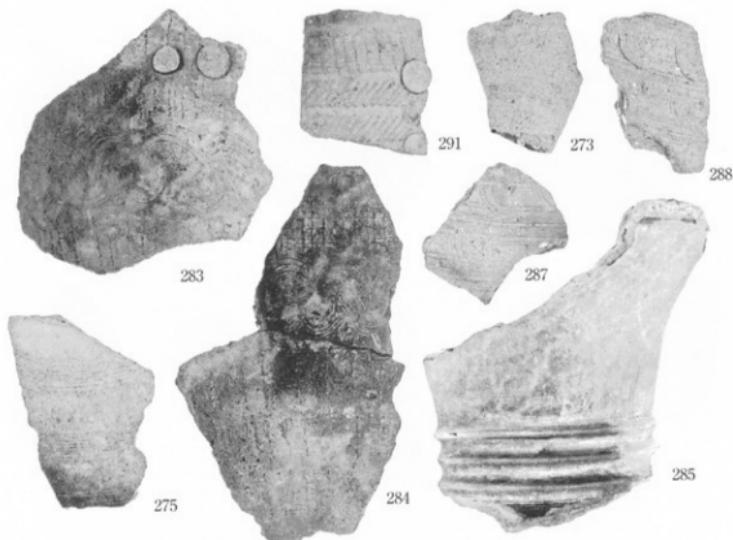


2. II地区出土弥生土器文様

圖版 25
遺物



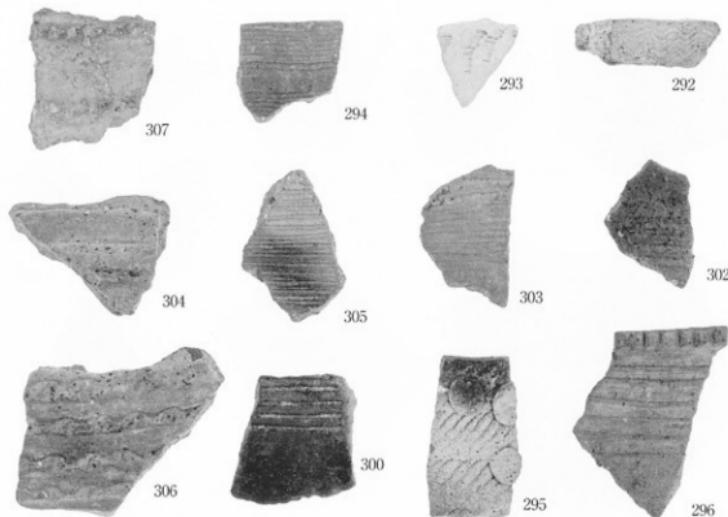
I. II 地區出土弥生土器文様



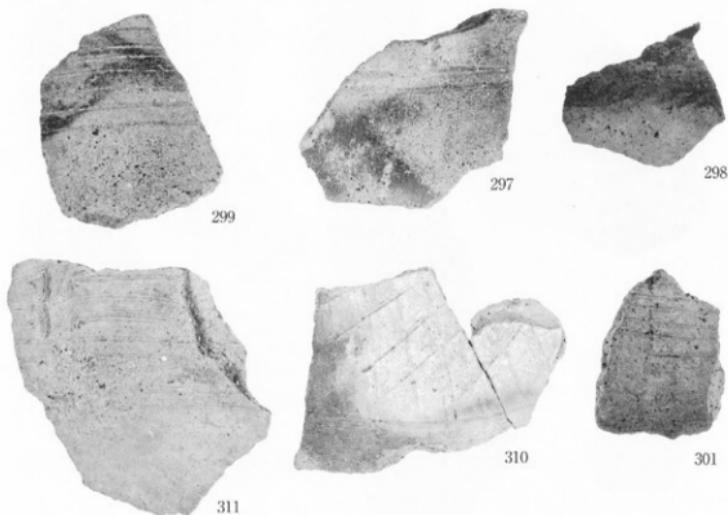
2. II 地區出土弥生土器文様

図版
26

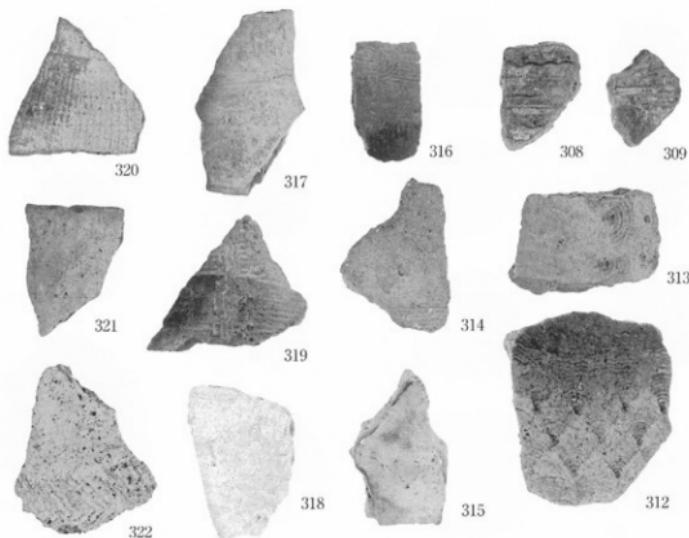
遺物



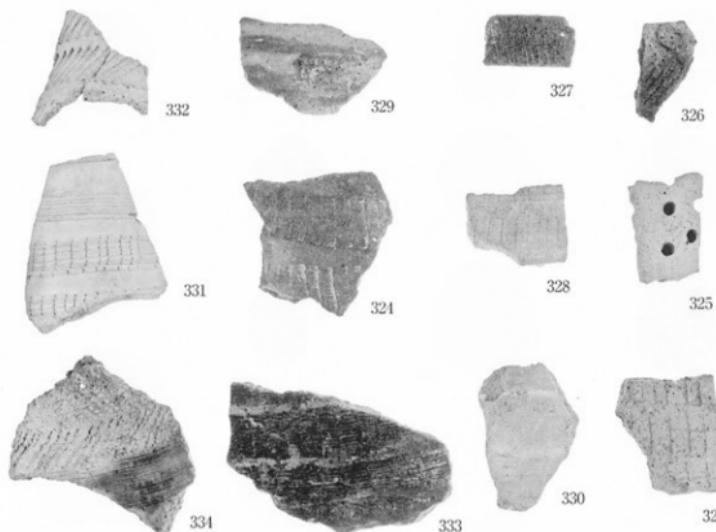
1. II地区出土弥生土器文様



2. II地区出土弥生土器文様



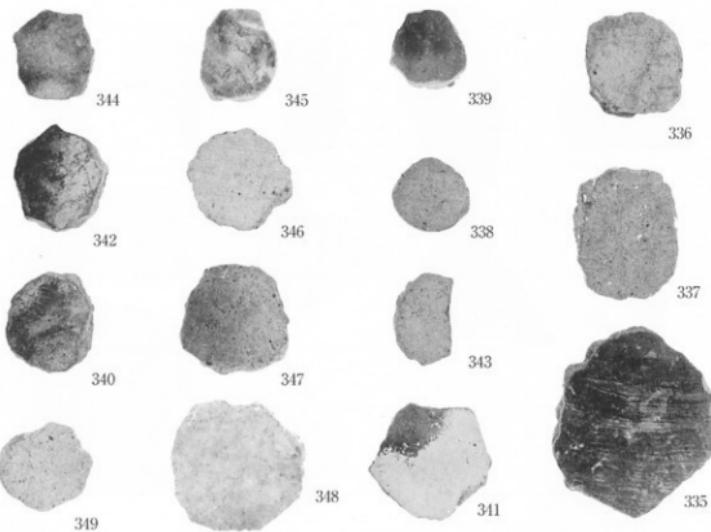
1. II 地区出土弥生土器文様



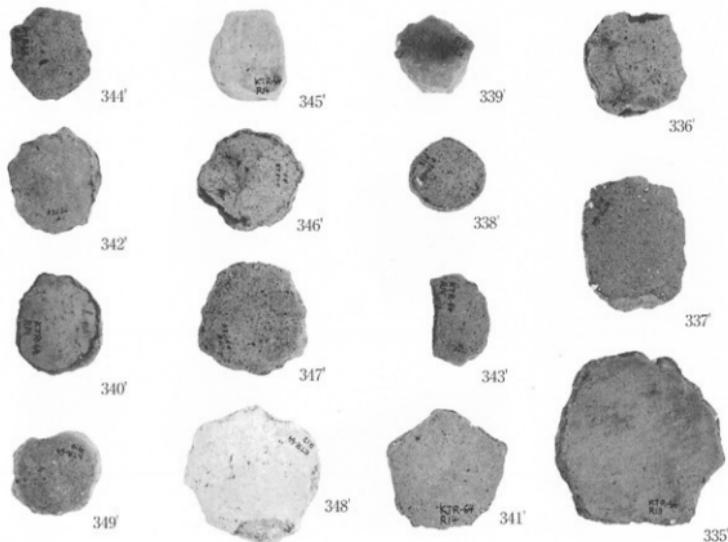
2. II 地区出土弥生土器文様

図版
28

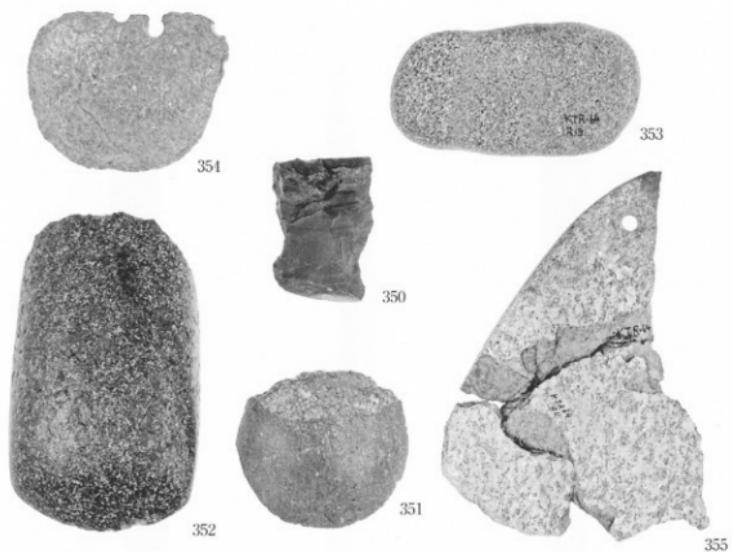
遺物



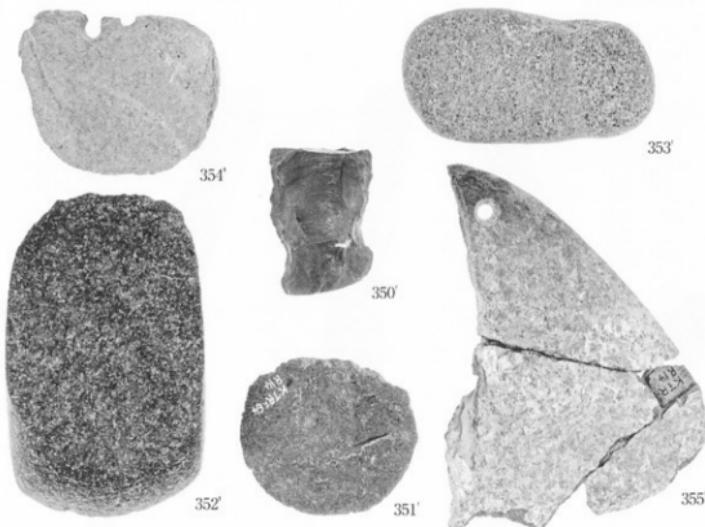
1. II 地区出土土器品（表）



2. 同上（裏）



1. II 地区出土石器 (表)



2. 同上 (裏)



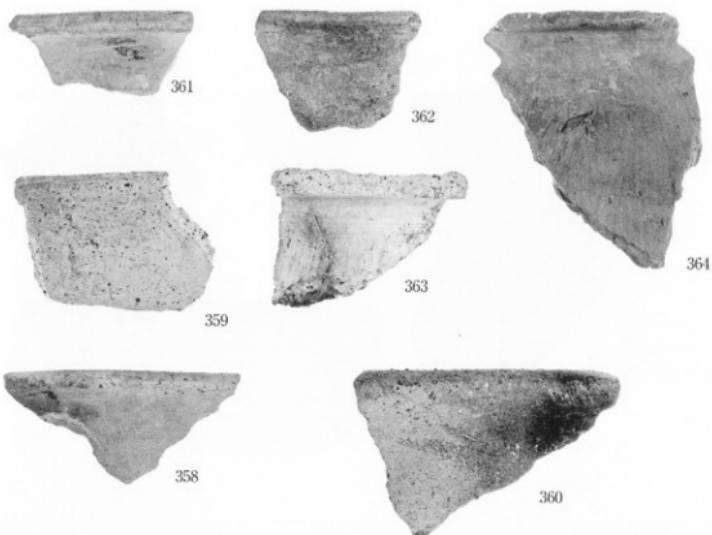
356

1. II-2層出土角製品

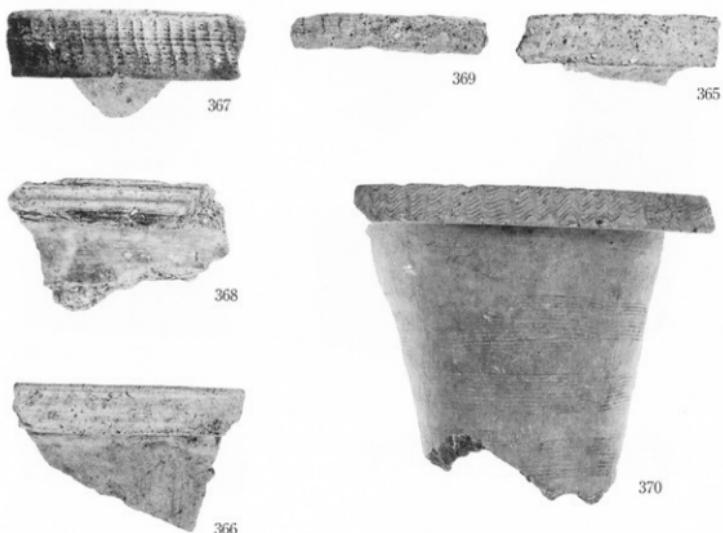


357

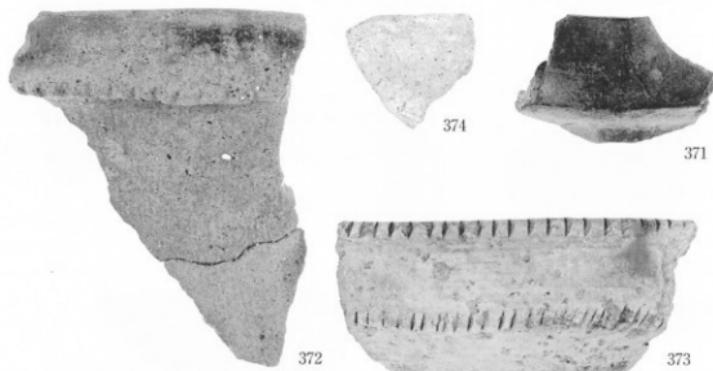
2. II-1層出土角未成品



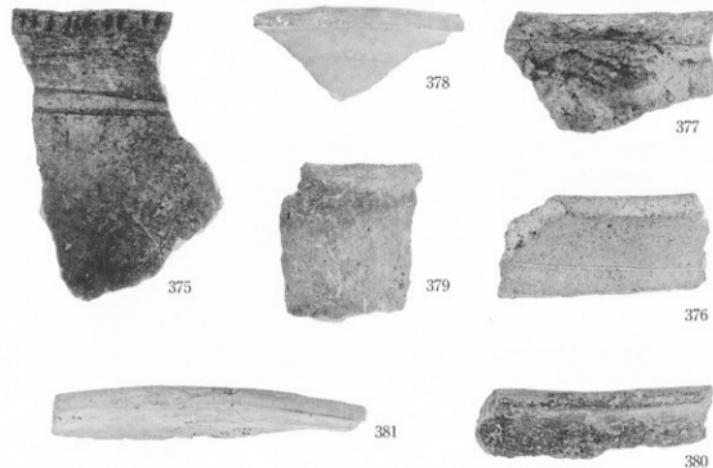
1. III-1層出土弥生土器 壺



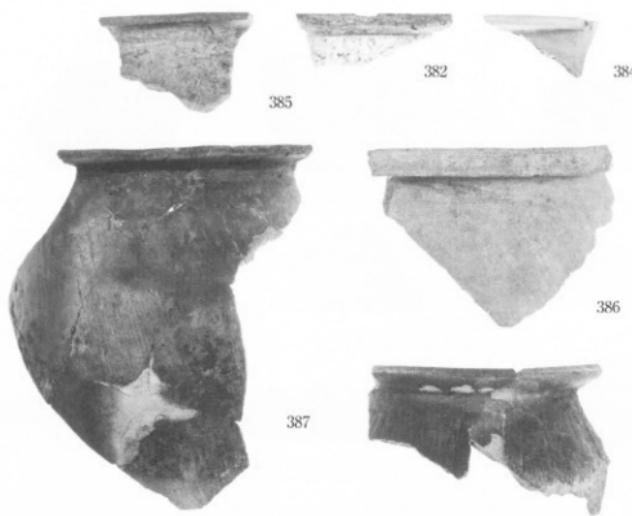
2. III-1層出土弥生土器 壺



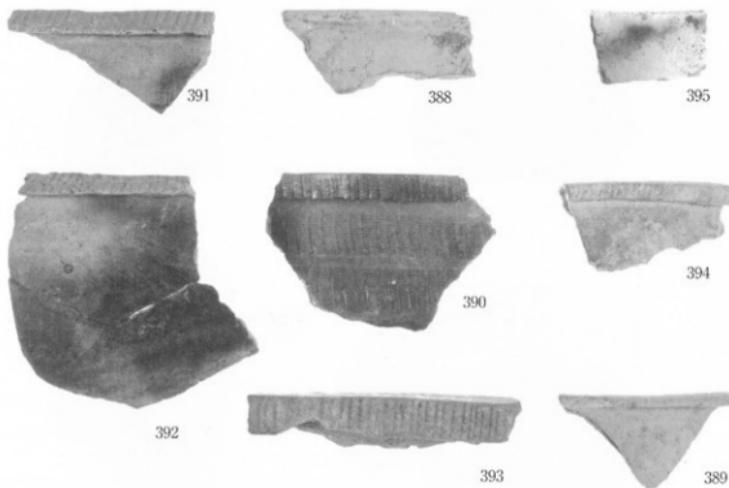
1. III-1層出土弥生土器 壺・水差形土器



2. III-1層出土弥生土器 壺



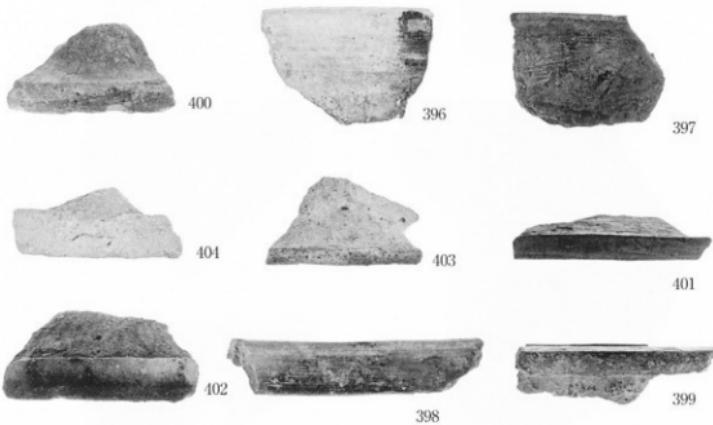
1. III-1層出土弥生土器 瓢



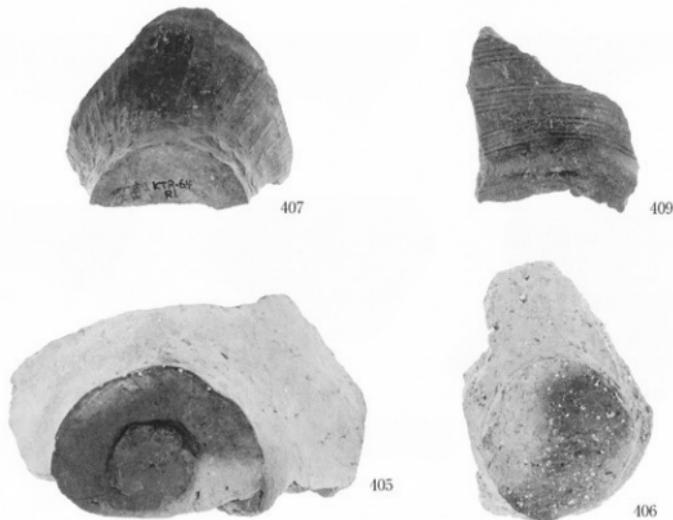
2. III-1層出土弥生土器 鍋

圖版
34

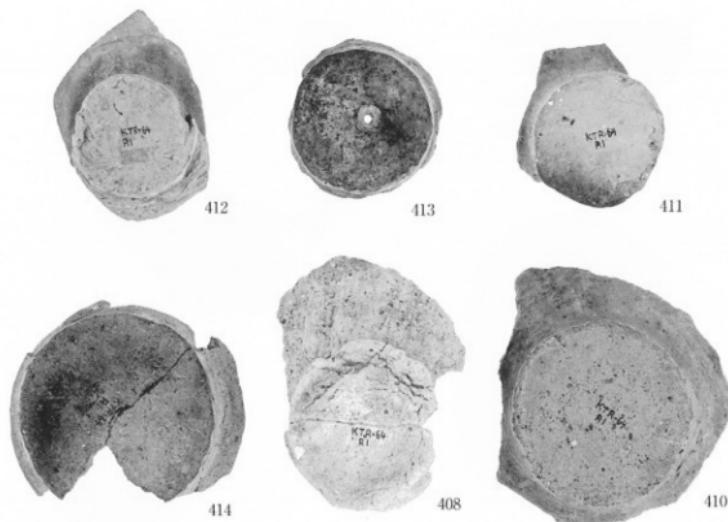
遺物



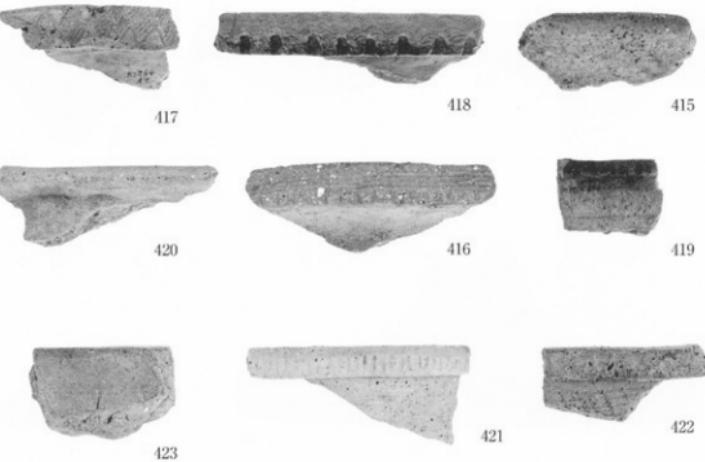
1. III-1層出土弥生土器 高杯



2. III-1層出土弥生土器 蓋・底部



1. III-1層出土弥生土器 底部



2. III-2層出土弥生土器 壺・壺・鉢



425



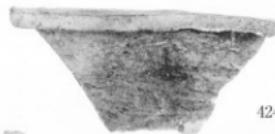
426



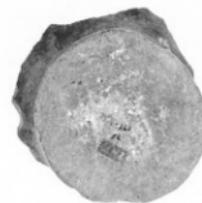
434



431



424



433

1. III-2層出土弥生土器 鉢・蓋・底部



428



429



427

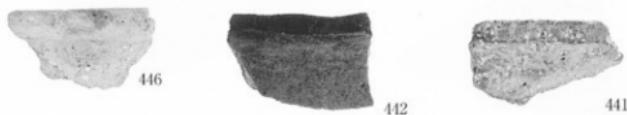
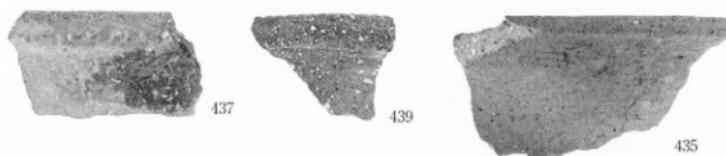


430

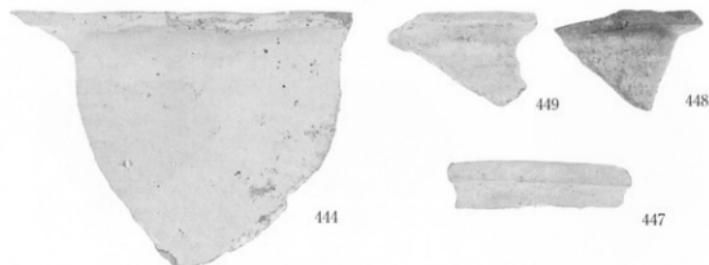


432

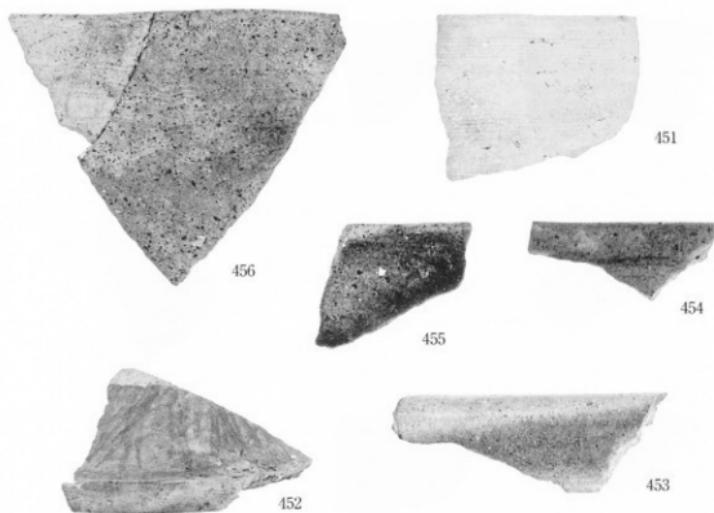
2. III-2層出土弥生土器 高杯



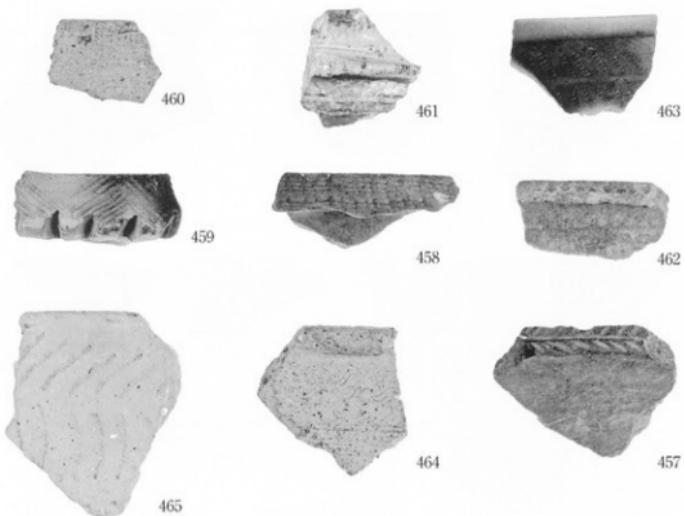
1. III - 3 層出土弥生土器 壺・無頸壺・甕



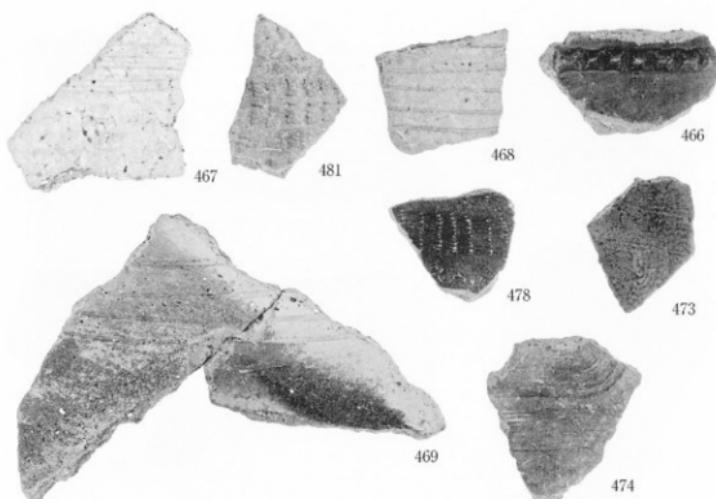
2. III - 3 層出土弥生土器 甕



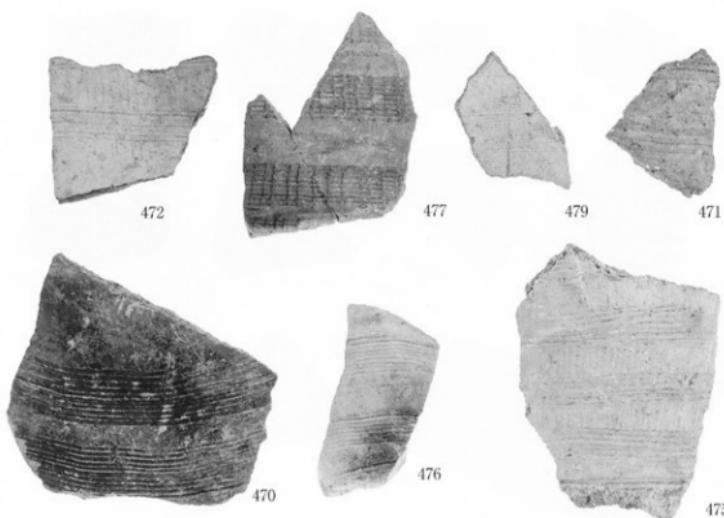
1. III - 3層出土弥生土器 高杯・鉢



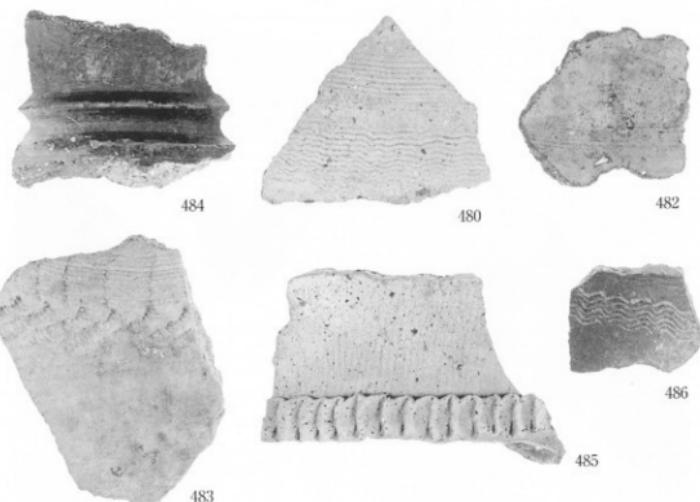
2. III 地區出土弥生土器文様



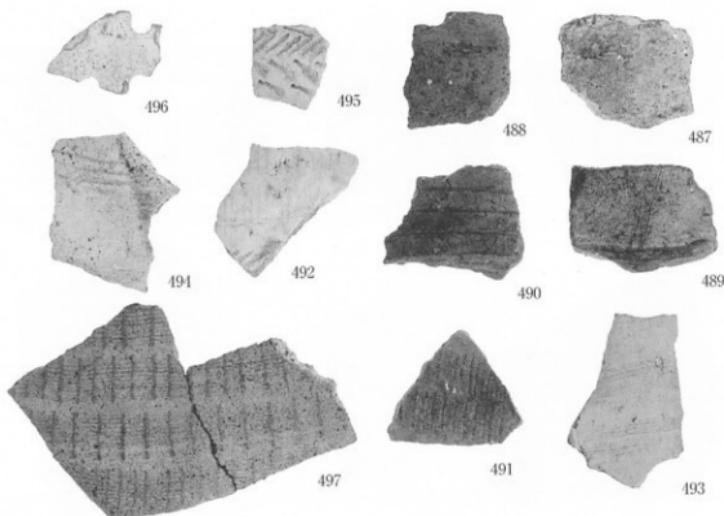
1. III地区出土弥生土器文様



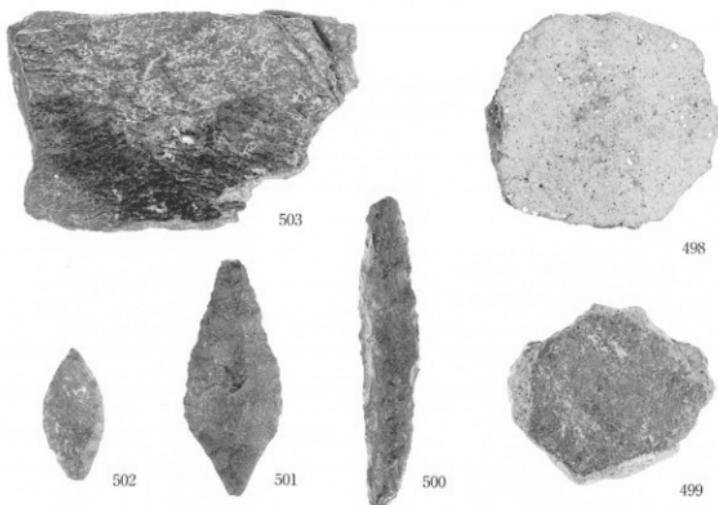
2. III地区出土弥生土器文様



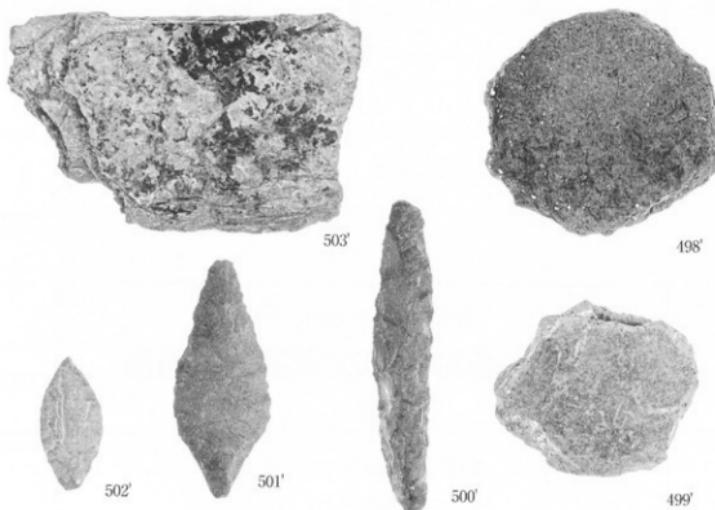
1. III地区出土弥生土器文様



2. III-2層出土縄文土器 深鉢、III地区出土弥生土器文様



1. I, III地区出土土製品、石器（表）



2. 同上（裏）

報告書抄録

ふりがな	きとらがわいせきだい64じはくつちょうさほうこく					
書名	鬼虎川遺跡第64次発掘調査報告					
副書名						
巻次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	若松博惠・武田雄志					
編集機関	東大阪市教育委員会					
所在地	〒577-8521 大阪府東大阪市荒本1丁目1番1号 TEL06-4309-3283					
発行機関	東大阪市教育委員会					
発行年月日	2009年3月31日					
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	市町村 コード	遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因
鬼虎川遺跡	大阪府東大阪市 西石切町1番地 弥生町17番地 宝町23番地	27227	46	平成19年 12月25日 ～ 平成20年 8月18日	458m ²	送水管布 設替工事
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
遺物包含層	弥生時代	なし	縄文土器 弥生土器 石製品・土製品 骨角器	なし		

送水管布設替工事に伴う

鬼虎川遺跡第64次発掘調査報告

平成21年3月31日

発行 東大阪市教育委員会

印刷 株式会社ミラテック

